

【益田市03】益田市木部町 R9 沿い 井戸正朋君頌徳碑

所在地 益田市木部町 R9 沿い

北緯 34° 44' 42.46" / 東経 131° 52' 25.37"



(単位: cm)
 碑石 高さ196/幅110/奥行40
 台石 高さ11/幅175/奥行75

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸正朋君頌徳碑
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 国道9号の緩いカーブの外側でJR山陰線のすぐ上になる。海難者慰霊塔とともに立っている。以前はすぐ隣に理容亀嶋館があったが、拡張工事に伴い、転居されたようだ。碑の後ろには日本海が広がり、高島も見える位置だが、ここを選んで建立されたのかどうかはわからない。
 高島にも井戸公碑が1基あり、2つの碑が向かい合うような位置に立っていて興味深い。碑石は目の粗い茶色っぽい、大きな自然石。傷みはない。
 (調査日2020年4月15日)



【益田市04】益田市木部町 R9 沿い 泰雲院殿子孫榮

所在地 益田市木部町 R9 沿い

北緯 34° 44' 42.46" / 東経 131° 52' 25.37" (前碑と共通)



(単位: cm)
 碑石 高さ28/幅14/奥行14

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿子孫榮
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 前碑(No.3)のすぐそばにある。写真を単独で見ると大きさがわからないが、高さは28センチと非常に小さな碑で、親子のよう。前面以外に文字がないのでわからないが、おそらく前碑を建立した発起人さんたちが「お世話になった井戸公のご子孫も栄えておられるように」との祈りを込めたのだろう。
 碑石はNo.3と違い、目が粗く堅そうにない灰色の自然石。傷みはないようだ。小さな碑だが、大切にしたい。
 (調査日2020年4月15日)



【益田市05】益田市遠田町井ノ迫 海岸道路 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 益田市遠田町井ノ迫 海岸道路 地藏堂横

北緯34°43'72.44" / 東経131°51'23.95"



(調査日2020年9月17日)

近所の方によると、山の中にあつたものをここに移設したといい、今でも毎年地区で供養しているという。いつもどなたかが手入れをされているのだから、調査時もきれいだった。碑石は灰色の自然石で白っぽい苔がいくらか生えている

【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】十方信者
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士(右に) 明治廿五年/十月式六日(左に) 十方信者造立
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】遠田港近くの海岸道路沿いにある地藏堂広場にある。碑は台石を4段も積み、周囲にツツジを植えて公園のように整備されている。

碑石 高さ173/幅60/奥行30
 台石1段目 高さ8/幅110/奥行55
 台石2段目 高さ18/幅150/奥行105
 台石3段目 高さ40/幅210/奥行200
 台石4段目 高さ20/幅300/奥行370



【益田市06】益田市元町吉田 延命寺 大師堂横 (梵)泰雲院殿義岳良忠居

所在地 益田市元町吉田 延命寺 大師堂横

北緯34°40'25.32" / 東経131°50'19.86"



(調査日2021年6月10日)

延命寺の太子堂の横に立つ。台石はなく、背の高い碑の一部が土に埋まっているようで、「居士」の「土」が見えない。碑石は軟らかそうに見える灰色の墓石型。傷みも、苔もなく、すらりと立っている。

【建立年】昭和22年(1947)
 【建立者】不明
 【碑石前面】(梵)泰雲院殿義岳良忠居
 【碑石右面】享保十八年五月廿七日 井戸平左エ門正明「碑石左面」昭和二十二年十一月吉日 / 初代延命寺住職植松宥教「碑石後面」雲松子上田□心子□
 【調査の経過】

(単位: cm)
 碑石 高さ139/幅33/奥行16



【益田市07】益田市高津町 高津川土手 芋塚

所在地 益田市高津町 高津川土手 地藏堂横

北緯34°40'12.38" / 東経131°43'10.49"



(調査日2020年9月17日)

〔建立年〕不明
 〔建立者〕不明
 〔碑石前面〕芋塚
 〔碑石左面〕井戸平左衛門
 〔そのほか〕文字なし
 〔調査の経過〕
 高津川の土手の道路にある地藏堂の横に立つ。比較的小さな碑で、全体の感じが新しい。彫つてある文字が少なく、建立者は彫つてないが、地藏堂の南側の後ろの方に立つており、あるいは個人の方が地藏堂の隣に建てさせてほしいと願われて建てられたのかもしれない。碑石は硬そうな茶色の自然石。1段目の台石も同素材だ。



(単位：cm)

碑石 高さ50/幅29/奥行29
 台石1段目
 高さ21/幅55/奥行55
 台石2段目(コンクリート)
 高さ6/幅71/奥行72

【益田市08】益田市小浜町 明圓寺 井戸正明殿碑

所在地 益田市小浜町 明圓寺境内

北緯34°40'24.85" / 東経131°43'52.58"



(調査日2021年6月10日)

〔建立年〕不明
 〔建立者〕(発起者名等あり)
 〔碑石前面〕井戸正明殿碑
 〔一段目台石〕(前面) 発起者/戸田/佐々木近太郎/小浜/浜野海十/キアミ/宮内房太郎/世話人/小浜/大島久五郎/中村助太/浜田源助/戸田/藤岡助十/児玉新治/伊藤元吉(左面)キアミ/大石伊太郎/森内末松/原田吉蔵/飯浦/松江ヒデ(右面)一金老円/三浦直三郎/一金五十菱/戸田/綾部政之助/キアミ/宮内□蔵/全コバア/田村寛一
 〔調査の経過〕
 明圓寺の石段を上がった右手にあり、現在明らかに成っている井戸公碑のうち最も西に位置する碑だ。茶色っぽい大きな自然石で、前面だけ磨いて灰色面を出して文字を彫っている。



碑石 高さ183/幅63/奥行31
 台石1段目
 高さ29/幅64/奥行45
 台石2段目
 高さ17/幅98/奥行75
 台石3段目
 高さ26/幅156/奥行126

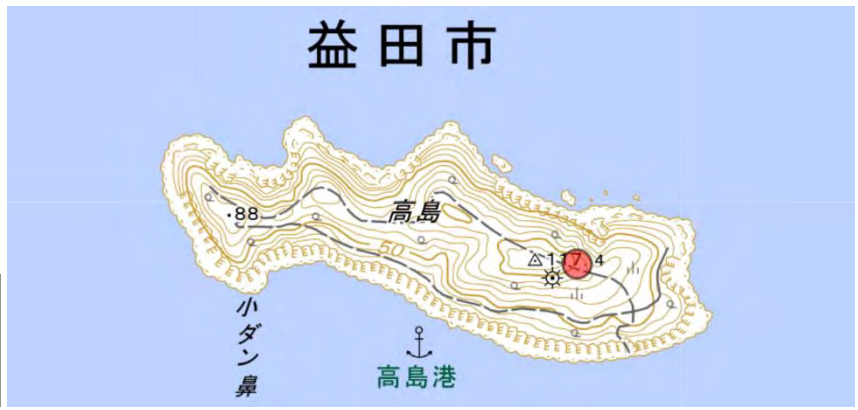
【益田市09】益田市高島 灯台への道沿い 井戸正明君之碑

所在地 益田市高島 灯台への道沿い

北緯34° 50' 06.67" / 東経131° 50' 20.65"



【建立年】昭和12年（1937）
 【建立者】高島婦人會
 【碑石前面】井戸正明君之碑
 【碑石後面】昭和十二年二月十一日／高島婦人會建之
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 現在は無人島の高島。渡船で渡る計画を立て、天気と相談の上やつと上陸。集落跡を過ぎ、灯台に向かう途中の道の北側に立っていた。灯台のために手入れされているのか、碑の周囲は草もなく、御影石の碑石もきれいなまま、島内で手配したと思われる台石の上に乗っていた。米ができなかつた高島で、サツマイモは長く島の住民の命を支えてきた。その恩に応えようと昭和12年に婦人會の皆さんとの力でこの碑が建立された。
 （調査日2020年11月13日）



(単位：cm)
 碑石 高さ77/幅33/奥行19
 台石 高さ20/幅98/奥行102

【益田市10】益田市美都町小原堀 四つ山城址北登口 なし

所在地 益田市美都町小原堀 四つ山城址北登口

北緯34° 41' 05.66" / 東経131° 55' 30.16"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石】文字なし
 【調査の経過】
 美都町小原の県道309号から西に折れるとこの地域のシンボル、四つ山城址への北登り口になる。この三差路の内側に広場があり、そこに小さな地藏堂とこの碑が立っている。
 台石はなく、碑石は少し地中に埋まっているようだ。
 石質はそう硬そうにない、茶色がかった灰色の自然石で、傷みはないようだ。白や緑の苔が少し生えている。
 地藏と一緒に、登山する人を静かに見守っている。
 （調査日2021年6月10日）



(単位：cm)
 碑石 高さ120/幅50/奥行37

【益田市 11】 益田市美都町東仙道 元JA事務所前 **井戸正明之碑**

所在地 益田市美都町東仙道 元JA事務所前

北緯 34° 40' 44.37" / 東経 131° 55' 57.41"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸正明之碑
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 美都町の仙道郷の東仙道郵便局の隣に元JAの事務所があり、その前に立っている。事務所前が庭園になっていたが、最初に訪れたときには庭木が生長していて碑が見えなくなっていた。公民館でそのことを話すと、数日後に、館長さんから再整備したとの連絡。碑が見えるようになった。
 碑は硬そうな灰色の自然石で上部が割れていて針金が巻かれている。碑の下部も石の厚みも薄く一部が欠けているので、存続が心配だ。碑の隣には説明板もある（下欄に記載）。



(単位: cm)
 碑石 高さ100/幅40/奥行23
 台石 高さ27/幅70/奥行102

【益田市 11】 益田市美都町東仙道 元JA事務所前 **井戸正明之碑** 続き (説明板)



彰徳
 冷害の為に一粒の米も麦もとれなかった
 芋大官様が芋を作ることを教えられた それによつて村人は救われた
 いつまでも この恩を忘れてはならない
 河野家のお許しを得てこの所に移し永く徳を称える

(調査日)
 2021年7月1日

写真右は再整備によって見えるようになった井戸公碑と説明板。
 井戸公碑は別の場所にあったものを約60年前にこの場所に移設したという。
 碑の前に立ててある説明板は厚さ20cmの御影石の表面を磨き上げて碑文を彫っている。高さ63cm、幅75cm。



【益田市12】益田市美都町丸茂下 大智寺 泰雲院殿

所在地 益田市美都町丸茂下 大智寺 境内

北緯34°40'26.21" / 東経132°00'05.66"

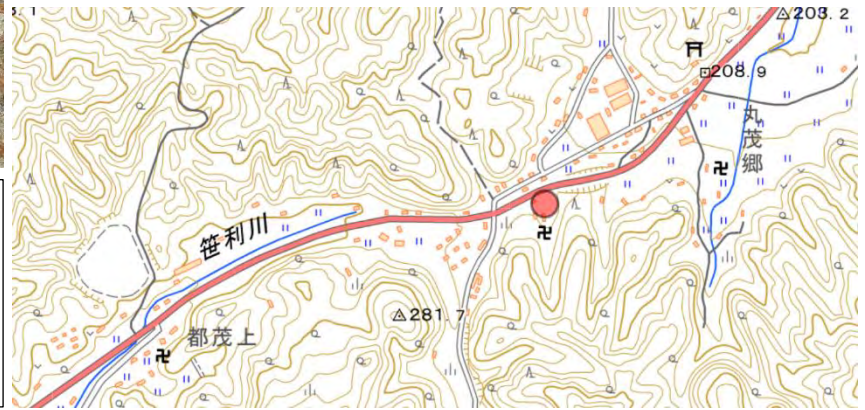


(調査日2021年6月10日)

【調査の経過】
国道191号沿いにある大智寺の境内に立っている。碑石は目の細かい茶色の自然石。ご住職が言われるままに碑石を叩いてみると、中が空洞になっているのか金属音がする。不思議な感覚だ。
碑石に彫られた文字も多くて情報量が多い。

【建立年】明治42年(1909)
【建立者】(願主名あり)
【碑石前面】泰雲院殿
【碑石後面】明治四十二年三月二十一日立/願主/塩溝幾太/久保朝治/世話人/弥重かつよ/同柳治/同せつ子/高東運送渡辺岩市/竹藤文二/小椋徳太/寺尾三一良/大谷亀太良/野崎代作/十方施主/川上宅十郎

(単位: cm)
碑石 高さ153/幅56/奥行44
台石1段目
高さ31/幅129/奥行100
台石2段目
高さ20/幅182/奥行172



【益田市13】益田市美都町丸茂 明正寺 なし

所在地 益田市美都町丸茂 明正寺 裏庭

北緯34°42'08.01" / 東経131°59'11.13"

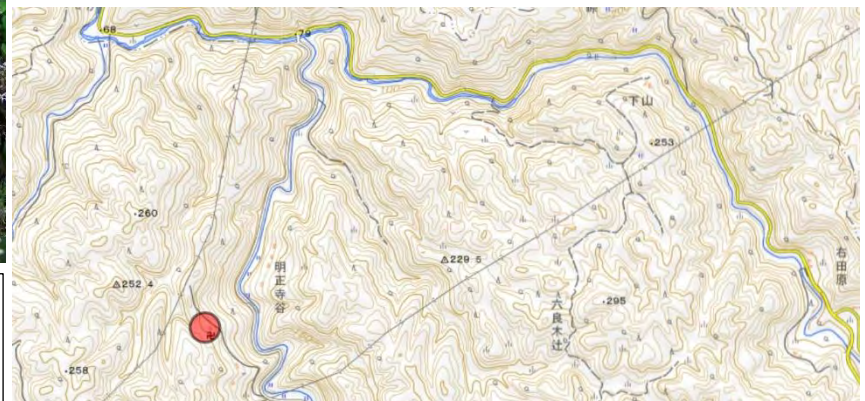


(調査日2021年7月1日)

石質は灰色の自然石で、前面には白っぽい苔が多い。側面には節理があるので、剥離が起るかもしれないが、ここまでは傷みもなく持っている。

【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石・台石】文字なし
【調査の経過】
大智寺と同じ丸茂だが、国道からはかなり距離があるように見えたので、北側の県道48号から向かった。
ご住職から裏庭にあると聞いて、本堂を回って裏庭に。かなり広い庭で、その中央付近の山側に立っていた。
碑石には文字は何も彫っていない。

(単位: cm)
碑石 高さ118/幅60/奥行12
台石 高さ28/幅125/奥行不明



【益田市14】益田市美都町宇津川 K34 沿い 新宮橋近く 泰雲院殿之碑

所在地 益田市美都町宇津川 K34 沿い 新宮橋近く

北緯 34° 41' 27.68" / 東経 132° 01' 42.56"



(調査日 2021年7月1日)

台石は2段とも大きな石をきちんと組み合わせであり、頑丈な構造に見える。すぐ前に座った地蔵があり、動かしには少し大きかったし、割烹着と帽子が可愛く、まるで石碑を守っているように見えたので、そのまま写真を撮った。石碑は硬そうな黒っぽい自然石である。

【建立年】大正10年(1921)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿之碑
 【碑石右面】河野為市刻
 【碑石後面】大正十年四月一日健之
 【調査の経過】
 県道34号新宮橋の東側を少し南におりた細い道沿いに立っている。

(単位: cm)
 碑石 高さ107/幅63/奥行31
 台石1段目
 高さ33/幅127/奥行130
 台石2段目
 高さ50/幅190/奥行170



【益田市15】益田市美都町板井川 神田橋近く 泰雲院殿之碑

所在地 益田市美都町板井川 神田橋近く K34 沿い

北緯 34° 42' 18.45" / 東経 132° 02' 56.62"

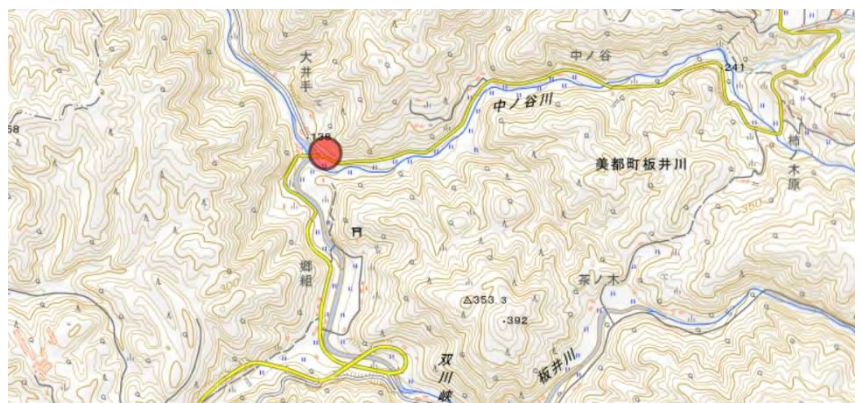


(調査日 2021年7月1日)

美都町板井川の県道34号にかかる神田橋のすぐ東の三差路の道路沿いに、地蔵と並んで立っている。路側帯の外側の砂利の場所に石を10個以上並べて置き場所を造り、井戸公碑はその上にさらに1段の台石を積んで立っている。石碑は少し茶色がかった灰色の自然石で、傷みはないようだ。石質が固いのか碑銘の文字の彫りが浅いようだ。

【建立年】大正12年(1923)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿之碑
 【碑石右面】大正十二年七月四日
 建之
 【調査の経過】

(単位: cm)
 碑石 高さ135/幅43/奥行45
 台石 高さ14/幅106/奥行不明



【益田市16】益田市美都町板井川 茶ノ木橋先道路沿い なし

所在地 益田市美都町板井川 茶ノ木橋先道路沿い

北緯34°42'03.45" / 東経132°03'40.31"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方の紹介による。昔から芋塚と呼んでいたという。昔から板井川沿いの道路から茶ノ木橋を渡って山の方に入り、約200m山道を進むと左手のカブの内側に立っている。道路は弥栄町に至るので、昔ここは街道だったのかもしれない。石碑の下に石があるが、台石かどうかはつきりしないので、ここでは台石なしとした。
 文字も何か彫ってあったかもしれないが今は全く読めない。白い石のように見えるが、元々は灰色の自然石で、苔が生えており、多少剥離も見える。
 (調査日2021年7月1日)



(単位：cm)

碑石 高さ105/幅35/奥行24

【益田市17】益田市美都町長橋 祠内 南无阿弥陀佛 井戸正明君碑

所在地 益田市美都町長橋 祠内

北緯34°40'30.60" / 東経132°03'17.26"



【建立年】大正2年(1913)
 【建立者】河野升太
 【碑石前面】南无阿弥陀仏 / 井戸正明君碑(右に) 大正二年六月(左に) 施主 河野升太
 【調査の経過】
 美都町長橋の国道191号と長橋川の間細い道があり、その道から少し上がったところに地藏堂がある。その地藏堂の隣に張り出す形で小さなお堂があって、扉を開けるとこの碑だけが収まっている。
 河野さんが石碑と一緒にこの工作物も建てたのだろう。非常に狭く、碑は後ろの壁にもたれかかっているので、碑石後面の文字は読めなかった。
 碑石は灰色の自然石で、壁と天井があるので傷みも苔もない。
 (調査日2021年7月1日)



(単位：cm)

碑石 高さ95/幅47/奥行13

【益田市 18】 益田市美都町宇津川横見 ニツ倉との境 井戸平左エ門つか

所在地 益田市美都町宇津川横見 ニツ倉との境

北緯 34° 41' 07.94" / 東経 132° 02' 39.50"



【建立年】不明
 【建立者】(発起人名あり)
 【碑石前面】井戸平左エ門つか
 【碑石右面】ホキ人/サイトウ/イチベエ
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方の案内による。美都町宇津川の横見とニツ倉を結ぶ旧道沿いにある。この道は現在ほとんど使われておらず、車も入らないが、以前は2つの集落の行き来のための往来がかなりあった。碑は倒れているが上から見える2面の文字は読むことができた。
 碑石は灰色の自然石で傷みは少なく、苔が少しある。

(調査日 2022年3月25日)



(単位: cm)

碑石 高さ133/幅47/奥行40

【益田市 19】 益田市美都町宇津川右田原 仏の峠 なし

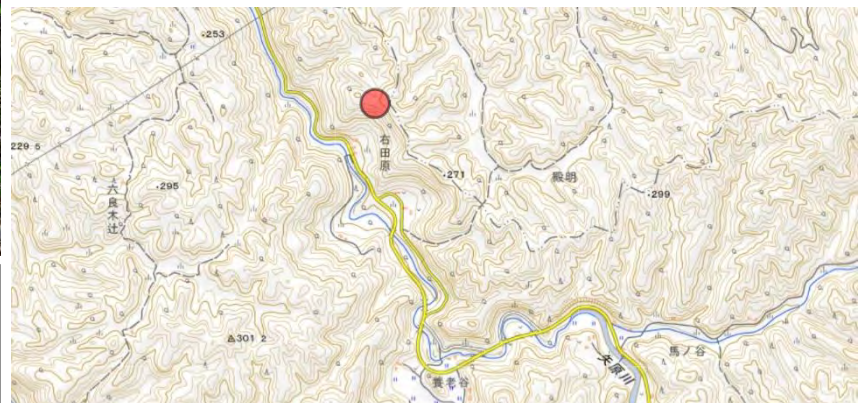
所在地 美都町宇津川右田原 仏の峠の尾根

北緯 34° 42' 22.40" / 東経 132° 00' 48.69"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方の案内による。県道48号からの山道を登り詰めたあたりに立っている。尾根筋のここは分かれ道になっており、北側に降りると三隅町下古和に出る。山道を歩く人たちの道標という意味もあつてここに建てたのではないかという。ただ、この碑は、地元には「山姥(やまんば)が運び上げた」という言い伝えが残っている。
 碑石はそう堅そうにない茶色がかつた自然石で、傷みはないようだが、緑や白の苔がかなり生えている。

(調査日 2022年3月25日)



(単位: cm)

碑石 高さ165/幅56/奥行22

【益田市20】益田市美都町宇津川右田原 中の原 なし

所在地 益田市美都町宇津川右田原 中の原

北緯34°42′08.34″ / 東経132°00′52.58″



【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石】なし
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
地元の方の紹介による。この場所は県道48号の改良区間になっており、新しい道と古い道が並行して走っている。旧道沿いには民家もあり、道沿いに地藏堂もあつて、その上の小山になつた場所の上の平らな面にある。地元の方によると前年イノシシが周囲を掘つて倒してしまつたという。
前碑(No.19)と近く、直線距離で約450mの近さにあり、山道と街道の2カ所に立つていたということだろう。

(調査日2022年3月25日)



(単位：cm)

碑石 高さ130/幅40/奥行17

【津和野町01】津和野町日原 丸立寺 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 鹿足郡津和野町日原 丸立寺境内

北緯34° 32' 57.64" / 東経131° 50' 06.61"



(調査日2021年6月10日)

井戸公碑の中でこの形の碑は川本町No.25とこの碑だけだ。

「調査の経過」
丸立寺の山門を入って右手にある。広い台石の上に亀の形の台石を組み、その上に碑石が乗っている。そばにある解説板によると「亀の台座は亀趺(きびふ)といい、中国の伝説上の生物鼈(ひき)亀に似た神獣)です」とある。

「建立年」文久3年(1863)

「建立者」不明

「碑石前面」泰雲院殿義岳良忠大居士

「碑石左面」享保十八癸丑年/五月二十六日「碑石後面」前御代官/井戸平左衛門尉正明「台石(亀)後面」文久三/亥十一月

／奉敬建



(単位：cm)

碑石 高さ142/幅75/奥行37

台石1段目(亀の形)

高さ70/幅214/奥行218

台石2段目

高さ8/幅242/奥行240

【邑南町01】邑南町日和上郷 K112 沿い **嗟仁公井戸君碑**

所在地 邑智郡邑南町日和上郷 K1112 沿い

北緯 34° 55' 07.35" / 東経 132° 23' 10.15"



(単位: cm)

碑石 高さ155/幅58/奥行56

〔建立年〕明治20年(1887)
 〔建立者〕(世話人名あり)
 〔碑石前面〕嗟仁公井戸君碑
 〔碑石右面〕明治廿年丁亥四月 / 世話人 / 南原勇次郎 / 寺本助市
 〔調査の経過〕
 碑があるのは県道112号沿いで、南は邑南町矢上、北は桜江町川戸に通じる道路。改良が終わった区間に、隣にある地藏堂と一緒に移設されたのだから。共通の土台の上に並んで立っている。碑銘の最初の文字「嗟」は地元資料では「嘆き悲しむときに発する声『ああ』と解釈しているので、それにならった。
 碑石は硬そうな濃い茶色の自然石で、傷みはない。
 (調査日2022年10月7日)



【邑南町02】邑南町日貫 山之内 K297 沿い **泰雲院殿義岳良忠大居士**

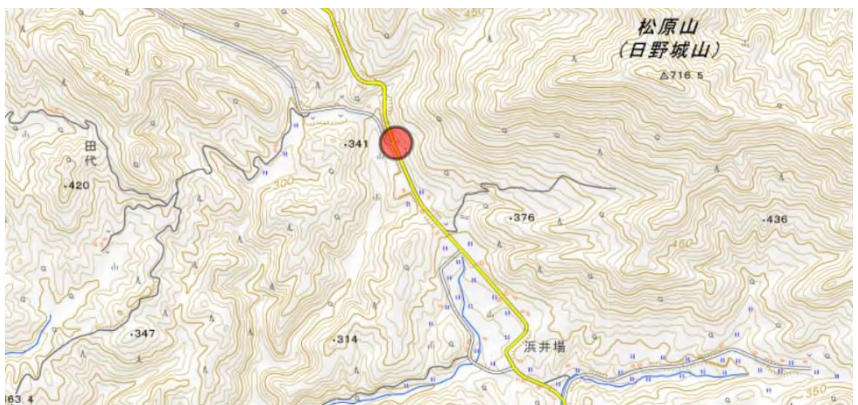
所在地 邑智郡邑南町日貫 山之内 K297 沿い 金屋子神社下

北緯 34° 54' 02.80" / 東経 132° 20' 37.11"



碑石 高さ101/幅31/奥行31
 台石1段目
 高さ15/幅49/奥行49
 台石2段目
 高さ21/幅67/奥行67
 台石3段目
 高さ23/幅92/奥行92

〔建立年〕明治27年(1894)
 〔建立者〕山之内連中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕享保十八年丑五月廿六日「碑石左面」井戸平左衛門正明君碑「二段目台石前面」山之内連中「同右面」石工 / 〇〇屋 / 〇〇 / 明治廿七年 / 十二月日建之
 〔調査の経過〕
 県道297号沿い、金屋子神社の下にブロックを3段積んで大きな土台を造り、その上にほかの3基の石碑と共に立っている。
 碑石は軟らかそうな灰色の墓石型で苔はほとんどなく文字はしっかり読めるが、一部に剥離があり、亀裂も少しある
 (調査日2022年10月12日)



【邑南町03】邑南町日貫 泊里 K7 沿い **井戸正明君碑**

所在地 邑智郡邑南町日貫 泊里 K7 沿い

北緯34° 52' 43.50" / 東経132° 20' 24.75"



(調査日2022年10月12日)

【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】泊里原・川下中
 【碑石前面】井戸正明君碑
 【碑石右面】明治廿五年第八月
 建設者/泊里原/川下中
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道7号沿いに、草相撲の横綱
 初代鎧嶋の碑と並んで立っ
 ている。新日貫トンネルの入り口
 から約400mで、日貫では最
 も西の碑となる。広い道路沿い
 の草地で、6年前は大きな木の
 枝があつてよく見えなかつた
 が、その後手入れされて、今回
 は草もなくきれいだった。
 碑石は軟らかそうな茶色がか
 った灰色の自然石で、苔がかな
 りあり、碑石の上部の裏面には
 一部剥落した痕跡もある。



(単位: cm)

碑石 高さ182/幅80/奥行70
 台石 高さ26/幅133/奥行94

【邑南町04】邑南町日貫 東屋 **不明**

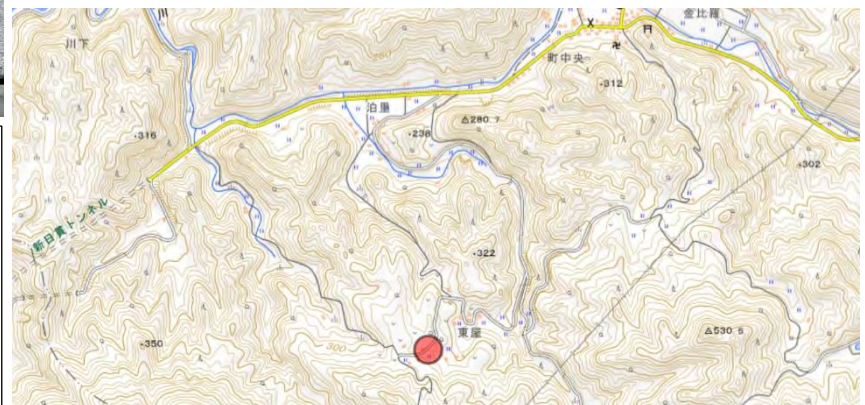
所在地 邑智郡邑南町日貫 東屋 道路沿い

北緯34° 52' 13.19" / 東経132° 20' 56.44"



(調査日2022年10月12日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】不明(読めず)
 【碑石右面】享保十八丑年五月
 □日「碑石左面」井戸平左衛門
 正明碑「同後面」(セメント補修
 の上から)平成十二年六月吉日
 /.....【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 東屋の道路沿いの谷側に、この
 碑のために石を組んだ土台を
 造り、その上に4段も台石があ
 る墓石型の碑。小ぶりながら台
 石の段数といい装飾といい格
 調高い造りだが、傷みが激し
 い。近くの草むらに倒れていた
 ものを移設したというが、碑石
 裏面の「平成十二年」がその時
 期か。明るいとところに再び立っ
 て、碑も喜んでいようだ。



碑石 高さ62/幅25/奥行23
 台石 1段目
 高さ18/幅46/奥行38
 台石 2段目
 高さ18/幅58/奥行58
 台石 3段目
 高さ25/幅93/奥行96
 台石 4段目
 高さ83/幅187/奥行213

【邑南町05】 邑南町日貫 東屋横手 **井戸正明君**

所在地 邑智郡邑南町日貫 東屋横手 三差路の辻

北緯34° 52' 30.78" / 東経132° 21' 33.14"



(調査日2022年10月12日)

【建立年】大正6年(1917)
 【建立者】横手連中
 【碑石前面】井戸正明君(右に)
 大正六年九月中旬(左に)横手
 連中建之
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 東屋横手の三差路の辻、山側に
 立っている。ブロックを4段積
 んでこの碑を建てる場所を作
 っている。
 竹や草があったので少し切っ
 て写真を撮った。
 碑石は硬そうな灰色の自然石
 で卵形。傷みはなく、碑石には
 白っぽい苔が少しあり、台石に
 は緑色の苔が生えている。



(単位: cm)

碑石 高さ73/幅61/奥行21
 台石1段目
 高さ14/幅63/奥行46
 台石2段目(ブロック)
 高さ84/幅120/奥行91

【邑南町06】 邑南町日貫 宝光寺 **泰雲院殿義岳良忠居士**

所在地 邑智郡邑南町日貫 宝光寺境内

北緯34° 53' 05.41" / 東経132° 21' 30.47"



(調査日2022年10月12日)

【建立年】明治28年(1895)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居
 士(右に)享保十八年(左に)
 五月廿六日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 宝光寺には井戸公の位牌と、遺
 訓と肖像が描かれた掛軸があ
 り、毎年12月にこの二つを本堂
 に供えて奉法事を営んでいる。
 碑石には建立年が彫られている
 ないが、位牌に「境内石碑明治
 廿八年十月廿四日建」と書いて
 あるので、ここではそれを建立
 年とした。
 碑は境内に上がった右側にあ
 る。石質は硬そうな濃い茶色の
 自然石で、白っぽい苔はある
 が、傷みはないようだ。



碑石 高さ155/幅66/奥行30
 台石1段目
 高さ25/幅95/奥行95
 台石2段目
 高さ29/幅163/奥行122

【邑南町07】邑南町日貫 花の木 K295 沿い **井戸明君**

所在地 邑智郡邑南町日貫 花の木 K295 沿い

北緯34° 53' 10.32" / 東経132° 21' 48.54"



碑石 高さ116/幅52/奥行42
 台石1段目
 高さ18/幅102/奥行64
 台石2段目
 高さ14/幅108/奥行75
 台石3段目
 高さ130/幅194/奥行不明

(調査日2022年10月12日)

【建立年】明治23年(1890)
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸明君
 【碑石右面】明治二十三年八月一二日□□/享保十八年五月二十六日
 【調査の経過】
 日貫から日和に向かう県道295号沿いにある。道路沿いといっても2段以上高い場所にあつて、しかも3段目の台石が高く、周囲は木々に囲まれているので、わからずに通り過ぎることも多いと思われる。3段目の台石は巨石をおにぎりのような形にして上の碑を支えるという、とても珍しい形だ。碑石はベージュ色の自然石で、傷みも苔もない。



【邑南町08】邑南町日貫 福原 K295 沿い **井戸正明碑**

所在地 邑智郡邑南町日貫 福原 K295 沿い

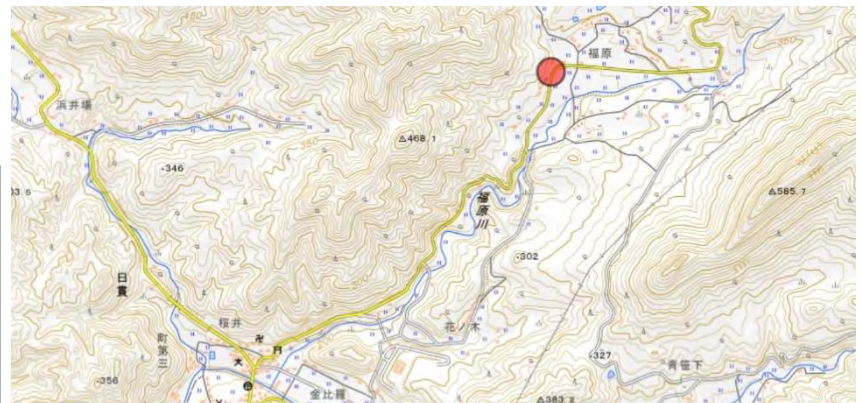
北緯34° 53' 42.96" / 東経132° 22' 19.34"



碑石 高さ132/幅43/奥行44
 台石1段目
 高さ27/幅114/奥行76
 台石2段目(コンクリート)
 高さ12/幅164/奥行101
 台石3段目
 高さ20/幅218/奥行不明

(調査日2022年10月12日)

【建立年】大正6年(1917)
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸正明碑
 【碑石右面】大正六年八月建之「そのほか」文字なし
 【調査の経過】
 県道295号沿いであり、前碑(No.07)から約2km、日和方面に進んだ地点。道路から少し入っているが、前碑のように高くないので目に入りやすい。ただ、周囲が竹林ですぐに竹が枝を伸ばすので、何本か竹を切つて撮影している。少し茶色がかつた灰色の自然石で、前面の上半分を平らにして碑銘を彫っている。碑石も楕円形、1段目の台石も楕円形で、苔があつて白っぽく見え、全体的に穏やかな感じがする。



【邑南町09】 邑南町日貫 青笹下之段 **井戸君**

所在地 邑智郡邑南町日貫 青笹下之段

北緯34° 52' 58.00" / 東経132° 22' 33.85"



(調査日2022年10月16日)

〔調査の経過〕
地元の方に場所を聞いて山に入ったが発見できず、そのことを伝えると、地元の方が2人で碑までの道と碑の周囲をきれいにしていただいた。現在は道もなく、田んぼの奥の山の中、という表現になるが、碑の下には石組みの擁壁が続いており、昔はここは人々が行き交う道沿いだったことがわかる。碑石に傷みはなく、文字も最近彫ったようにくつきり読める。

【建立年】大正7年(1918)
【建立者】下之谷連中
【碑石前面】井戸君
【碑石左面】大正七年八月七日建之 / 下之段連中 石工高橋乙十郎
【そのほか】文字なし



(単位: cm)

碑石 高さ111/幅62/奥行40
台石 高さ25/幅106/奥行不明

【邑南町10】 邑南町日貫 青笹上之段 **井戸君**

所在地 邑智郡邑南町日貫 青笹上之段 道路沿い

北緯34° 53' 11.94" / 東経132° 23' 33.86"



(調査日2022年10月12日)

〔調査の経過〕
前碑(No.09)と違い、道路沿いにある。道路建設の都合でたまたまそうなったのだろう。建立年はこちらが1年早いので、前碑はこの碑を参考にしたことが想像できる。碑銘も同じだ。2段目の台石はコンクリート製で、上部が何かをためるように深さ10センチほど彫つてある。水が溜まる台石は唯一なので、元々別の用途だった工作物を台石としたのかもしれない。碑石は茶色っぽく見えるが御影石で、傷みも、苔もほぼない。

【建立年】大正6年(1917)
【建立者】不明
【碑石前面】井戸君
【碑石右面】大正六年十一月
【そのほか】文字なし



碑石 高さ115/幅66/奥行27
台石1段目
高さ25/幅81/奥行66
台石2段目(コンクリート)
高さ91/幅205/奥行134

【邑南町11】邑南町日貫 簾 K7南100m **井戸正明君**

所在地 邑智郡邑南町日貫 簾 K7南100m 道路沿い

北緯34°52'29.81" / 東経132°22'59.60"



(単位：cm)
 碑石 高さ113/幅56/奥行42
 台石 高さ36/幅102/奥行153

(調査日2022年10月12日)

【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】吉原組中
 【碑石前面】井戸正明君
 【碑石右面】明治廿五年二月中旬
 / 建之施主吉原組中 / 世話人
 拾二名「そのほか」文字なし
 【調査の経過】
 以前は県道7号沿いにあったが、県道の拡幅工事に伴い、地藏堂と一緒に約100m以南に移動し安置された。道路沿いの側溝横に厚いコンクリートの基礎をしており、その上に立つ井戸公碑の台石もかなり大きな石を使っている。見たところ碑石と同じ石質のようだ。碑石は茶色っぽい自然石で傷みはなく、近年の移動ということもあって苔も少ない目だ。



【邑南町12】邑南町矢上峠ノ原 小掛谷集会所 **井戸正明君**

所在地 邑智郡邑南町矢上峠ノ原 小掛谷集会所

北緯34°52'37.72" / 東経132°23'57.54"



碑石 高さ70/幅57/奥行29
 台石1段目
 高さ48/幅84/奥行68
 台石2段目
 高さ8/幅180/奥行130
 台石3段目(石組)
 高さ46/幅232/奥行203

(調査日2022年10月7日)

【建立年】明治31年(1898)
 【建立者】小掛谷中
 【碑石前面】井戸正明君
 【碑石後面】享保十六年丑五月廿六日 / 明治三十一年十一月建立之 / 施主小掛谷中
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道7号の北側の1段高手に小掛谷集会所があり、その庭の北側に立っている。同じ並びにはブロック造の広い基礎の上に地藏などが並ぶ。大きな木も数本あって、神聖なゾーンになっているように見える。井戸公碑はその奥まった場所にあり、碑石と1段目の台石は楕円形、2段目の台石は薄いが1枚の石、そして3段目はいろいろな大きさの石を不規則に積んだ石組みになっている。



【邑南町13】邑南町矢上峠ノ原 小掛谷 K7 沿い **井戸正明碑**

所在地 邑智郡邑南町矢上峠ノ原 小掛谷 K7 沿い

北緯 34° 52' 49.40" / 東経 132° 24' 19.40"



碑石 高さ191/幅96/奥行34
 台石 1段目
 高さ33/幅142/奥行83
 台石 2段目
 高さ50/幅260/奥行187

(調査日 2022年10月7日)

【調査の経過】
 同じ小掛谷での2基目で、こちらは「荻原中」となっている。前碑(No.12)の約700m東と近い。道路沿いに小さな石組で高さ95cmの基礎を造り、その上に大きな石を使った台石を2段積んで、大ぶりの自然石の碑が立つ。碑銘部分は平らにして磨いてあり、白くなっている。ほかは茶色がかっており、傷みはないが白っぽい苔が少しある。

【建立年】明治32年(1899)
 【建立者】荻原中
 【碑石前面】井戸正明碑
 【碑石左面】明治三十二年建之
 【一段目台石前面】荻原中
 【そのほか】文字なし



【邑南町14】邑南町矢上 諏訪神社参道 **井戸正明君之碑**

所在地 邑智郡邑南町矢上 諏訪神社参道

北緯 34° 53' 21.35" / 東経 132° 26' 34.19"



(単位: cm)
 碑石 高さ118/幅73/奥行18

(調査日 2022年8月31日)

【調査の経過】
 諏訪神社は矢上高校と矢上小学校の間にある。神社を向いて参道の左側にこの碑が立つ。拝殿前にも3mを超す井戸公碑があり、この碑はその32年後、しかも施主名から見て個人が奉納されたようなので、境内の大きな碑に影響を受けて建立を決められたか。
 碑石はユニークな変形の自然石で、元々台石がなかったのか、現在は碑石の下部が埋まっている。

【建立年】大正10年(1921)
 【建立者】片平松
 【碑石前面】井戸正明君之碑(右に) 大正十年八月
 【碑石後面】施主/片平松
 【そのほか】文字なし



【邑南町15】邑南町矢上 諏訪神社拝殿向い **井戸君嘉恵碑**

所在地 邑智郡邑南町矢上 諏訪神社拝殿向い

北緯34°53'17.14" / 東経132°26'33.35"



(単位：cm)

碑石 高さ291/幅160/奥行30
台石 高さ42/幅250/奥行140

【調査の経過】
前碑(No.14)の前から杉の巨木の並木を過ぎて拝殿前に出ると、広い庭に、拝殿に向かうように立つ。幅もあり、「そそり立つ」と表現したくなるほど大きな碑だ。碑石前面の碑銘の右側に和歌が彫ってあるが行書体で、彫りが浅いこともあって読み切れなかった。
碑石は硬そうな赤味の強い茶色の自然石で、傷みはないが緑色の苔が少しある。

【調査日】2022年8月31日

【建立年】明治22年(1889)
【建立者】當村中
【碑石前面】井戸君嘉恵碑(右に)和歌(左に) 當村中/明治二十式季晚秋吉日建之/世話人/岸大氏/八田利太
【そのほか】文字なし



【邑南町16】邑南町中野 加茂神社拝殿左手 **井戸明府碑**

所在地 邑智郡邑南町中野 加茂神社拝殿左手

北緯34°54'16.64" / 東経132°27'43.57"



碑石 高さ230/幅144/奥行54
台石1段目 高さ34/幅131/奥行116
台石2段目 高さ64/幅212/奥行183

【調査の経過】
拝殿の左側に高さ約2.5mの石垣を積み、その上にある境内社に並んで、左側に立っている。矢上の諏訪神社の碑も大きい。こちらの諏訪神社の碑も大きい。石垣の上の玉垣に囲まれているので境内からはかなり高く見える。

【調査日】2022年10月7日

【建立年】大正10年(1921)
【建立者】中野村戸主會
【碑石前面】井戸明府碑(左に)大社教管長千家尊有書(印)印
【碑石左面】中野村戸主會/大正十年八月建設
【そのほか】文字なし



【邑南町17】 邑南町中野 長円寺山門前 **泰雲院殿大居士石碑**

所在地 邑智郡邑南町中野 長円寺山門前

北緯34° 54' 19.55" / 東経132° 27' 49.26"



碑石 高さ131/幅34/奥行32
 台石1段目
 高さ18/幅68/奥行59
 台石2段目
 高さ37/幅123/奥行125

(調査日2022年10月7日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石右面】泰雲院殿大居士石碑
 【碑石前面】南无阿弥陀佛
 【碑石左面】享保十八癸丑/五月廿六日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 加茂神社のすぐ近くにある長円寺。山門の前の右手に立っており、正面には「南无阿弥陀佛」を彫り、右面に井戸公の法名を彫っているが、「義岳良忠」のないもので、珍しい。石碑は前面からだと墓石型に近いが、全体としては自然石の形を生かしたものの。1段目の台石は円形に近い形で、2段目は大きめで形をそろえた石で囲んでいる。



【邑南町18】 邑南町中野掛屋 道路沿い **井戸正朋君碑**

所在地 邑智郡邑南町中野掛屋 K297 東側道路沿い

北緯34° 54' 39.93" / 東経132° 28' 11.76"



碑石 高さ148/幅78/奥行39
 台石1段目
 高さ30/幅105/奥行82
 台石2段目
 高さ26/幅163/奥行162

(調査日2022年8月31日)

【建立年】昭和3年(1928)
 【建立者】(世話人名等あり)
 【碑石前面】井戸正朋君碑
 【碑石右面】世話人/掛屋/小笠原松太郎/土地寄附人/藤下豊市「碑石左面」积昇映謹書「碑石後面」碑文(次葉に記載)
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道297号を東へ少し入った道路沿いの広場に立っている。前2基(No.16・17)とかなり近い。石碑後面の碑文(次葉に記載)によると昭和天皇の即位記念に建立している。石碑は目の細かい硬そうな灰色の自然石で、碑石と1段目台石の間はセメントで補修しているが、傷みはない。



【邑南町18】 邑南町中野掛屋 道路沿い 井戸正朋君碑 続き (碑文)



碑文面 (碑石後面)

井戸君為銀山大森代官時領内穀不実立
 賑恤法直救之且教甘藷栽培永備災飢饉
 至甚負責一身以非常手段助之鴻沢通神
 矣享保十八年五月六十二才而歿茲建碑表
 美績以使勤焉

昭和三年十一月 釈敦實撰并書
 御即位大典記念建

中野村 橋田勘治郎
 皆井田 藤田 巖
 掛屋 小笠原光子

【邑南町19】 邑南町井原上町 満行寺参道 井戸正明君碑

所在地 邑智郡邑南町井原上町 満行寺参道入口

北緯34° 54' 02.80" / 東経132° 20' 37.11"



〔建立年〕明治25年(1892)
 〔建立者〕村中
 〔碑石前面〕井戸正明君碑
 〔碑石右面〕中ノ村石工上田忠三郎
 〔碑石左面〕世話六日建之村中
 〔武分忠四郎〕森岡吉三郎
 〔そのほか〕文字なし
 〔調査の経過〕
 国道261号から東へ入るとすぐにある満行寺。参道の入口が曲がり角になっているが、その突き当りに碑がある。庫裏の塀の基礎と壁を鉤の手に欠いて、外を通る人からも見えるように、この碑だけ塀の外に出してある。
 碑石は茶色の大ききな自然石。傷みはなく、苔が少しある。
 (調査日2022年10月7日)



(単位: cm)
 碑石 高さ193/幅115/奥行67
 台石 高さ22/幅154/奥行123

【邑南町20】邑南町市木麦尾 集会所 **井戸正明墓**

所在地 邑智郡邑南町市木麦尾 集会所前道路沿い

北緯34° 50' 36.69" / 東経132° 23' 37.96"



(単位：cm)
 碑石 高さ96/幅91/奥行30
 台石 高さ29/幅127/奥行72

(調査日2022年10月15日)

【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】麦尾中
 【碑石前面】井戸正明墓(右に) 明治二十五年十一月(左に) 麦尾中
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道327号(原山雲海ロード)のカーブから西北に折れて450m進むと三差路になり、その広場に集会所「醇厚舎」がある。集会所の道路側にブロックで広い2段の基礎を作って、石碑などを建てており、井戸公碑はその中央に立つ。
 安定感のある重厚な台石に乗る碑石はほぼ円形の自然石。前面に碑銘、建立年、建立者が大きな字で彫ってあり、わかりやすく、気持ちのいい碑だ。



【邑南町21】邑南町上田所中野原 旧道沿い **井戸君碑**

所在地 邑智郡邑南町上田所中野原 旧道沿い

北緯34° 49' 34.99" / 東経132° 29' 17.43"



(単位：cm)
 碑石 高さ141/幅58/奥行60
 台石 高さ48/幅150/奥行113

(調査日2022年10月15日)

【建立年】明治44年(1911)
 【建立者】中ノ原・玉田
 【碑石前面】井戸君碑
 【碑石左面】明治四十四年二月建之/中ノ原/玉田
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 国道261号と並行している西側の道路沿いに立っている。国道と碑の間には田んぼしかない。国道からもよく見える。上田所郵便局のすぐ南だ。側溝をまたぐとすぐであり、1枚岩の厚い台石の上に乗っている碑石は濃い茶色の自然石。奥行もあり、前面の碑銘の文字は深さ5cmの深さにくっきりと彫ってある。文字の周りが剥落していないほどに、全体に傷みはない。



【邑南町22】 邑南町上亀谷朝原 大歳神社 **井戸君碑**

所在地 邑智郡邑南町上亀谷朝原 大歳神社

北緯34° 50' 18.52" / 東経132° 30' 34.35"

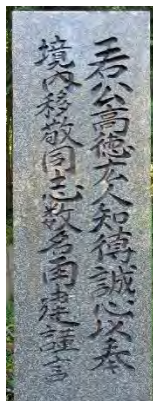


(調査日2022年10月15日)

〔調査の経過〕
大歳神社の鳥居をくぐってすぐ右、ブロッタの囲みの中に立っている。隣の石柱(写真下)に表「君公高德大人知傳誠心以奉」境内移敬同志数名再建謹言「裏一旧跡地西北十五米／平成二年松月吉日／発起人／上田治郎一／三上正行／土佐豊／日高勇／田代秀一」とあるので、平成2年にここに移設されたようだ。地元の皆さんに大切にされていることがわかる。

【建立年】明治30年(1897)
【建立者】朝原中
【碑石前面】井戸君碑
【碑石前面】明治三十年十一月二十二日／朝原中「碑石左面」発起人三上才七「そのほか」文字なし

碑石 高さ132/幅67/奥行45
台石1段目
高さ39/幅170/奥行88
台石2段目
高さ31/幅190/奥行200



【邑南町23】 邑南町出羽 町道沿い **井戸君碑**

所在地 邑智郡邑南町出羽 町道沿い

北緯34° 51' 27.94" / 東経132° 32' 37.07"



(調査日2022年10月15日)

大きめの石を組んだ広い2段目の台石にはしつかり目地が入れてあり、その上に1段目台石と碑石が乗っている。

【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石前面】井戸君碑
【そのほか】文字なし
〔調査の経過〕
出羽地内の町道沿いに立つ。電柱「瑞穂(幹)62」の横になる。すぐ隣に小さな御影石の石柱があり「町道小河内淀原線／工事のため移転建設／平成十六年十一月吉日」とある。山田から移転したようだ。石柱は前碑(No.22)を参考にしたと思われる。移転の経過がよくわかる。

碑石 高さ150/幅94/奥行21
台石1段目
高さ27/幅126/奥行69
台石2段目(石組)
高さ61/幅241/奥行176



【邑南町24】邑南町原村 西福寺 **井戸公頌徳碑**

所在地 邑智郡邑南町原村 西福寺 本堂左奥

北緯34°52'14.58" / 東経132°33'23.42"



碑石 高さ239/幅107/奥行55
 台石1段目 高さ31/幅103/奥行113
 台石2段目 高さ37/幅212/奥行225
 台石3段目 高さ41/幅287/奥行287

【建立年】明治43年(1910)
 【建立者】和田・原村・上原
 【碑石前面】井戸公頌徳碑(右に)享保十八年五月二十七日逝去(左に)明治四十三年七月二十七日建之/味はひの深き井戸なり源清水/古川春龍(下に)和田/原村/上原
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】西福寺の近くの3つの集落の皆さんが力を合わせて建てられており、俳句も添えられて風流だ。台石が3段もあり、総高さは348センチと、邑南町で最も高い。広い庭だが、とてもよく手入れされており、この碑も最近磨いたかのようにきれいで、調査も気持ちよくできた。
 (調査日2022年10月15日)



【邑南町25】邑南町高見 高福寺 **井戸明君碑**

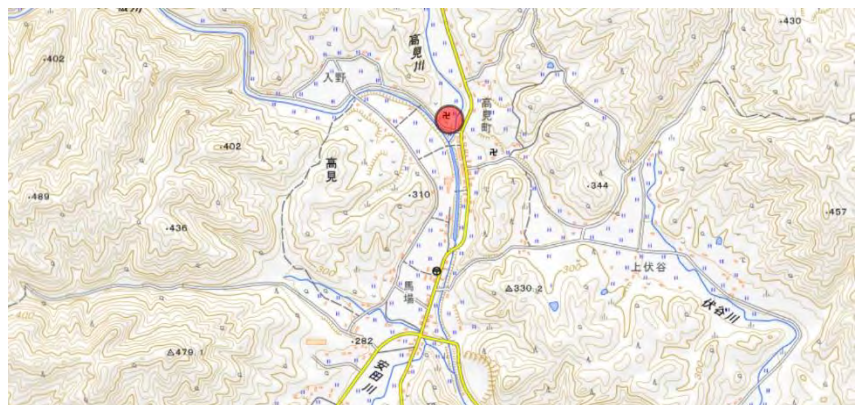
所在地 邑智郡邑南町高見 高福寺境内

北緯34°54'27.74" / 東経132°33'18.13"



(単位: cm)
 碑石 高さ194/幅123/奥行31
 台石 高さ39/幅137/奥行122

【建立年】明治32年(1899)
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸明君碑
 【碑石後面】明治三十二年三月日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】県道31号の西側にある高福寺。本堂の右手に、「開基善信と乳母の碑」と並んで立っている。碑石は高さも幅もあって大ぶりな碑で、台石も1枚岩を使っている。碑石は茶色がかった硬そうな自然石で、傷みはない。緑色と白っぽい苔が少し生えている。
 (調査日2022年10月15日)



【邑南町26】邑南町八色石 龍岩保養館 **井戸正明君**

所在地 邑智郡邑南町八色石 龍岩保養館入口スロープ沿い

北緯34°56'26.20" / 東経132°33'23.88"



碑石 高さ83/幅70/奥行14
 台石 1段目
 高さ21/幅65/奥行53
 台石 2段目
 高さ14/幅98/奥行74

(調査日2022年10月15日)

【建立年】大正7年(1918)
 【建立者】松島松次郎
 【碑石前面】井戸正明君(右に)
 大正七年四月(左に) 松島松次郎建之
 【碑石左面】享保十八年六月廿七日死去/享年六十二才
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道31号のすぐ東にある八色石の龍岩保養館の、道路から建物に上がるスロープの横に地藏堂と並んで立っている。松島さんという個人の方の建立になっており、情報が正しく伝わらなかったか、井戸公の命日(5月26日)が違う日になっている。碑石は硬い石のようで、碑銘以外の文字は彫りが浅く、読みにくい。



【邑南町27】邑南町鱒淵馬野原上 集会所裏山 **井戸正明君碑**

所在地 邑智郡邑南町鱒淵馬野原上 集会所裏山

北緯34°52'52.88" / 東経132°31'20.42"



(単位: cm)
 碑石 高さ178/幅75/奥行36
 台石 高さ34/幅186/奥行160

(調査日2022年10月15日)

【建立年】大正3年(1914)
 【建立者】馬野原中
 【碑石前面】井戸正明君碑
 【碑石左面】大正三年四月一日建之/馬野原中「碑石後面」(徳利と短冊、盃の絵) 酒さい飲バミ わはたかてもやどの可々志ちにをくかな/雲州石夢/石工矢上植田勘治郎
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 国道261号から県道7号を東へ約2.5km進むと馬野原集会所。その裏山の頂上に薬師如来堂と並んで立っている。すらりと背の高い碑で、下の県道からもよく見えるが、この碑の特徴は裏面の詩だ。石工さんが彫ったと思われるが、非常に珍しく、ほかにはない。



【川本町01】川本町因原 児童公園入口 **泰雲院殿義岳良忠大居士**

所在地 邑智郡川本町因原 児童公園入口左手道路沿い

(芋殿No.09)

北緯34°57'43.09" / 東経132°28'13.13"

(「芋殿さんの碑」の掲載番号↑)



〔調査の経過〕
児童公園の入口にたくさんの
石碑と地蔵とともに並ぶ。
(調査日2022年5月24日)

〔建立年〕明治20年(1887)
〔建立者〕村中
〔石碑前面〕泰雲院殿義岳良忠大
居士
〔石碑右面〕享保十八癸丑年/五月廿
六日/左面/井戸平左衛門正明碑(後
面)明治廿年四月四日造之/二段目台
石前面/村中/世話人/日高常四郎
/日高豊平/年五十六才/石工/山
中平八(同左面)四十才/中垣龜市郎
/四十松川秀三郎/三十才/左田野
菊太郎/丸橋常十郎/二十五才/中
垣圓次郎/二十才/原田房太良/十
五才/中垣順二良/植田平四郎/中
垣幸十良/左田野清七/植田平四郎/幸
平清四良/十五佐々七三郎(同後面)
市川林治(同右面)十才/日高傳三郎
/野田幸助/市川信市/佐田ノ岩吉
/佐田ノ庄太/中垣要吉/佐田野弥
吉/道垣忠四良/十五藤田千恵次/
中垣順二良/丸橋徳三良/岡村浅吉
/二十中田文三良/堂面新四郎/田
平啓市/堂免三市/月森秀市/宮前
後三良



石碑 高さ112/幅34/奥行32
台石1段目
高さ23/幅56/奥行56
台石2段目
高さ28/幅80/奥行80
台石3段目
高さ31/幅107/奥行107

【川本町02】川本町日向 丸谷産業横(新碑) **泰雲院殿**

所在地 邑智郡川本町日向 丸谷産業横(新碑)

(芋殿No.20)

北緯34°58'28.06" / 東経132°28'59.08"



〔調査の経過〕
江の川のすぐそばにある丸谷
産業の横の道路沿いに、コンク
リートの基礎の上の地蔵堂の
隣に2つの碑が立っている。そ
の右側がこの碑で、青年たちも
建立に関わったようだ。
左隣にある小さな碑は旧碑で、
上部が欠損したため、この碑が
新しく建てられたのだろう。
(調査日2022年5月24日)

〔建立年〕大正元年(1912)
〔建立者〕日向区中・青年中
〔石碑前面〕泰雲院殿
〔石碑右面〕享保十三年五月廿六
日
〔石碑左面〕大正元年十二月吉日
/日向区中/外/青年中/世
話人/渡邊梅市/木村繁市/
石工山本小三郎/渡邊岩市
〔そのほか〕文字なし



(単位: cm)
石碑 高さ157/幅95/奥行48
台石 高さ31/幅123/奥行98

【川本町03】川本町日向 丸谷産業横（旧碑）……………**土**

所在地 邑智郡川本町日向 丸谷産業横（旧碑）

（芋殿 なし）

北緯34° 57′ 43.09″ / 東経132° 28′ 13.13″



（調査日2022年5月24日）

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】……………土
 【碑石右面】癸丑／六日
 【碑石左面】門□正明
 【調査の経過】
 前碑（No.02）の旧碑である。この碑の欠損を受けて新碑が建立されたと思われる。この碑は墓石型で、幅も奥行きも小さめなので、碑石の高さは90センチまでと想像する。前面の文字に「土」があるので「泰雲院義岳良忠居士」だったか。
 2段の台石は後日有志の方が寄贈されたもので、傷みは少ない。
 一部とはいえ、碑の姿が残っているので、1基と数えた。



新旧碑が並んでいる姿

（単位：cm）

碑石 高さ37/幅24/奥行19
 台石1段目
 高さ12/幅36/奥行37
 台石2段目
 高さ9/幅46/奥行46

【川本町04】川本町中倉 芋殿さん公園 **泰雲院殿碑**

所在地 邑智郡川本町中倉 芋殿さん公園

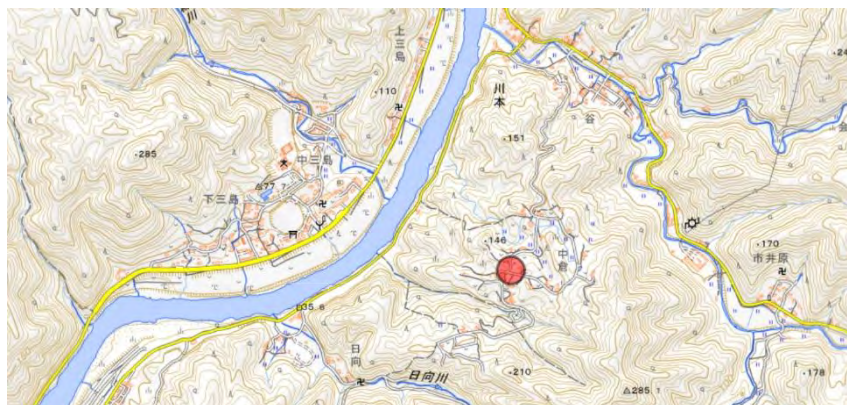
（芋殿No.23）

北緯34° 58′ 35.52″ / 東経132° 29′ 33.77″



（調査日2022年5月24日）

【建立年】昭和8年（1933）
 【建立者】（世話係名あり）
 【碑石前面】泰雲院殿碑（左に菅了法書㊦）
 【碑石左面】昭和八年六月改建／世話係 青年団／睦会
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 江の川の東側の高手に位置する中倉。地区の曲がり角を利用してこの碑だけのための公園「中倉芋殿さん公園」が作られていて感動した。道路側には生け垣があつて碑は見えにくい。中に入ると、舗装した広場にこの碑と案内板がある。
 「昭和8年改建」とあるので、そのときに今の姿になったのか、公園整備のときだったかわからないが、特別な場所を与えられた碑は誇らしげに見える。



（単位：cm）

碑石 高さ169/幅75/奥行30
 台石1段目
 高さ24/幅103/奥行76
 台石2段目（石組）
 高さ84/幅208/奥行173

【川本町05】川本町市井原 全長寺下 **泰雲院殿**

所在地 邑智郡川本町市井原 全長寺下 K31 沿い

(芋殿No.27)

北緯 34° 58' 31.34" / 東経 132° 30' 17.07"

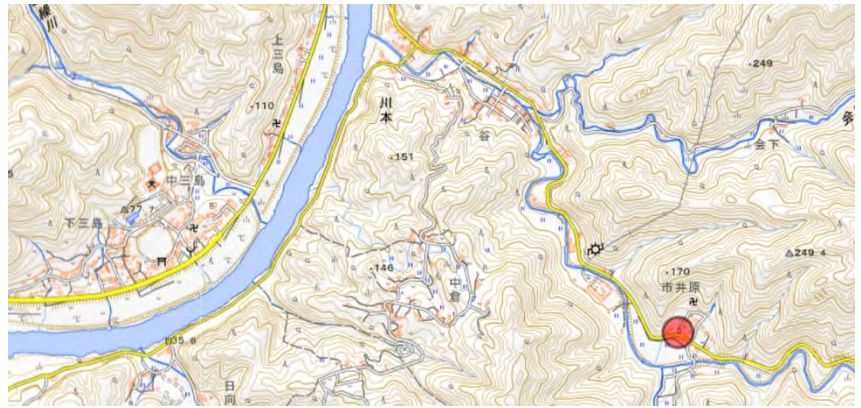


(調査日 2022年5月24日)

〔調査の経過〕市井原の県道31号の角に、田んぼを一部狭くして建てられている。建立年が不明だが、前碑(No.04)と構造が似ている。自然石の碑で碑銘が同じ、台石が2段で2段目は石組みである。総高さも3寸しか変わらない。サツマイモに見立てたか、細丸い石が供えられていた。碑石は硬そうな黒っぽい自然石で傷みはない。

〔建立年〕不明
〔建立者〕市井原組中
〔碑石前面〕泰雲院殿
〔碑石右面〕享保十八癸丑五月廿六日
〔碑石左面〕市井原組中／世話人／横田房市／井手吾市
〔そのほか〕文字なし

(単位: cm)
碑石 高さ152/幅59/奥行48
台石1段目
高さ29/幅110/奥行82
台石2段目(石組)
高さ93/幅196/奥行188



【川本町06】川本町谷 大町氏宅横 K31 沿い **井戸君碑**

所在地 邑智郡川本町谷 大町氏宅横 K31 沿い

(芋殿No.17)

北緯 34° 59' 03.33" / 東経 132° 29' 49.05"

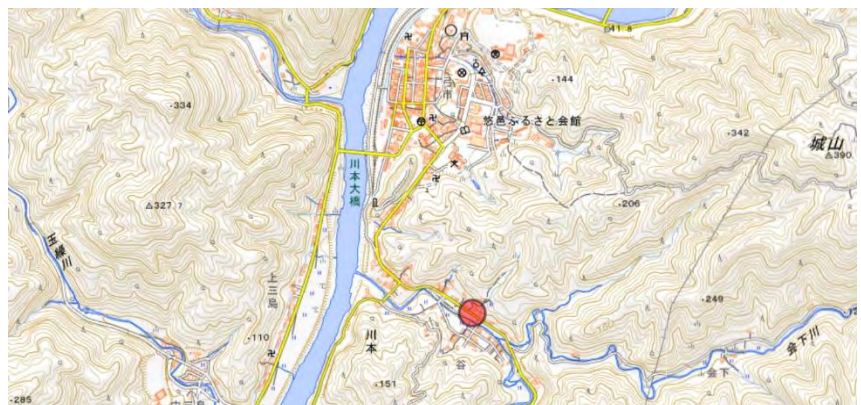


(調査日 2022年5月24日)

〔調査の経過〕前碑(No.05)と同じ県道31号沿いに立っている。これも自然石の碑石に2段の台石、2段目は石組みという構造は似ているが、碑銘は違っている。碑石の上部が厚く、下部が細い。前から見ても下部が狭いので安定が悪いように見えるが、120年以上こうして立ち続けている。ただ、隣に植えた庭木が大きくなって枝も広がり、碑が隠れがちである。

〔建立年〕明治30年(1897)
〔建立者〕谷組中
〔碑石前面〕井戸君碑(右に)明治三十年建立(下に)建立/谷組中/世話人/片山熊太郎/土井為治
〔そのほか〕文字なし

(単位: cm)
碑石 高さ146/幅60/奥行38
台石1段目
高さ36/幅91/奥行60
台石2段目(石組)
高さ67/幅187/奥行不明



【川本町07】川本町川本 法隆寺 井戸明府頌徳碑

所在地 邑智郡川本町川本 法隆寺 鐘楼門横

(芋殿No.22)

北緯34°59'23.31" / 東経132°29'41.54"



(調査日2022年5月24日)

【調査の経過】川本町内には昭和以降に建てられた(再建を含む)碑が多いが、この碑もそのうちのひとつで、昭和5年の建立。比較的新しいこと、しかも堅そうなる自然石を使っていることなどから、新品同様の外観で、その上この碑には白っぽい苔もほとんど生えてない。石段を上がって鐘楼門をくぐったすぐ左手、よく手入れされた庭に立っている。

【建立年】昭和5年(1930)
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸明府頌徳碑
 【碑石左面】昭和五年四月二十二日建立

(単位: cm)
 碑石 高さ143/幅77/奥行47
 台石1段目 高さ32/幅140/奥行72
 台石2段目(石組) 高さ104/幅246/奥行216



【川本町08】川本町畑野 鶴ヶ城 井戸君之碑

所在地 邑智郡川本町畑野 鶴ヶ城

(芋殿No.18)

北緯34°59'36.69" / 東経132°31'11.85"



(調査日2022年6月2日)

【調査の経過】美郷町境の畑野地区。集落の奥まったところに三差路があり、その辻が小山になっていて、その上に、集落を見下ろすように碑が立っている。「當村中」が横書きしてあるのだが、今風に左から彫ってある。明治時代に横書きを左から書くことがあったのだろうか。

【建立年】明治31年(1898)
 【建立者】當村中
 【碑石前面】井戸君之碑
 【碑石左面】享保十八年十二月廿五日
 【碑石後面】明治三十一年五月四日建之／當村中／世話人／松田乙市／宮田国市／上田品市／石田菊市／上原与市
 【そのほか】文字なし

(単位: cm)
 碑石 高さ119/幅56/奥行22
 台石 高さ21/幅75/奥行48



【川本町09】川本町木路原 元踏切沿い **井戸廻府碑**

所在地 邑智郡川本町木路原 元踏切沿い K40 沿い

(芋殿No.21)

北緯34°59'48.63" / 東経132°30'28.35"



〔建立年〕大正3年（1914）
 〔建立者〕木路原中
 〔碑石前面〕井戸廻府碑
 〔碑石右面〕大正三年十一月二十五日建之「碑石左面」享保十八年五月廿七日「碑石後面」世話人／品川幸一／中島菊市／松嶋竹市／木原梅太／甲山龍三郎「二段目台石前面」木路原中
 〔調査の経過〕
 江の川沿いを通る県道40号沿い東側の天満宮に、大きな石を組んだ高さ約110cmの基礎を造り、その上に地藏堂、祠、井戸公碑が並んでいる。
 碑石は硬そうな茶色がかった自然石で、傷みはないようだが、白っぽい苔に覆われている。調査日には前の花立てに白と紫の花が供えてあった。
 （調査日2022年5月24日）



(単位：cm)
 碑石 高さ140/幅90/奥行26
 台石1段目
 高さ18/幅127/奥行88
 台石2段目(石組)
 高さ34/幅166/奥行151

【川本町10】川本町久座仁 警察官舎下 **井戸明君碑**

所在地 邑智郡川本町久座仁 警察官舎下 K291 沿い

(芋殿No.19)

北緯34°59'52.96" / 東経132°30'07.13"



〔建立年〕昭和62年（1987）
 再建
 〔建立者〕川下村有志者
 〔碑石前面〕井戸明君碑
 〔碑石右面〕享保十八年五月二十六日「碑石左面」明治三十九年九月吉日建之「三段目台石前面」川下村有志者「同左面」発起人／三宅惇／三宅嘉一郎／世話人／百田善次郎／江崎國太／江崎熊市
 〔調査の経過〕
 江の川沿いの県道291号沿いに立つ。昭和62年に碑石のみ更新された（平成2年川本町歴史研究会「芋殿さんの碑」が、同じ文字が彫られた。台石は明治39年のもので文字も当時のもの。昭和の建立者名は「芋殿さんの碑」に紹介されている。
 （調査日2022年5月24日）



碑石 高さ77/幅31/奥行25
 台石1段目
 高さ19/幅47/奥行42
 台石2段目
 高さ13/幅67/奥行54
 台石3段目
 高さ25/幅74/奥行63
 台石4段目
 高さ12/幅82/奥行79

【川本町11】川本町谷戸 小笠原氏宅横 **泰雲院殿義岳良忠大居士**

所在地 邑智郡川本町谷戸 小笠原氏宅横 K187 沿い

(芋殿No.25)

北緯34° 59' 51.47" / 東経132° 28' 54.73"



(調査日2022年5月24日)

【建立年】昭和29年(1954)
 再建
 【建立者】谷戸区中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【碑石右面】昭和二十九年十二月再建之/谷戸区中/地主小笠原義加「そのほか」(花立てに)施主上阪米市
 【調査の経過】
 県道187号沿いに立つ。石組みの3段目台石はこの敷地全体の基礎になっており、碑の部分だけ前に出した形。昭和29年の再建となっているが、おそらく前碑の姿と刻字内容が踏襲し、碑石だけ御影石に変更したものと思われる。全体の印象はかなり前の時代の石碑の雰囲気を持っている。

碑石 高さ94/幅33/奥行27
 台石1段目 高さ29/幅56/奥行56
 台石2段目 高さ24/幅65/奥行63
 台石3段目(石組) 高さ91/幅148/奥行153
 台石4段目 高さ30/幅184/奥行不明



【川本町12】川本町三島 龍源寺 **井明府之碑**

所在地 邑智郡川本町三島 龍源寺

(芋殿No.13)

北緯34° 58' 43.62" / 東経132° 29' 02.43"



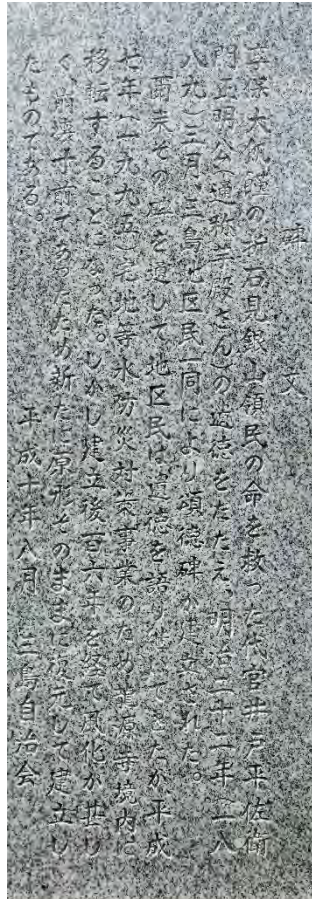
(調査日2022年6月2日)

【建立年】平成10年(1998)
 再建
 【建立者】三嶋中
 【碑石前面】井明府之碑
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日逝去
 【碑石左面】明治廿二年三月建之
 【碑石後面】碑文(次葉に掲載)
 【二段目台石前面】三嶋中「同右面」是光虎次良/木村幸三良/玉川房次郎/車間市/地主/玉川助市「同左面」発起人/森脇恒三郎/世話人/森脇猪太郎/丸山嘉六/前島佐吉
 【調査の経過】
 この碑は当初三島神社下の道路沿いにあったが、平成7年の防災事業の際に移転することになり、福光石だったものを御影石とし、同寸法、同内容で龍源寺境内に再建された。

碑石 高さ100/幅34/奥行34
 台石1段目 高さ44/幅61/奥行61
 台石2段目 高さ25/幅77/奥行77
 台石3段目(石組) 高さ31/幅102/奥行102
 台石4段目 高さ30/幅133/奥行133



【川本町12】川本町三島 龍源寺 井明府之碑 続き (碑文)



碑文

享保大飢饉の折石見銀山領民の命を救った代官井戸平佐衛門正明公(通称芋殿さん)の遺徳をたたえ、明治二十二年(一八八九)三月、三島地区民一同により頌徳碑が建立された。爾来その碑を通して地区民は遺徳を語り継いできたが、平成七年(一九九五)宅地等水防対策事業のため龍源寺境内に移転することになった。しかし建立後百六年を経て風化が甚しく、崩壊寸前であったため新たに原形そのままに復元して建立したものである。

平成十年八月 三島自治会

【川本町13】川本町木谷 木谷石塔横 井明府之碑

所在地 邑智郡川本町木谷 木谷石塔横

(芋殿No.11)

北緯34° 58' 13.21" / 東経132° 28' 08.18"



(調査日2022年6月2日)

【建立年】平成15年(2003)再建

【建立者】當村中

【碑石前面】井明府之碑

【碑石右面】享保十八年五月廿六日死去

【碑石左面】明治廿一年十二月建之 / 平成十五年六月再建

【前石前面】當村中

【調査の経過】川下橋のすぐ近く、県道40号を西に少し入ったところ、木谷石塔のすぐ隣に立っている。前碑もこの場所に福光石で立っていたが、平成15年に御影石で再建された。大きさも刻字内容も踏襲したと思われる。また「當村中」と彫られた前碑の台石の一部を前石として残しているようだ。



碑石 高さ97/幅35/奥行27
 台石1段目 高さ20/幅50/奥行52
 台石2段目 高さ25/幅67/奥行67
 台石3段目 高さ15/幅91/奥行91

【川本町14】川本町尾原 R261 沿い **泰雲院殿いもどのさん**

所在地 邑智郡川本町尾原 R261 沿い

(芋殿No.24)

北緯 34° 57' 44.94" / 東経 132° 27' 29.74"



碑石 高さ85/幅32/奥行25
 台石 1段目
 高さ25/幅48/奥行41
 台石 2段目
 高さ25/幅65/奥行58
 台石 3段目
 高さ24/幅84/奥行76

【調査日】2022年6月2日

【建立年】昭和29年（1954）
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿いもどのさん
 【碑石右面】井戸平左エ門正明
 【三段目台石前面】昭和二十九年十一月二十三日

【調査の経過】
 国道261号沿いの北側の高
 手にある墓地に上がる石段の
 下にこの碑が立っている。
 左右と後ろはブロック6段を
 積んでこの碑のための場所を
 きちんと造り、碑を建ててい
 る。

碑銘の「泰雲院殿」の下の「い
 もどのさん」が珍しい。
 碑石は福光石で、きれいな形で
 残っており、苔は少なめだが、
 部分的に剥離が少しある。



【川本町15】川本町木屋原 K32 沿い **泰雲院殿義岳良忠居士**

所在地 邑智郡川本町木屋原 K32 沿い

(芋殿No.02)

北緯 34° 59' 22.33" / 東経 132° 27' 42.57"



碑石 高さ65/幅26/奥行26
 台石 1段目
 高さ17/幅47/奥行46
 台石 2段目
 高さ21/幅60/奥行64
 台石 3段目
 高さ20/幅60/奥行64

【調査日】2022年6月2日

【建立年】嘉永5年（1852）
 【建立者】木屋原中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居
 士
 【碑石右面】享保十八癸丑年／五
 月二十六日示寂
 【碑石左面】前御代官／井戸平左
 衛門正明君碑／嘉永五壬子巳
 十月廿六日立「二段目台石前
 面」木屋原中／南山万平（現在
 は補強のため読めない）「同右
 面」石工／弥助
 【そのほか】文字なし

【調査の経過】
 県道32号沿いに地藏と並んで
 立つ。総高さ123センチと小ぶり
 だが、台石、刻字などといねい
 な造り。
 傷みが各所に見られ、補修がい
 ろいろされている。



【川本町16】川本町田原 K32 沿い **井戸正明之碑**

所在地 邑智郡川本町田原 K32 沿い

(芋殿No.15)

北緯 34° 58' 53.36" / 東経 132° 26' 19.15"



【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】當村筑紫原中
 【碑石前面】井戸正明之碑(右に) 明治二十五年(左に) 壬辰十月 建之(下に) 當村筑紫原中/世話人/大畑源治/大畑縁三郎 / 大畑順太郎/室田雪左衛門 / 渡辺種一郎
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 前碑(No.15)の前の県道32号を約3・5km西に進むと、前碑と同じように道路沿いに地蔵と並んで立っている。
 前碑は木陰に立っていたが、こちらは周囲に大きな木はなく日当たりがいい。
 碑石は濃い灰色のすらりとした自然石で、傷みはなく、白っぽい苔が少しある。
 (調査日2022年6月2日)



(単位: cm)

碑石 高さ164/幅62/奥行37
 台石1段目 高さ23/幅106/奥行65
 台石2段目(石組) 高さ16/幅158/奥行96

【川本町17】川本町三原 南部峠 集会所向い **井戸君之碑**

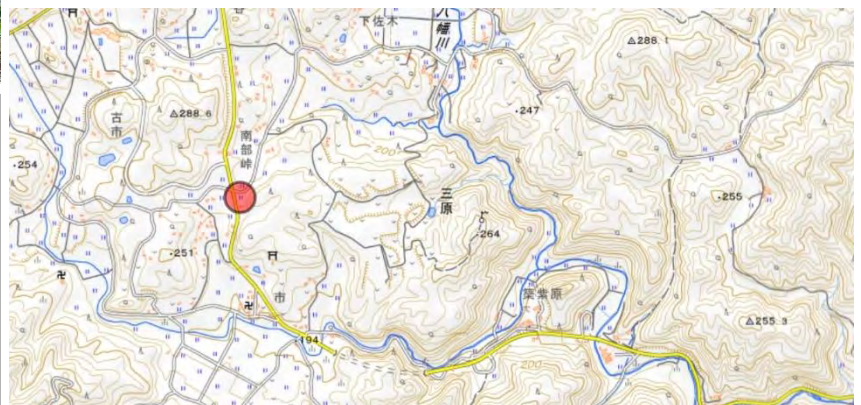
所在地 邑智郡川本町三原 南部峠 集会所向い 消防格納庫裏

(芋殿No.14)

北緯 34° 59' 20.21" / 東経 132° 25' 07.91"



【建立年】明治33年(1900)
 【建立者】當三原中
 【碑石前面】井戸君之碑
 【碑石右面】明治卅三年十一月三日建立
 【碑石左面】碑文(次葉に記載)
 【一段目台石前面】當三原中【同右面】地所寄進/北野己松治/世話人/山口斗三郎/梅田保吉/森口勝四郎/三宅豊七
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 前2基と同じ県道32号沿いの三原多目的集会所の前を東に少し進むと消防格納庫があり、その後ろに立っている。
 山も迫っており、日当たりも悪いのか、福光石の碑は剥離、亀裂があり、碑石左面の碑文も読むのが難しい。
 (調査日2022年6月7日)



碑石 高さ98/幅37/奥行34
 台石1段目 高さ28/幅52/奥行50
 台石2段目 高さ29/幅72/奥行72
 台石3段目(石組) 高さ30/幅102/奥行105
 台石4段目 高さ15/幅137/奥行不明
 台石5段目 高さ12/幅188/奥行不明



碑文 (「芋殿さんの碑」より)

井戸君諱ハ正明平左衛門ト称ス、君即チ徳川幕府ノ臣僚ニシテ享保頃、我大森二代官ノ職ヲ奉シ新ニ來ルヤ□保凶饑餓途ニ□ケ猛獸人ニ迫ル、任ヲ受ケルノ日浅ク□ニシテ救済ノ術ヲ策スルニ由□ク断呼トシテ治下今年ノ租税蠲□以テ餓民ヲ救ヒ倉出シヲシテ速ニ堵ニ安ズルヲ得□シ□タリキ、后大イニ備荒ノ策ヲ講シ遠ク西域ニ甘藷ヲ購ヒ、勸以之裁エシメ爾後漸ク繁殖シ今日ノ民尚之ニ因リ生ラ遂クルモノ幾百万ナルヲ知ラス、其鴻澤齒牙ノ諭ヲ待タサルナリ、聞ク君ハ後、幕府ノ召牒ニ依リ江都ニ上ルノ途次備中笠岡ニ自截セリト、亦タ其所以ヲ解セス、然シトモ□ニ施セシモノハ、事專断ニ涉ルヲ以幕府必ス、大イニ罰スル処アラシヲ知り、既然死ニ就キ以テ志士ノ義ヲ全フセシナリト嗚呼君ハ仁義ノ士ナリ、豈其ノ厚德ニ背ク可キ乎、故ニ今茲明治卅三年十一月碑ヲ建テ□謝ノ為君ノ芳名ヲ萬世ニ伝ント翌スルナリ

【川本町18】川本町田窪中石 K46 沿い 酬鴻澤

所在地 邑智郡川本町田窪中石 K46 沿い

(芋殿No.12)

北緯 34° 59' 39.55" / 東経 132° 24' 17.06"



【建立年】明治21年(1888)
 【建立者】中石中
 【碑石前面】酬鴻澤
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日□井戸平左衛門正明
 【碑石左面】明治廿一年九月建之
 【二段目台石前面】中石中
 【同左面】世話人/飯田亀治郎/佐々木佐市/松田政治郎/渡辺甚作/石工/重田市十郎/坪内久市
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道46号沿いに石を組んで広い基礎を2段に渡って造り、石造りの地藏堂とこの碑が立っている。碑の台石も4段あって、どの石も大きめだ。碑文はいずれも達筆で彫りも深く、読みやすいが各所に傷みがある。
 (調査日2022年6月7日)



碑石 高さ98/幅34/奥行34
 台石1段目 高さ30/幅55/奥行55
 台石2段目 高さ29/幅73/奥行74
 台石3段目 高さ31/幅94/奥行94
 台石4段目 高さ24/幅147/奥行140

【川本町19】川本町田窪堂庭 上石 **井戸正明碑**

所在地 邑智郡川本町田窪堂庭 上石 K46 沿い

(芋殿No.08)

北緯34°59'55.85" / 東経132°23'43.81"



碑石 高さ102/幅34/奥行33
 台石1段目
 高さ25/幅54/奥行54
 台石2段目
 高さ29/幅73/奥行73
 台石3段目
 高さ31/幅94/奥行95
 台石4段目
 高さ26/幅120/奥行121
 台石5段目(石組)
 高さ48/幅166/奥行166

【調査日】2022年6月7日

【調査の経過】
 5段の台石のうち4、5段目は新しい。県道改良工事で令和2年に移築し、台石が追加されたのだらう。4段目台石の名前もそのときの皆さんの名前と思われる。

【建立年】明治19年(1886)
 【建立者】當村上石中
 【碑石前面】井戸正明碑
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日「碑石左面」明治十九年十一月十八日建之「二段目台石前面」當村上石中「同左面」世話人／原田佐一郎／中村傳三郎／岡本武吉郎／岡本伝一郎／原田弥七郎／大島清四郎／重富米吉／横田崑七／角諦造「四段目台石後面」金子稔／大嶋利昭／吉本昌子／中本弘喜／原田忠昭



【川本町20】川本町南佐木 K32 沿い 泉石油向い **井戸平左衛門正朋公之碑**

所在地 邑智郡川本町南佐木 K32 沿い 泉石油向い

(芋殿No.26)

北緯34°59'58.85" / 東経132°24'56.19"



(単位：cm)
 碑石 高さ175/幅106/奥行42
 台石1段目
 高さ47/幅128/奥行106
 台石2段目
 高さ35/幅175/奥行147

【調査日】2022年6月7日

【そのほか】文字なし

【調査の経過】
 県道32号と46号の交差点の角に石碑のための小公園が整備してあり、そこに井戸公碑のほか、関係の3基の石碑がある。この碑の両脇には1対の石灯笼もある。ほかの石碑の一つ「授遺徳」に、「県道拡幅によって昭和52年に南佐木の皆さんが再建した」とあるので、再建時期を昭和52年とした。小公園全体に玉垣もあり、これからも地域の皆さんに大切にされるだらう。

【建立年】昭和52年(1977)
 再建
 【建立者】南佐木一同
 【碑石前面】井戸平左衛門正朋公之碑



【川本町21】川本町白地 K32 沿い 大田市境 **不明**

所在地 邑智郡川本町白地 K32 沿い大田市境

(芋殿No.06)

北緯35° 00' 42.73" / 東経132° 24' 07.96



碑石 高さ112/幅44/奥行29
 台石1段目
 高さ28/幅86/奥行72
 台石2段目
 高さ24/幅113/奥行100
 台石3段目
 高さ28/幅145/奥行153

【調査日】2022年6月7日

【調査の経過】
 県道32号の、ほぼ温泉津町境である。前碑(No.20)から約2.0キ、大田市温泉津町福田の碑まで約1.1キと近い。広い県道沿いだ、周りの木が大きくて非常に暗い。ほかの面の文字はよく読めるが、前面の碑銘だけが剥離していて読めない。

【建立年】明治18年(1885)
 【建立者】當村中
 【碑石前面】文字読めず
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日/井戸平左衛門正明「碑石左面」明治十八年十二月創立「一段目台石前面」當村中「同左面」世話人/森田勝四郎/藤田徳四郎/寺本円四郎/窪田芳七郎「同右面」地處寄附/平田勘吉



【川本町22】川本町湯谷上組 真光寺裏 **報遺徳**

所在地 邑智郡川本町上組 真光寺裏

(芋殿No.07)

北緯34° 59' 36.69" / 東経132° 31' 11.85"



碑石 高さ86/幅31/奥行31
 台石1段目
 高さ21/幅55/奥行55
 台石2段目
 高さ25/幅80/奥行80
 台石3段目
 高さ26/幅115/奥行111
 台石4段目
 高さ26/幅160/奥行158
 台石5段目
 高さ52/幅230/奥行274

【調査日】2022年6月7日

【調査の経過】
 県道46号の東約250mの道路沿いの高手に立つ。福光石で傷みも苔もあるが文字は読める。台石が5段と段数も多く、最下段には巨石が並ぶ。

【建立年】明治19年(1886)
 【建立者】湯谷村之上組中
 【碑石前面】報遺徳
 【碑石右面】享保十八年癸丑五月二十六日/井戸平左衛門正明
 【碑石左面】維時明治十有九年/丙戌十一月吉祥日建立之「二段目台石前面」湯谷組之上組中
 【同左面】世話人/熊谷為一良/熊谷清三良/山田嘉一良/地主/中野淳信/石工福光/山中原一郎「同右面」福田信太良/山下吉太良/木村政九良/清水清太良/世話人



【川本町23】川本町北佐木 石川氏宅横 **泰雲院殿義岳良忠居士**

所在地 邑智郡川本町北佐木 石川氏宅横

(芋殿No.30)

北緯35° 00' 33.97" / 東経132° 25' 26.47"



(調査日2022年6月7日)

【建立年】不明
 【建立者】當村中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八年癸丑年五月二十……井戸平左衛門正明
 【碑石左面】幾すも君の恵於和州連なよ可多みにのこす石福みの塚「二段目台石前面」當村中／庄屋伊兵衛
 【調査の経過】北佐木の県道46号沿い。プロック3段の基礎の上に地藏堂とこの碑が立っているが、周りの木々がかなり大きいので、道路から姿が見えにくい。道路から上がる3段の石段が目安か。福光石でかなり剥落している。碑石左面に和歌が彫られているのが興味深い。

碑石 高さ100/幅34/奥行34
 台石1段目 高さ30/幅54/奥行54
 台石2段目 高さ30/幅78/奥行78
 台石3段目 高さ25/幅102/奥行107
 台石4段目 高さ16/幅164/奥行不明



【川本町24】川本町湯谷 K187 沿い中原橋たもと **報遺勳**

所在地 邑智郡川本町湯谷 K187 沿い中原橋たもと三差路辻

(芋殿No.16)

北緯35° 00' 37.01" / 東経132° 26' 45.51"



(調査日2022年6月2日)

【建立年】明治27年(1894)
 【建立者】湯谷本郷口中
 【碑石前面】報遺勳
 【碑石右面】享保十八年五月廿六日／井戸平左衛門正明
 【碑石左面】明治二十七年四月十八日謹建「二段目台石前面」湯谷本郷口中「同右面」石工祖式／山本長四郎「三段目台石前面」三谷村長／寺本三治郎／全村助長発起／全地所寄付者／寺本卯一郎／周旋人／井下安太郎／遠藤庄作／畑野市太郎
 【調査の経過】台石は3段だがその下に石をかなり積んだ、2段で114cmの基礎があるので、碑は少し高い場所になる。硬い石で、白っぽい苔がかなりあるが、傷みはなく、文字もよく読める。

碑石 高さ75/幅33/奥行31
 台石1段目 高さ20/幅52/奥行47
 台石2段目 高さ20/幅70/奥行67
 台石3段目 高さ19/幅90/奥行84



【川本町25】川本町三侯 八幡宮 井戸明府洪徳碑

所在地 邑智郡川本町三侯 K187 沿い 八幡宮

(芋殿No.05)

北緯35° 00' 46.45" / 東経132° 27' 51.52"



(調査日2022年6月2日)

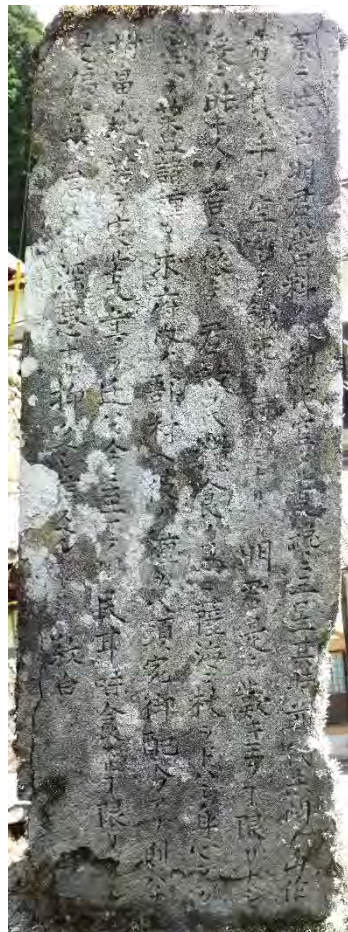
〔調査の経過〕
 県道187号のT字路にある八幡宮の拝殿左手にある。周囲の植木がかなり大きくなっており、手入れして調査した。1段目の台石は亀の姿で、頭も足もある(津和野町No.01も)。碑石は福光石で剥落や亀裂があるが文字は読める。

【建立年】安政3年(1856)
 【建立者】當村中
 【碑石前面】井戸明府洪徳碑
 【碑石右面】享保十八丑三五月廿六日逝/安政三辰壬十一月建之
 【碑石左面】碑文(下欄に記載)
 【二段目台石前面】當村中/庄屋/情三郎/見習/直三郎/頭百姓/五良蔵/百姓代/権三郎/同/良兵エ/同/逸作



碑石 高さ93/幅30/奥行30
 台石1段目(亀の形)
 高さ19/幅50/奥行70
 台石2段目
 高さ26/幅77/奥行76
 台石3段目
 高さ13/幅97/奥行97
 台石4段目
 高さ48/幅164/奥行130

【川本町25】川本町三侯 八幡宮 井戸明府洪徳碑 続き (碑文)



原二井戸名君當料ノ御代官タル更続ニ三星其時前代未聞ノ凶作有テ民ノ手ヲ空フシテ餓死ヲ待ノミナリ名君是ヲ嘆キ玉フテ限ナシ爰ニ□キ人ノ言ハニ依テ君救民糧食ノ為ニ薩海ニ杖ヲトハシ身心ヲ勞シ玉ヘテ蕃諸ヲ求府内ノ郡村ヘ彼ノ種ヲ八頭宛御配分アリ即ハチ増畠ノ地ニ蒔テ実ル更年ヲ□ハス今ニ至テ州民□味食スルテ限りナシ是偏ヘニ□君ノ御深恵ナリ仰クヘシ信スヘシ 敬白

【川本町26】川本町笹畑 笹遊里入口交差点 泰雲院殿碑

所在地 邑智郡川本町笹畑 笹遊里入口交差点

(芋殿No.04)

北緯34° 59' 56.12" / 東経132° 27' 51.88"



【建立年】嘉永元年（1848）
 【建立者】笹畑中
 【碑石前面】泰雲院殿碑
 【碑石右・左面】碑文（下欄に記載）
 【碑石裏面】福光／石工／甚四郎
 【一段目台石前面】笹畑中
 【調査の経過】
 材木（No.27）と並び、川本町で最古の碑だ。大安寺の東北約250m、ふれあい公園笹遊里の手前の十字路に立っている。長文の碑文が彫ってあるが、ほとんど読めず、平成2年に発行された「芋殿さんの碑」の編集時点でも完全には読めていない。4段の台石の下に石組みで高さ73cm、幅215cmの基礎が造られているが、平成20年ごろに自治会の皆さんが修理されたと聞いた。
 （調査日2022年6月2日）



碑石 高さ68/幅27/奥行27
 台石1段目
 高さ20/幅47/奥行47
 台石2段目
 高さ22/幅67/奥行67
 台石3段目
 高さ19/幅79/奥行79
 台石4段目
 高さ16/幅102/奥行101

【川本町26】川本町笹畑 笹遊里入口交差点 泰雲院殿碑 続き（碑文「芋殿さんの碑」より）

左面

右面



救可餓死者州民大悦戴君 父母時君有官庫 備後州笠岡
 疾而卒焉 享保十八年癸丑夏五月廿六日也哀慕 特回建碑
 扮各土以奉祀 天步戊申季冬茲鄉之人将建其碑來請仔□
 □不敏聊録数字以授之銘曰 維山嶽降君博恤窮民 本文百世
 大哉其仁
 嘉永戊申季冬大国村照善坊釋令□慎撰



君諱正朋姓井戸氏通称平左エ門江府以 享保 春奉
 命奉 山矣 人 □度而視象 世 南国
 之僧來謁君 謝救危 召春薩州甘諸有其味甘且 人養之以
 助 領利平民エ門之大 人抱 得芋百斤勸分哉村
 民芸 之 年栽植施以辺境総 同壬子秋有蝗州民大
 餓嘗是也 而君 日 天救可餓死者州民大悦戴君如父母
 時君有官庫 授備後州笠岡 疾而卒 享保十八年癸丑夏五
 月廿六日也州民哀慕元特回建碑於各土以奉祀

【川本町27】川本町材木入口 小川沿い旧道 **井戸明□□**

所在地 邑智郡川本町材木入口 小川沿い旧道

(芋殿No.01)

北緯35° 00' 36.15" / 東経132° 29' 03.93"



碑石 高さ61/幅24/奥行23
 台石 1段目
 高さ14/幅38/奥行38
 台石 2段目
 高さ14/幅45/奥行不明
 台石 3段目
 高さ76/幅122/奥行不明

(調査日2022年8月31日)

〔調査の経過〕
 材木地区にある現在の道路の東側に小川があり、その対岸に立っている。多くの方にお願いで探していただいたが、いまではすっかり苔に覆われているので、道路からでは確認できなかっただろう。
 「材木千軒」というほど人が住んでいたが今は人家はないという材木。井戸公碑は多少の剥落や傷みはあるが、しっかりと立っていた。

〔建立年〕嘉永元年(1848)
 〔建立者〕材木中
 〔碑石前面〕井戸明□□
 〔碑石右面〕嘉永元年申十二月／善法日
 〔碑石左面〕施主材木中／世話人／同松右工門／倉吉



【川本町28】川本町馬野原 澤田氏宅下 **泰雲院殿義岳良忠居士**

所在地 邑智郡川本町馬野原 澤田氏宅下

(芋殿No.29)

北緯35° 01' 21.46" / 東経132° 28' 56.21"

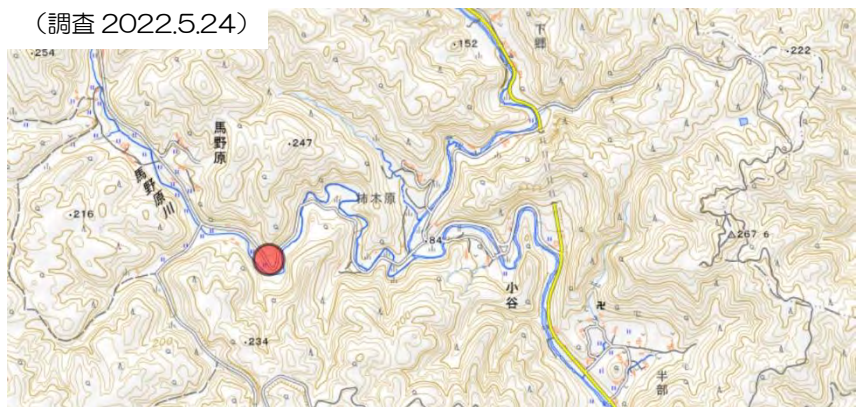


(単位：cm)
 碑石 高さ105/幅31/奥行25
 台石 1段目
 高さ31/幅54/奥行49
 台石 2段目
 高さ30/幅79/奥行73

(調査2022.5.24)

〔調査の経過〕
 馬野原地区の道路沿いに立つ。記録によると昭和60年にここに移転している。

〔建立年〕不明
 〔建立者〕馬野原區中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕享保十八年五月二十六日
 〔碑石左面〕井戸平左衛門正明「二段目台石前面」馬野原區中「同右面」世話人／伊藤共次郎／全苗清九郎／全苗吉太郎「二段目台石前面」寄附人別
 伊藤常一郎／全苗吉太郎／今岡助太郎／伊藤助次郎／全苗若次郎／全苗新二郎／今岡梅吉／今岡吉太郎／原田松太郎／伊藤徳次郎／松浦栄四郎／石田常四郎／伊藤鉄三郎／沖田浅八／太田磯吉／三谷村中隠居秀吉／今岡乙一郎／亀川元次／亀川常吉／三宅仙三郎／林喜作／松尾嘉助／前田市蔵／池永哀亮／中田梅次郎／伊藤友市／二百田忠吉／原田マチ／中隠居マキ／切□亀太郎／中百田シズ太郎
 「二段目台石右面」福光石工／山中庄太郎



【川本町29】川本町川内 下谷氏裏山 川内旧道 **井戸明府紀念碑**

所在地 邑智郡川本町川内 下谷氏裏山 川内旧道

(芋殿No.10)

北緯35° 02' 10.80" / 東経132° 29' 20.08"

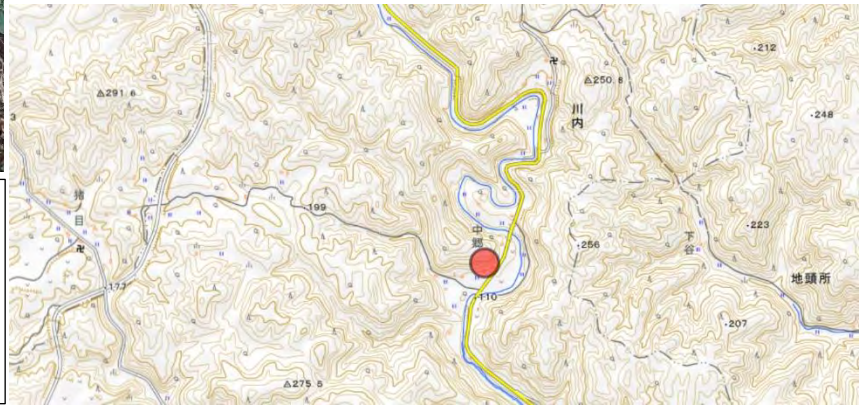


(調査日2022年6月9日)

【調査の経過】
 県道31号から山の中に入り、笹が生い茂る中を草刈りしながら発見した。碑の前は旧道で大森街道だったというが、ここを西に進んで、祖式町猪ノ目から大森に至っていたのだろうか。碑石は少し茶色がかった硬そうな自然石で、草や笹に覆われていたが傷みもなく、苔も少ない。台石と比べると非常にきれいな状態だ。斜面の土砂がかなり落ちてきていると思われ、台石の奥行が測定できなかった。

【建立年】明治21年(1888)
 【建立者】川内村中
 【碑石前面】井戸明府紀念碑
 【碑石左面】明治二十一年四月建之 川内村中
 【そのほか】文字なし

碑石 高さ134/幅73/奥行40
 台石1段目 高さ24/幅125/奥行不明
 台石2段目 高さ30/幅140/奥行不明
 台石3段目 高さ34/幅152/奥行不明



【川本町30】川本町半部 高良氏宅裏山 **(台石のみ)**

所在地 邑智郡川本町半部 高良氏宅裏山

(芋殿No.03)

北緯35° 01' 09.33" / 東経132° 29' 44.60"



(調査日2022年6月9日)

【調査の経過】
 平成2年3月発行の「芋殿さんの碑」(川本町歴史研究会)によると碑銘「泰雲院殿義岳良□□□」、建立年は嘉永7年(1854)、建立者は「半部組中」となっている。
 県道31号沿いの高良氏宅の裏山を少し上がると、斜面に石碑の台石と思われる石群があり、その一部と思われる石も数個散乱していて、ここに井戸公碑があったと思われるが、残っている碑からは文字が確認できなかった。

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】(台石のみ)
 【そのほか】文字確認できず

(単位: cm)
 台石の一部
 23×70×30など数個存在



【川本町31】川本町多田 三宅氏墓地 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 邑智郡川本町多田 三宅氏墓地

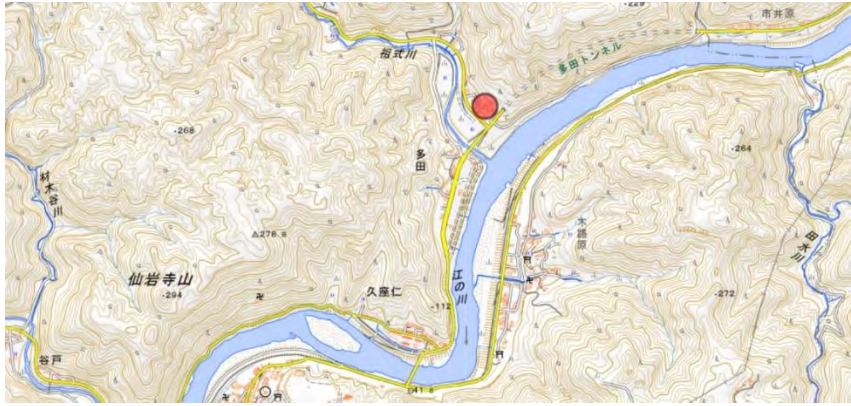
(芋殿No.28)

北緯35° 00' 25.69" / 東経132° 30' 25.45"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八丑五月廿六日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道31号沿いの三宅氏宅の墓地は東側の高手にあり、そこにこの碑が立っている。
 福光石で、碑石は高さ48^{センチ}、総高さも110^{センチ}と小ぶりだが、台石を3段積み、しかも3段目にはかなり大きな石を組み合わせたというていねいな造りだ。苔は少しあるものの、傷みはないようで、彫られている文字ははっきり読むことができた。
 (調査日2022年5月24日)

碑石 高さ48/幅19/奥行19
 台石1段目 高さ12/幅30/奥行31
 台石2段目 高さ11/幅40/奥行39
 台石3段目 高さ39/幅77/奥行63



【美郷町01】美郷町沢谷 K166 沿い 千原八幡宮 **井戸正明之碑**

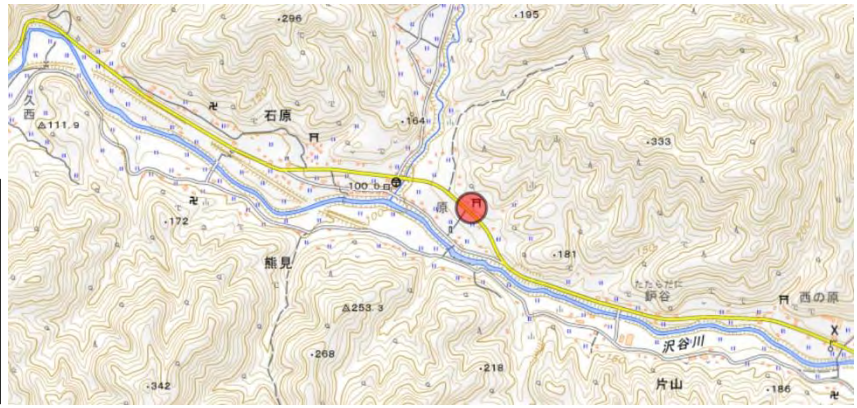
所在地 邑智郡美郷町沢谷 K166 沿い 千原八幡宮 宮司宅前

北緯 35° 03' 19.36" / 東経 132° 38' 46.82"



碑石 高さ131/幅60/奥行26
 台石1段目 (コンクリート)
 高さ16/幅48/奥行38
 台石2段目
 高さ14/幅93/奥行58
 台石3段目 (コンクリート)
 高さ12/幅134/奥行113

【建立年】明治20年(1887)
 【建立者】(世話人名等あり)
 【碑石前面】井戸正明之碑
 【碑石左面】享保十八年癸丑五月十六日飯幽/三拾二世/訓導高橋□□「碑石後面」明治二十一年十一月五日建之/寄附人/村尾和道/世話人/菅田源十郎/畑野浦三郎/敬□
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 県道166号沿いの千原八幡宮の宮司宅前に立つ。
 碑石は茶色がかった自然石で、白っぽい苔は少しあるが傷みはなく、文字ははっきり読める。碑石後面下部に彫ってある文字が一部台石で隠れているので、1段目のコンクリート台石は後日の施工かもしれない。
 (調査日2022年4月18日)



【美郷町02】美郷町浜原 上川戸 K166 沿い **井戸明府碑**

所在地 邑智郡美郷町浜原 上川戸 K166 沿い

北緯 35° 03' 27.80" / 東経 132° 37' 07.28"



(単位: cm)
 碑石 高さ126/幅63/奥行35
 台石 高さ13/幅78/奥行不明

【建立年】明治25年(1892)
 【建立者】川戸上區中
 【碑石前面】井戸明府碑(下に)川戸上區中
 【碑石後面】特志者/大田恒松出張員清水忠哉/三上勝市/曾根品市/三上忠市/畑野初市/高橋乙市/曾根清吉/三上辰太郎/潮奥野倉太郎/新田藤二郎/明治廿五年七月廿五日/発記者/中原源造/世話人/三上忠市/三上勝市/曾根品市/畑野初市/板井貞市
 【調査の経過】
 県道166号の直線部分の道沿いに高さ約1.1mの基礎をして、地蔵堂、大正天皇即位記念碑と共にこの碑が立っている。碑石は硬そうな灰色の自然石。傷みはなく苔もほとんどない。
 (調査日2022年4月18日)



【美郷町03】美郷町浜原 新町 桂根八幡宮参道 **井明府之碑**

所在地 邑智郡美郷町浜原 新町 桂根八幡宮参道階段左手

北緯35° 03' 38.32" / 東経132° 35' 59.76"



〔調査日〕2022年4月22日

〔調査の経過〕
道路から東に参道が伸び、参道が階段になると左手にこの碑が立っている。ほぼ立方体のコンクリートの台石の上に丸い形の自然石の碑石が乗っている。

〔建立年〕明治26年(1893)

〔建立者〕(世話人名等あり)

〔碑石前面〕井明府之碑(右に) 明治廿六年己一月建之

〔碑石後面〕世話人／藤井幸太郎／柿山寅市／野津増之助／大野作太郎／和田宇三郎／児島丈次郎／静岡源吉／奥野只市

〔そのほか〕文字なし

碑石は硬そうな明るい灰色で、白っぽい苔がわずかにあるが傷みはなく、非常にきれいな状態だ。



(単位：cm)

碑石 高さ109/幅83/奥行45
台石(コンクリート)
高さ82/幅128/奥行110

【美郷町04】美郷町浜原 滝原地蔵畑 町道山側 **泰雲院儀岳良忠大居士**

所在地 邑智郡美郷町浜原 滝原地蔵畑 町道山側

北緯35° 02' 56.92" / 東経132° 35' 55.61"



〔調査日〕2022年4月22日

〔調査の経過〕
細い道路沿いに立っている。安政4年の建立で美郷町内で最も古く、ほかに君谷の久喜原、吾郷の越堂と堂平の3基が同じ年に建立されている。

〔建立年〕安政4年(1857)

〔建立者〕(世話人名等あり)

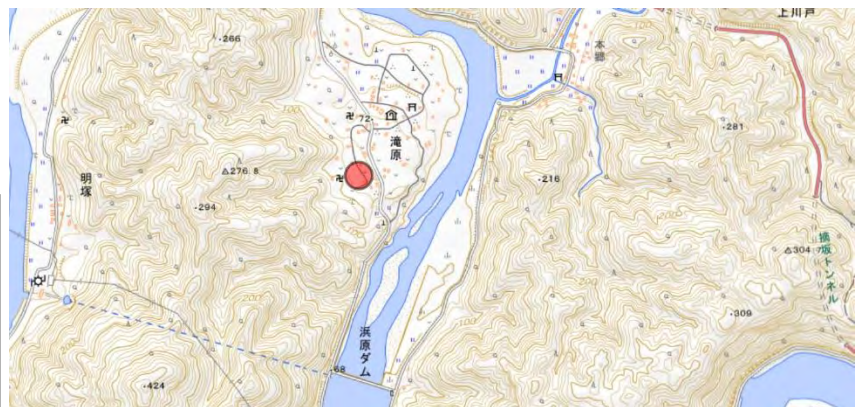
〔碑石前面〕泰雲院儀岳良忠大居士(右に) 享保十八年(左に) 癸丑五月二十六日

〔碑石右面〕安政四年／丁巳八月 建立／世話人／才蔵／安兵エ／早太郎

〔碑石左面〕小原町／石工安吉

〔そのほか〕文字なし

碑石は黒っぽい自然石で、傷みはないが、白っぽい苔が生えている。



(単位：cm)

碑石 高さ107/幅42/奥行19
台石1段目
高さ29/幅90/奥行64
台石2段目
高さ25/幅128/奥行115

【美郷町05】美郷町浜原 信喜 町道山側 **井戸正明君之碑**

所在地 邑智郡美郷町浜原 信喜 町道山側 三島家墓地入口

北緯35° 02' 17.49" / 東経132° 37' 14.67"



(調査日2022年4月18日)

〔調査の経過〕
道路から南へ未舗装の道を少し入ると三島家の墓地があり、その入り口にこの碑が立っている。以前はこの碑の前が道だったのだろうか。
碑石は茶色がかったすらりと背の高い自然石で、苔は生えているものの、傷みはないようだ。

【建立年】大正3年(1914)
【建立者】信喜区中
【碑石前面】井戸正明君之碑
【碑石右面】大正三年八月建之
【碑石左面】信喜区中 世話人
高橋忠太郎 / 波多野房市 / 吉川順太郎



(単位: cm)

碑石 高さ222/幅73/奥行52
台石 高さ18/幅90/奥行84

【美郷町06】美郷町粕淵 高畑土居上 大谷氏宅前 **井戸君頌徳碑**

所在地 邑智郡美郷町粕淵 高畑土居上 K40 沿い 大谷氏宅前

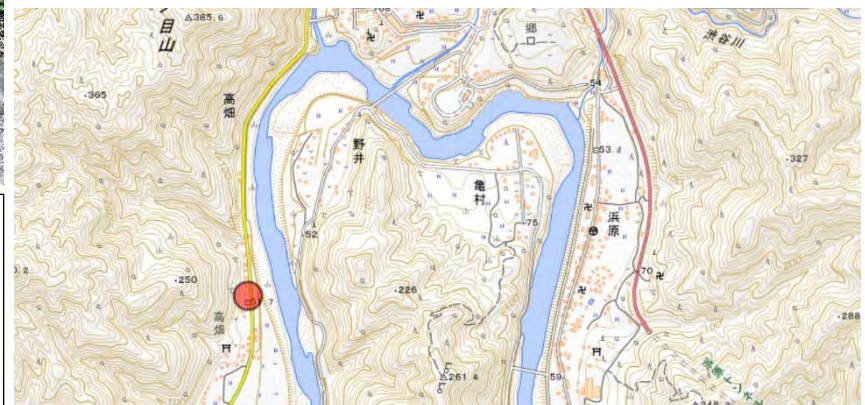
北緯35° 03' 46.06" / 東経132° 35' 04.80"



(調査日2022年4月22日)

〔調査の経過〕
県道40号の広い直線の道路沿いに立つ。
碑石は目の細かい硬そうな黒っぽい自然石。1段目の台石は幅173^{センチ}の1枚岩、2段目の台石は3段の石をきちんと組んでおり、全体として格調高い。
台石には少し苔が見られるが、碑石には苔はなく傷みもない。

【建立年】大正12年(1923)
【建立者】在郷軍人會高畑班
【碑石前面】井戸君頌徳碑
【碑石右面】帝國在郷軍人會 / 粕淵村分會 / 高畑班主催
【碑石左面】大正十二年十月建立
【そのほか】文字なし



(単位: cm)

碑石 高さ166/幅74/奥行65
台石1段目
高さ23/幅173/奥行116
台石2段目(石組)
高さ80/幅268/奥行230

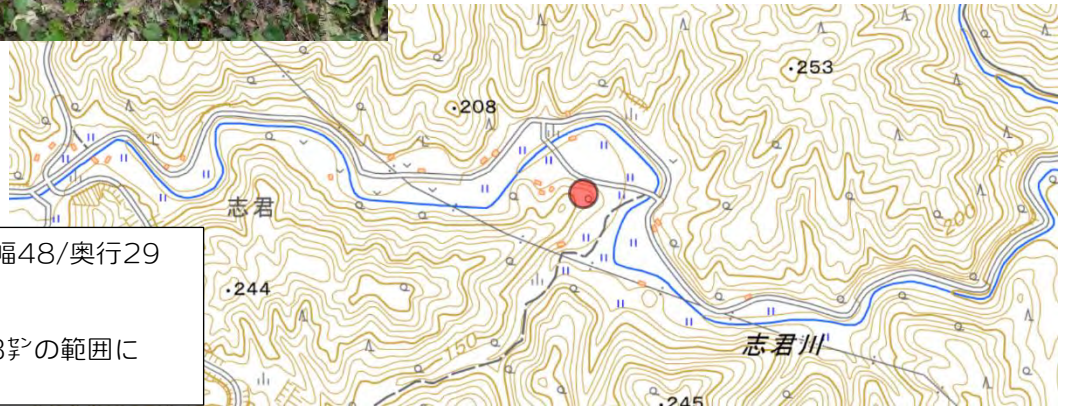
【美郷町07】美郷町君谷 志君 神田橋南の丘の上 **不明**

所在地 邑智郡美郷町君谷 志君 神田橋南の丘の上

北緯35° 04' 25.82" / 東経132° 33' 19.84"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】なし
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 以前は歩いて上がれる道があり、丘の上が広場になっていて、田村屋地蔵堂という地蔵堂があった。地蔵は下の舗装路横に降ろされて、井戸公碑だけが残っていたが、地震か何かで碑石が倒れてしまっている。
 碑石そのものは灰色の硬そうな自然石で、倒れている姿を観察しても傷みはないようだ。
 (調査日2022年5月6日)



碑石 高さ121/幅48/奥行29
 ほかに、
 2段の台石が
 52×145×123の範囲に残っている

【美郷町08】美郷町君谷 日焼畑 小林入口から100m **泰雲院殿儀岳良忠居士**

所在地 邑智郡美郷町君谷 日焼畑 小林入口から100m

北緯35° 04' 21.50" / 東経132° 31' 25.22"



【建立年】安政5年(1858)
 【建立者】惣森村中
 【碑石前面】泰雲院殿儀岳良忠居士(右に) 享保十八年癸丑五月廿六日
 【碑石右面】安政五戌年七月十日 / 惣森村中「碑石左面」井戸平左衛門正明「碑石後面」石工□□ / 喜治郎 / 世話人 / 佐太郎 / 金三郎 / 頭百姓 / 伊平
 【調査の経過】
 県道291号を東に曲がって約100mの道路沿いに広場を造り、地蔵堂とこの碑が立っている。手前に割と大きな丸い石が置いてあるが、サツマイモのお供えか。
 碑石は灰色の自然石で傷みはないようだ、かなり苔が生えている。
 (調査日2022年4月28日)



(単位: cm)
 碑石 高さ87/幅44/奥行32
 台石1段目
 高さ16/幅58/奥行58
 台石2段目(石組)
 高さ43/幅90/奥行73

【美郷町09】美郷町君谷 小松地 銀山街道 **泰雲院殿義岳良忠居士**

所在地 邑智郡美郷町君谷 小松地 銀山街道

北緯35° 05' 53.23" / 東経132° 31' 21.46"



碑石 高さ96/幅34/奥行33
 台石 1段目
 高さ26/幅52/奥行52
 台石 2段目
 高さ26/幅76/奥行77
 台石 3段目
 高さ29/幅95/奥行101

〔建立年〕万延元年（1860）
 〔建立者〕小松地村中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕万延元年庚申歳十一月吉日建立之
 〔碑石左面〕享保十八癸丑五月廿六日逝去
 〔二段目台石前面〕小松地村中
 〔調査の経過〕
 別府から石見銀山に向かう銀山街道（県道186号）の北側沿いに、別の碑と並んで立っている、周囲はきれいに手入れされており、台石の上面に合計21個の盃状穴がある。
 碑石は福光石だが、傷みも苔も少なく、文字もはっきり読める。
 （調査日2022年4月28日）



【美郷町10】美郷町君谷 堂ヶ鼻 大田市境 K186 沿い **泰雲院殿義岳良忠居士**

所在地 邑智郡美郷町君谷 堂ヶ鼻 大田市境 K186 沿い

北緯35° 04' 58.48" / 東経132° 28' 49.08"



(単位：cm)
 碑石 高さ93/幅55/奥行34
 台石 高さ20/幅73/奥行47

〔建立年〕安政7年（1860）
 〔建立者〕柵谷村中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕享保十八年癸丑五月二十六日「碑石後面」安政七年／庚申閏三月「台石前面」柵谷村中「同左面」庄屋／健十郎／頭百姓／勘兵衛／百姓代／長平
 〔調査の経過〕
 県道186号で大田市水上町に向かう、その市町境の道路沿いの西側に場所を造り、地藏堂とこの碑が立っている。前を走る県道が工事中はすぐ隣の倉庫に保管されていて、工事終了後にここに設置された。
 碑石は硬そうな赤っぽい自然石で傷みはない。
 （調査日2022年4月22日）



【美郷町11】美郷町君谷 久喜原 K291 沿い岩の上 **井戸明君碑**

所在地 邑智郡美郷町君谷 久喜原 K291 沿い岩の上

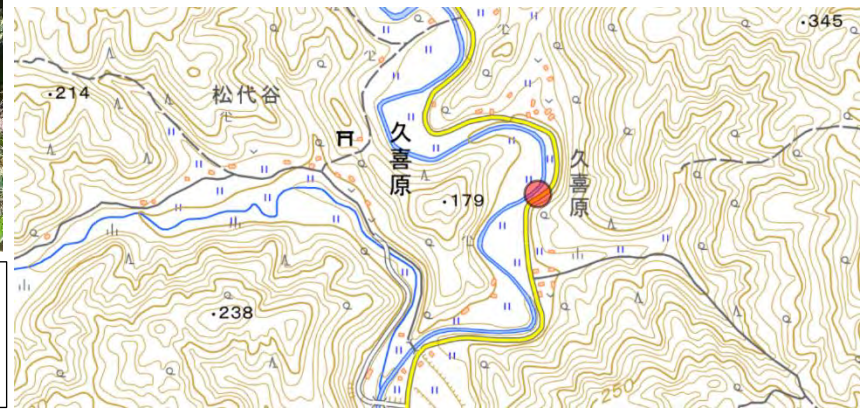
北緯35°02'55.90" / 東経132°31'01.04"



(単位：cm)
 碑石 高さ110/幅40/奥行39
 台石 高さ20/幅82/奥行80

(調査日2022年4月28日)

【建立年】大正13年(1924)
 【建立者】久喜原區
 【碑石前面】井戸明君碑
 【碑石右面】大正十三年九月吉日
 【碑石左面】久喜原區建之
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 久喜原の県道291号沿いに、残った岩に沿って地藏堂が建てられており、地藏堂の両側の高さ185cmの岩の上に2基の井戸公碑が立っている。右側の碑は大正13年に自然石で建立された。左側の碑は古く、「願主」の文字は読めるが名前は読めなくなっている。一方でこちらの碑は「久喜原區建之」とはっきり読める。左側の碑が傷んできたので、追加で建立したのだろうか。



【美郷町12】美郷町君谷 久喜原 K291 沿い岩の上 **泰雲院殿儀岳良忠居士**

所在地 邑智郡美郷町君谷 久喜原 K291 沿い岩の上

北緯35°02'55.90" / 東経132°31'01.04"



(単位：cm)
 碑石 高さ87/幅36/奥行29
 台石1段目
 高さ23/幅52/奥行48
 台石2段目
 高さ21/幅67/奥行68

(調査日2022年4月28日)

【建立年】安政4年(1857)
 【建立者】(願主名あり)
 【碑石前面】泰雲院殿儀岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八年/丑五月廿六日/井戸平左エ
 【碑石左面】安〇四己年八月吉日/願主
 ……
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 左側のこの碑は古く、福光石製ということもあって、小さな文字が読めなくなっている。碑石の剥離も少しあるようだ。この2基を調査するために脚立をかけて岩の上に乗ったが、岩の上が広くなく、後ろはすぐ崖ではるか下に江の川が見える。木や草がなかったらこわくて上がれなかっただろう。

→ 地藏堂の両側に立つ井戸公碑



【美郷町13】美郷町君谷 地頭所 K291 から橋渡る なし

所在地 邑智郡美郷町君谷 地頭所 K291 から橋渡る

北緯 35° 02' 05.75" / 東経 132° 30' 38.12"



(単位：cm)

碑石 高さ78/幅69/奥行38

(調査日 2022年4月28日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】なし
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 文字も何もない、大きな石である。ただ、昔から「芋代官の碑」と口伝えに伝えられ、地域の人々が大切にしてきた。2012年に行ったときには碑の前に花が供えられていた。
 こうした石は、井戸公とサツマイモに感謝するという意味で、頌徳碑の原型とも考えられ、例えば隠岐郡西ノ島町にも（No.06）ある。どんな文字が彫つてあるかが重要ではなく、この石がそうだと、口承で次代の人々に伝えていくことこそが、大切にされるべき思いなのだ。



【美郷町14】美郷町君谷 志君 やなしお坂中の休 為井戸氏御菩提

所在地 邑智郡美郷町君谷 志君 やなしお坂中の休

北緯 35° 04' 59.92" / 東経 132° 34' 45.14"



(単位：cm)

碑石 高さ74/幅30/奥行30
 台石 高さ24/幅52/奥行54

(調査日 2020年11月18日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】為井戸氏御菩提
 【碑石右面】南無□□大士
 【碑石後面】南無阿弥陀仏
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 国道375号の「灰屋バス停」から向かう、美郷町の銀山街道「やなしお道坂」の途中の休憩場所「中の休」に立っている。碑石は福光石と思われ、痩せていて角が取れ、文字も消え気味になっている。緑色の苔も生えている。
 急なやなしお坂を往来しながら、「中の休」で休憩するときに、この碑に向かって手を合わせていた人たちの姿が想像される。



【美郷町15】美郷町吾郷 田水 田平氏宅前の道路沿い **井戸明府碑**

所在地 邑智郡美郷町吾郷 田水 田平氏宅前の道路沿い

北緯34° 59' 19.13" / 東経132° 31' 46.79"



(調査日2022年4月22日)

【建立年】昭和9年(1934)
 【建立者】(発起人名あり)
 【碑石前面】井戸明府碑(右に)
 昭和九年二月建之(左に) 発起人 田平豊松
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 田水は川本町境。集落を川沿いに東西に走る道路の北側の、擁壁の上を利用して、小さな地藏堂とこの碑が立っている。台石には補強のために前や横にブロックが入れているようだ。
 碑石は硬そうな濃い灰色の自然石で、下部に白っぽい苔がかなり見える。傷みはなく、文字もはっきり読める。



(単位: cm)

碑石 高さ103/幅95/奥行48
 台石 高さ23/幅121/奥行不明

【美郷町16】美郷町吾郷 堂山 奥野庵裏山 **井戸正明君碑**

所在地 邑智郡美郷町吾郷 堂山 奥野庵裏山

北緯35° 01' 14.83" / 東経132° 35' 00.93"



(調査日2022年4月22日)

【建立年】大正6年(1917)
 【建立者】高山区中
 【碑石前面】井戸正明君碑(右に)
 発記世話人/下寺留人/元奥野惣三郎(左に) 高山区中之建
 【碑石後面】泰雲院殿義岳良忠居士享保十八年五月廿七日夜備中笠岡ニ於テ自殺行年六十二才墓地備中笠岡威徳寺ニアリ今ヨリ百八十五年前ナリ/大正六年八月建之
 【調査の経過】
 集落の山側に奥野庵というお堂があり、その裏山にこの碑が立っている。碑までは手入れされていていて楽に行けるし、碑の周りもきれいにされている。
 自然石の碑石には少し苔はあるが傷みはなく、碑文などの文字もよく読める。



(単位: cm)

碑石 高さ108/幅64/奥行26
 台石 高さ33/幅103/奥行66

【美郷町17】美郷町吾郷 越堂 旧道三差路小山上 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 邑智郡美郷町吾郷 越堂 旧道三差路小山上

北緯35° 01' 55.55" / 東経132° 32' 50.21"



【建立年】安政4年（1857）
 【建立者】當村中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】碑文（下欄に記載）
 【碑石左面】安政四丁巳年／六月六日建之
 【二段目台石前面】當村中
 【同左面】福光石工／儀平／同利平／同恒七
 【調査の経過】
 道路に挟まれて小山が残った不思議な地形だが、JR三江線敷設の時にこのような形で残ったという。碑までは石段と手すりがついている。
 4段目の台石は見事な石組み



でかなり大規模な碑だ。碑石は福光石で苔もあり、剥離、ひび割れなどの傷みもある。
 （調査日2022年4月22日）

碑石 高さ114/幅37/奥行30
 台石1段目 高さ27/幅67/奥行59
 台石2段目 高さ34/幅105/奥行88
 台石3段目 高さ12/幅147/奥行128
 台石4段目（石組） 高さ95/幅307/奥行214

【美郷町17】美郷町吾郷 越堂 旧道三差路小山上 泰雲院殿義岳良忠居士 続き（碑文）



故銀山御代官井戸君平左衛門諱正明以享保十六辛卯來在任三年赴於備笠岡而卒實享保十八年癸丑五月廿六日也百姓如□□前是每荒年海郷之戸餓孚相望君深憂焉遠求甘藷始播斤鹵蔓滋根殖民以充食乃免死凶至今畠植戸收絢受其賜築壇立石敬勤嘉惠翼傳千里之遐萬歲之久

【美郷町18】美郷町吾郷 栗原 願泉寺境内 **泰雲院殿義岳良忠居士碑**

所在地 邑智郡美郷町吾郷 栗原 願泉寺境内

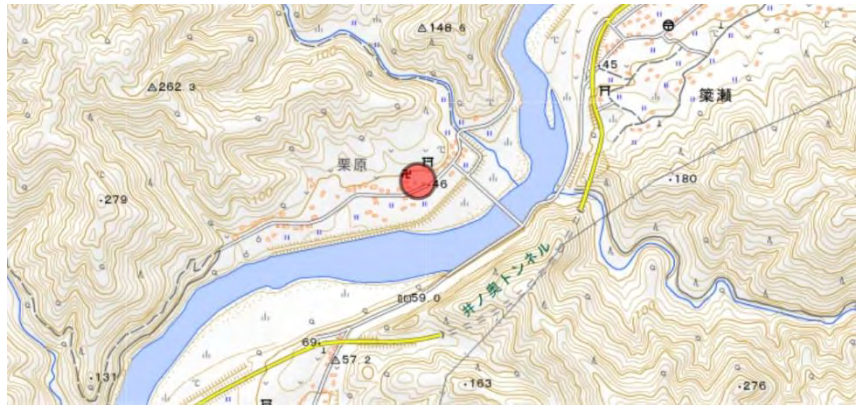
北緯35° 02' 11.86" / 東経132° 32' 59.16"



(調査日2022年4月22日)

【建立年】昭和9年(1934)
 【建立者】村中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士碑
 【碑石右面】亥十月村中
 【碑石左面】世話人/川村屋榮作/藤田屋善助
 【碑石後面】御降誕記念/昭和九年四月三日/...支部青年會
 【調査の経過】
 願泉寺の前の町道沿いにあつたが、道路拡幅の際に寺の境内に移設されたという。本堂に向かつて右側に立っている。
 1段目の台石には盃状穴がある。
 碑石は硬そうな黒っぽい自然石で、白っぽい苔はあるが傷みはなく、文字は読める。

(単位: cm)
 碑石 高さ107/幅63/奥行38
 台石1段目
 高さ16/幅86/奥行68
 台石2段目(コンクリート)
 高さ68/幅109/奥行100



【美郷町19】美郷町吾郷 江戸 町道山側 尾原屋敷内 **井戸明府碑**

所在地 邑智郡美郷町吾郷 江戸 町道山側 尾原屋敷内

北緯35° 02' 30.60" / 東経132° 34' 05.44"



(調査日2022年4月22日)

【建立年】大正15年(1926)
 【建立者】尾原氏
 【碑石前面】井戸明府碑
 【碑石後面】井戸明府者誰所謂甘諸/代官也樹石者誰尾原英夫也而/曰操幹建之者何成遺志也夫明府之事蹟膾炙人口今不復贅繫以詩代銘/一塊甘諸淡國中萬千餓餒浴仁風治功/不愧南陽守父老至今說井公/大正十五年四月三日/尾原義雄撰/尾原操軒建
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 井戸公碑の左隣には「錦織玄秀碑」(笠岡陣屋で井戸公の診察をした築瀬村の医師)があり、碑の後ろ側が壁のような石垣でつながっている。尾原氏は錦織玄秀の縁者で、大正6年には重雄氏が玄秀碑を建立した。

(単位: cm)
 碑石 高さ109/幅56/奥行40
 台石1段目
 高さ25/幅104/奥行74
 台石2段目(石組み)
 高さ137/幅167/奥行116



【美郷町20】美郷町吾郷 団地広場 吾郷集会所前 **井戸府君碑**

所在地 邑智郡美郷町吾郷 団地広場 吾郷集会所前

北緯35° 02' 36.06" / 東経132° 34' 30.84"



(調査日2022年4月22日)

〔調査の経過〕
元は少し南側の県道40号沿いに立っていたが、水防防災対策事業で堤防がかさ上げになったため団地広場の吾郷集会所の前に移転した。隣の防災事業の竣工記念碑には平成20年とある。
碑は集会所前の、東屋もある芝生広場に立っている。
台石の前面に彫ってある「字切人」の文字は初めて見るが、石工さんのことだろうか。

【建立年】明治19年(1886)
【建立者】吾郷本郷区
【碑石前面】井戸府君碑
【碑石右面】明治十九年／霜天記建之／吾郷本郷区
【一段目台石前面】字切人／中ノ村 大田



(単位：cm)
碑石 高さ182/幅73/奥行60
台石1段目
高さ20/幅127/奥行108
台石2段目(石組み)
高さ60/幅195/奥行195

【美郷町21】美郷町吾郷 堂平 奥山集会所前三差路 **泰……**

所在地 邑智郡美郷町吾郷 堂平 奥山集会所前三差路

北緯35° 03' 29.40" / 東経132° 34' 03.80"



(調査日2022年4月22日)

〔調査の経過〕
現場には崩れていない2段の台石があり、その上に碑石の部分に乗っている。周囲には碑石の部分と思われる石や3段目の台石の部分が残っている。
地元の方に聞くと、10年前にはすでに倒れていたといい、竹に押されて崩れたのではないかと話していた。
宮本豊氏の調査資料を見ると、3段目の台石は高さ55センチの石組みになっている。

【建立年】安政4年(1857)
【建立者】奥山村
【碑石前面】泰……
【碑石】享保十八癸丑年五月／井戸平左衛門／廿六日／門正明／安政四巳



碑石(部分)
高さ46/幅28/奥行20
台石1段目
高さ18/幅49/奥行49
台石2段目
高さ18/幅61/奥行60
台石3段目 不明

【美郷町22】美郷町大和潮 信喜橋上 齋木砂利工場脇 **泰雲院殿義岳良忠居士**

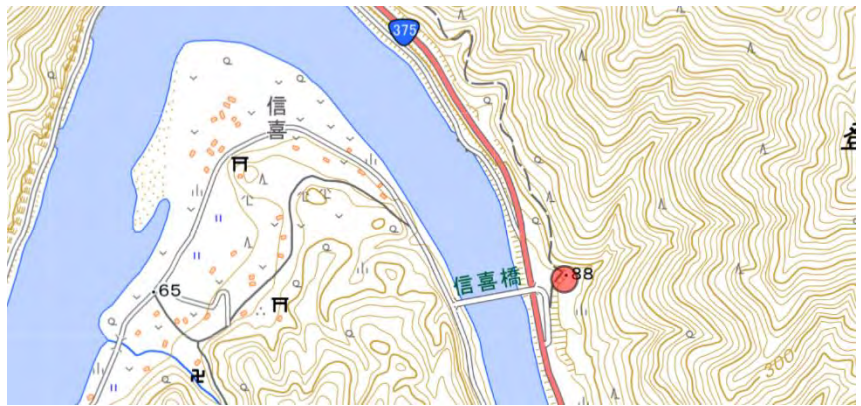
所在地 邑智郡美郷町大和潮 信喜橋上 齋木砂利工場脇

北緯35° 02' 08.27" / 東経132° 37' 43.19"



碑石 高さ194/幅58/奥行41
 台石1段目
 高さ53/幅184/奥行115
 台石2段目
 高さ21/幅242/奥行167

〔建立年〕万延2年(1861)
 〔建立者〕潮村中
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士
 〔碑石右面〕享保十八年癸丑五月廿六日卒
 〔碑石左面〕萬延二年辛酉歲六月謹建
 〔碑石裏面〕石碑願人中廻正左衛門/世話人室屋金/夫カタ/潮村中/石工清吉
 〔調査の経過〕
 砂利工場のすぐわきに、石を並べて庭園風にしつらえてある。建立年代も万延期と古く、背の高い立派な碑だ。地元の方によると、別の場所からここに移動してきたという。
 台石の上にサツマイモと思われる丸い石が供えてある。
 (調査日2022年4月18日)



【美郷町23】美郷町大和都賀行 町道郷地区三差路 **井戸正明君之碑**

所在地 邑智郡美郷町大和都賀行 町道郷地区三差路

北緯34° 59' 42.35" / 東経132° 36' 33.52"



碑石 高さ138/幅62/奥行36
 台石1段目
 高さ31/幅77/奥行64
 台石2段目
 高さ20/幅110/奥行88
 台石3段目
 高さ26/幅185/奥行152

〔建立年〕明治35年(1902)
 〔建立者〕(企起人名等あり)
 〔碑石前面〕井戸正明君之碑
 〔碑石左面〕明治三十五年十二月二十日建之
 〔台石一段目前面〕企起人/渡邊友三郎/世話人/田邊喜一郎
 〔台石一段目右面〕富永房友/尾原秀二郎/黒川鋼二郎/日高長一/新田照二郎/水戸梅吉/長田□太郎/黒川増実/岩本□太郎/田邊□一郎〔同左面〕田邊宥房/長野保人/酒野領二郎/田邊房吉/中村徳一郎/田邊□/水戸小四郎/馬場伊作/富永□郎/山屋万太郎〔同後面〕花田誠一郎/外八十三人/都賀村/石工/野坂富太郎
 〔調査の経過〕
 建立に関わった多くの人の名前が残る貴重な碑だ。
 (調査日2022年4月18日)



【美郷町24】美郷町大和宮内 元小学校裏 町営住宅前 **井戸明府**

所在地 邑智郡美郷町大和宮内 元小学校裏 町営住宅前

北緯34°57'18.53" / 東経132°36'09.52"



【建立年】大正11年（1922）
 【建立者】宮内中
 【碑石前面】井戸明府
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 町営住宅の前の道路の1段高い場所に、忠魂碑とともに立つ。高さ221センチ、幅130センチの巨大と言ってもいいほど大きな碑で、前面に「井戸明府」の4文字が大きく彫られている。開けた場所といい、大きな石といい、田園風景の中でよく目立つ碑だ。
 碑の前にサツマイモと思われる丸い石が供えてある。
 碑石は濃い灰色の自然石で目は粗く見える。少し剥離があるようだ。
 （調査日2022年4月18日）



(単位：cm)
 碑石
 高さ221/幅130/奥行36
 台石1段目
 高さ11/幅113/奥行50
 台石2段目
 高さ17/幅190/奥行85

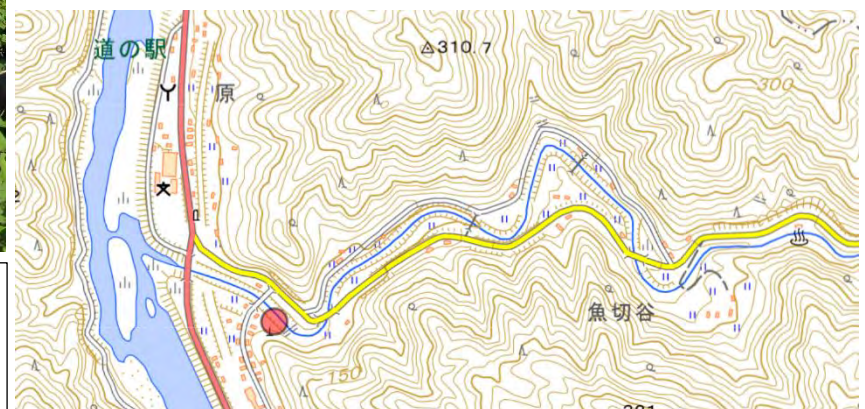
【美郷町25】美郷町大和都賀本郷 本郷浄水場後 **泰雲殿之碑**

所在地 邑智郡美郷町大和都賀本郷 本郷浄水場後 遠藤氏宅庭

北緯34°57'45.43" / 東経132°38'39.37"



【建立年】明治17年（1884）
 【建立者】都賀本郷村中
 【碑石前面】泰雲殿之碑（右に）
 享保十八丑五月廿六日／都賀本郷／村中（左に）明治十有七年五月建之／世話人／下垣廣七郎／高橋岩三郎／石工／和田直吉
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 塩谷川のたもとにある個人の居宅の庭に立っている。「遠藤」の姓は世話人の中にはないが、何らかの関わりがあったのだろう。碑石の前面にすべての情報がある。泰雲院殿の「院」の文字がない。
 碑の前にサツマイモと思われる丸い石が供えてある。
 （調査日2022年4月18日）



(単位：cm)
 碑石 高さ105/幅86/奥行34
 台石 高さ5/幅78/奥行64

【出雲市01】出雲市多伎町 清龍寺 泰雲院義岳良忠居士

所在地 出雲市多伎町 清龍寺 本堂右手

北緯35°16'10.62" / 東経132°34'53.75"



碑石 高さ90/幅35/奥行29
 台石1段目 高さ26/幅48/奥行48
 台石2段目 高さ25/幅57/奥行52
 台石3段目 高さ14/幅81/奥行81

(調査日2022年11月7日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院義岳良忠居士
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 国道9号の上にJ.R山陰線の陸橋がかかる多伎町の田儀川沿いにある清龍寺。本堂の右手に別の碑と並んで立っている。碑石前面は碑銘を彫る場所を平面に掘り下げて、碑銘の文字を浮き彫りにしている、珍しい碑。
 1段目台石は猫足で、その下にさらに2段の台石を積んでいる。碑銘以外の文字がない。碑石は軟らかそうな墓石型で、苔は生えているが傷みはなく、最近建てたように見えるほど。



【出雲市02】出雲市湖陵町大池 彌久賀神社 井戸明府碑

所在地 出雲市湖陵町大池 彌久賀神社 境内

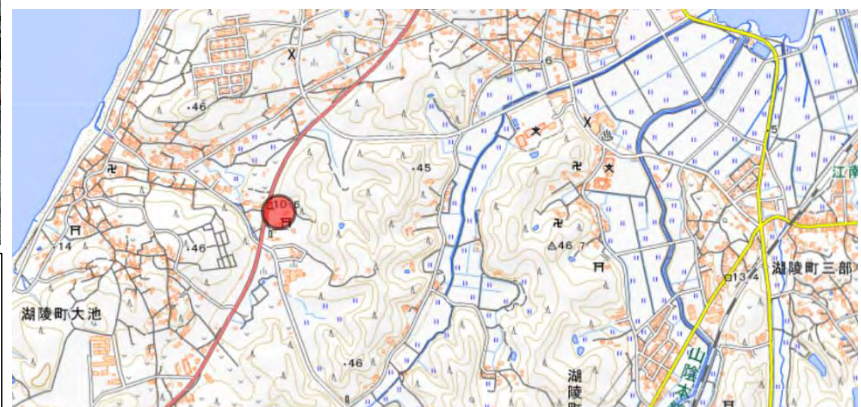
北緯35°18'50.23" / 東経132°39'42.63"



(単位：cm)
 碑石 高さ125/幅59/奥行31
 台石 高さ27/幅93/奥行92

(調査日2022年11月11日)

【建立年】不明
 【建立者】村中
 【碑石前面】井戸明府碑
 【台石前面】願主/村中/世話人
 /長崎屋政兵衛/木屋助右エ門/山城屋甚五郎/西川屋清右エ門/北ノ屋喜八/前地屋小八/中島屋豊四郎/原屋孫兵衛
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 国道9号沿いにある彌久賀神社の境内、拝殿に向かって左手にある。以前は同じ大池の慶正寺の境内にあったものがここに移設されている。碑の前に賽銭箱が立っている。碑石は茶色がかった自然石で、苔は少しあるが傷みはない。



【出雲市03】出雲市湖陵町板津 荒神社後 泰雲院殿

所在地 出雲市湖陵町板津 荒神社後 道路沿い

北緯35° 19' 19.26" / 東経132° 39' 38.46"



(単位：cm)

碑石 高さ88/幅48/奥行39
台石 高さ12/幅77/奥行54

【調査日】2022年11月11日

【建立年】明治6年(1873)

【建立者】村内

【碑石前面】泰雲院殿(右に)明治六年/癸酉七月日(左に)施主村内

【そのほか】文字なし

【調査の経過】板津の海岸道路近くにある荒神社に入る交差点の辻に、一畑薬師、地藏堂などと共に立っている。

ここでは毎年11月にいも代官祭りが板津公民館で開かれており、同館所蔵の井戸公の肖像画の掛軸を掲示したり、西浜芋を供えるなど、芋代官への感謝を忘れない。

また、同館は「芋代官由緒巻物」という2・5坪の長さの巻物も所蔵している。



【出雲市04】出雲市湖陵町砂子 砂子会館 泰雲院殿

所在地 出雲市湖陵町砂子 砂子会館

北緯35° 19' 08.60" / 東経132° 40' 21.93"



(単位：cm)

碑石 高さ74/幅54/奥行30
台石 高さ17/幅81/奥行65

【調査日】2022年11月11日

【建立年】嘉永7年(1854)

【建立者】砂子中

【碑石前面】泰雲院殿(右に)嘉永七年(左に)砂子中

【そのほか】文字なし

【調査の経過】湖陵町には4基あるが、唯一国道9号より内陸部にあるのがこの碑。砂子会館の舗装した前庭に、一畑薬師などほかの2つの碑と並んで立っている。

碑石は前碑(No.03)の板津の碑とよく似た自然石で、立ち姿もよく似ている。嘉永7年と湖陵町で最も古いので、この碑を参考にして板津も大池(No.02)も建てられたのだろう。

碑石は硬そうな濃い灰色で、白っぽい苔はあるものの、傷みはなく、文字もはっきり読める。



【出雲市05】出雲市湖陵町差海 観音寺向い 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 出雲市差海 観音寺向い 道路沿い

北緯35°19'55.22" / 東経132°39'58.18"



石碑 高さ137/幅41/奥行34
 台石1段目 高さ28/幅63/奥行50
 台石2段目 高さ31/幅94/奥行79
 台石3段目 高さ26/幅130/奥行110

【建立年】平成25年(2013)再建
 【建立者】差海区民一同
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【碑石右面】平成二十五年十一月再建
 【碑石左面】井戸平左衛門正明/享保十八年五月二十六日「三段目台石右面」差海区民一同「花立て前面」戸長/原伊平/世話人/原伊左工門/桑原定六/原林左工門/中尾彦助/中尾祖助/大埜善四郎/森山藤左工門/大埜万三郎/桑原幸四郎/中尾長兵衛/桑原勘六/桑原喜三郎/原勘左工門/差海村中「同右面」明治十四年建立/石工楠縫郡万田/善太郎「同左面」昭和六年三月修理施行
 【調査の経過】
 旧碑は総高さ370センチを超える、湖陵町では最大の碑だったが、最下段の石組みの基礎の中が崩れて危険になったため、地区を中心に寄付を募って再建。今でも町随一の大きさだ。
 (調査日2022年11月11日)



【出雲市05】出雲市湖陵町差海 観音寺向い 泰雲院殿義岳良忠大居士 続き (解説板)



井戸公(いも代官) 顕彰碑の由来について
 享保の大飢饉(江戸時代中期 一七三二年)のとき、大森代官の「井戸平左衛門正明公」が、薩摩の国からサツマ芋を導入し、栽培普及に努められ、その恩恵で当時の差海の人々も飢えをしのいで命を救われたと言われています。
 「井戸公」を「いも代官」と呼び、その功績を讃えるため、明治十四年(一八八一年)に差海村中で「いも代官さん」の石碑が建立されました。
 この顕彰碑は、他の地区のものより大きく、しかも、立派なもので、救いの手を延べてくれた「いも代官」さんに対する差海の方々の感謝の気持ち、いかに大きいものだったかを現しているようでした。
 しかしながら、石碑は、老朽化が激しく、非常に危険な状態になり、先人の「井戸公」への感謝の気持ちを、次の時代に継承するため再建したのがこの石碑です。

平成二十五年十一月
 差海区

石碑再建の際に碑の左前に設置された解説板(写真上、内容右欄)。御影石にステンレス板を埋め込んだもの。
 再建にあたって関係の皆さんは旧碑を非常に大切にされ、石碑の文字は旧碑と同じ文字とし、傷んでいなくなった石製の花立てをそのまま新碑の前に設置されて、明治、昭和の先輩に敬意を表されている。

【出雲市06】出雲市西園町 長浜神社裏山 芋代官井戸平左エ門氏祀

所在地 出雲市西園町 長浜神社裏山

北緯35°20'44.36" / 東経132°40'45.87"



(調査日2022年11月11日)

〔調査の経過〕
長浜神社の裏山に「北の杜」「西の杜」への散策路があり、そこから向かうとこの碑が立っている。草の勢いが強い時期には散策がむずかしいかもしれない。碑石はコンクリート製のようにも見え、世話人のお二人が気持ちをこめて、この場所を借りて建てられたのかもしれない。

【建立年】昭和35年(1960)
【建立者】(世話人名あり)
【碑石前面】芋代官井戸平左エ門氏祀
【碑石左面】昭和三十五年十一月建「碑石後面」世話人/大野庄太郎/藤江富市
【そのほか】文字なし



(単位：cm)

碑石 高さ153/幅21/奥行20
台石 高さ16/幅62/奥行62

【出雲市07】出雲市西園町 外園幸神社(境内社) 井戸神社

所在地 出雲市西園町 外園幸神社(境内社)

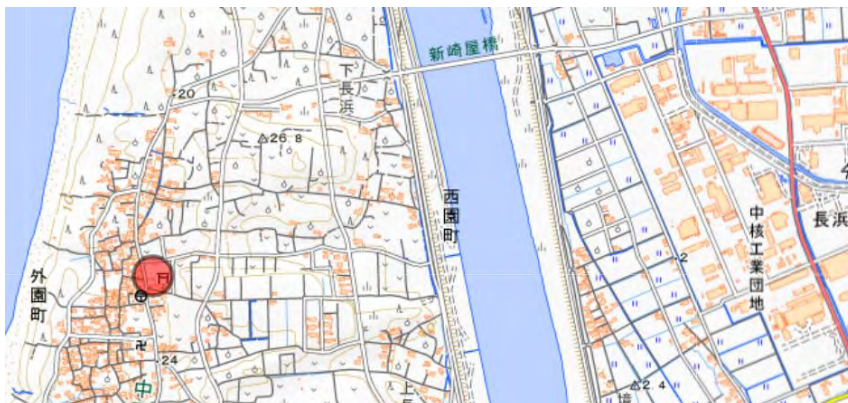
北緯35°21'11.48" / 東経132°40'30.24"



(調査日2022年11月11日)

〔調査の経過〕
長浜神社で情報を得て、幸神社で棟札を確認させていただいた。境内社である井戸神社が風の被害で大破したため建て替えたと記録されている。平成十一年十月二十六日竣工、同十一月三日遷座となっている。

【建立年】平成11年(1999)
【建立者】外園区
【碑石前面】なし
【そのほか】祠に文字はないが、棟札に「井戸神社」の表記がある。



(単位：cm)

祠 高さ144/幅105/奥行129
台石 高さ45/幅82/奥行95

【松江市01】松江市福原町 長慶寺 泰雲院殿

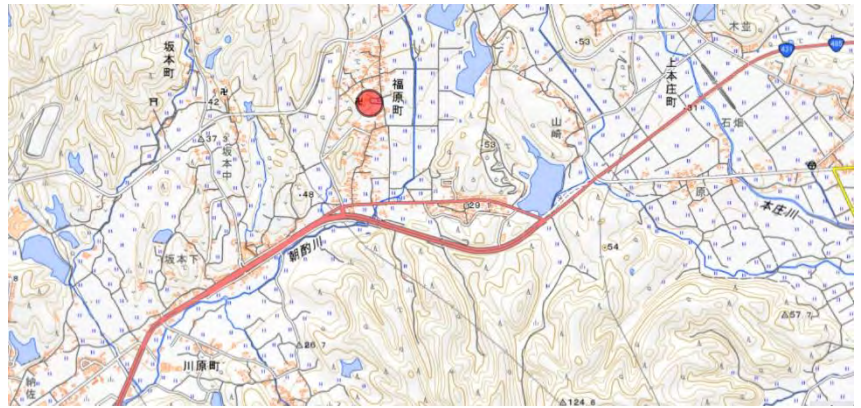
所在地 松江市福原町 長慶寺参道入口

北緯35°30'47.49" / 東経133°06'10.30"



(調査日2020年6月16日)

【建立年】天保11年(1840)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)天保十一年九月吉旦(左に)七世代造立
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 令和2年度に当協会が実施した文書による照会調査で長慶寺のご住職から報告があつて訪問。ご住職によるとこの辺りは松江藩の殿様が狩りに出かけていた地域だったと言ひ、井戸公碑の隣には「狗塚」がある。近くの持田公民館の資料「いも代官・頌徳碑」には、「井戸公の恩赦によくよく感謝の意を表して碑を建立し供養したものだと思ふ」と書かれている。



(単位: cm)

碑石 高さ98/幅72/奥行23
 台石 高さ21/幅120/奥行50

【松江市02】松江市上本庄町川部 元公民館前道路 泰雲院殿

所在地 松江市上本庄町川部 旧本庄公民館跡地前の道路沿い

北緯35°31'08.79" / 東経133°06'54.12"



(調査日2020年10月13日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 当協会が令和2年度に行った郵便による照会事業が新聞で紹介されると、境港市の方から何件か新情報をいただいた。これはそのうちの1件。急傾斜地のため移転した旧本庄公民館(川部公会堂)前の狭い道路の向いにブロックを囲んで場所を作り、他の石碑2基とともに立っている。道路の向いには地藏堂がある。
 茶色がかつた、すらりとした自然石の碑石が、背の高い円柱状の台石の上に乗っている。近くで場所を聞いた女性が、おばあさんに聞いて車で先導してくれた。



(単位: cm)

碑石 高さ80/幅48/奥行33
 台石 高さ54/幅63/奥行67

【松江市03】松江市邑生町 邑生公会堂 泰雲院殿

所在地 松江市邑生町 邑生公会堂前庭

北緯35°31'02.43″/東経133°07'39.37″



(調査日2020年10月13日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 令和2年度の照会調査で手角町の象田寺のご住職など複数の方から情報をいただいて訪問。邑生公会堂の場所は国道431号から枕木山に上がる県道を少し入った右手。
 前庭の、向かって右隅の小川沿いに碑はある。碑石はすらりとした自然石で、それが卵形の丸い台石に乗り、接続部はセメントで補修してある。苔も傷みもなく、周囲もきれいに整備されている。



(単位：cm)
 碑石 高さ71/幅32/奥行35
 台石1段目
 高さ40/幅93/奥行85
 台石2段目
 高さ12/幅94/奥行102

【松江市04】松江市手角町 象田寺 泰雲院殿

所在地 松江市手角町 象田寺 境内道路側

北緯35°32'21.66″/東経133°09'29.68″



(調査日2021年5月27日)

【建立年】天保5年(1834)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿
 【碑石後面】皆天保五星喜關逢敦
 牂藴寶建之
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 中海の北岸を通る県道431号沿いにある象田寺。もう300mほど美保関町という、旧松江市の東端の町にある寺。長らく、旧松江市では唯一の井戸公碑と認識されていた。
 碑は本堂のほぼ真正面に立っている。台石は穴が多数ある中海産の森山石と思われる特徴的な石が使われている。
 前の花立てには青々としたシキミが供えてあった。



(単位：cm)
 碑石 高さ95/幅52/奥行40
 台石 高さ35/幅108/奥行90

【松江市05】松江市鹿島町御津 観潮寺 泰雲院殿芋元祖

所在地 松江市鹿島町御津 観潮寺境内 本堂に向かって左側

北緯35°32'12.45 / 東経133°01'39.68"



(調査日2021年4月22日)

【建立年】不明
 【建立者】若連中
 【碑石前面】泰雲院殿芋元祖(右に) 読めない文字3字(左に) 同若連中
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 鹿島町唯一の井戸公碑だ。寺の前の道路は狭いが、寺の前には数台分の駐車場がある。広い境内で、本堂に向かって左手に木を植えたりした石庭のしつらいがあり、碑の周囲は白い玉砂利が敷かれていてきれいに手入れされている。
 碑銘は「芋元祖」と入った珍しいもの。碑石は茶色がかつたすらしとした自然石。台石は数個の大きさの違う石で碑を囲んでいる。



(単位：cm)

碑石 高さ117/幅48/奥行50
 台石 高さ24/幅128/奥行154

碑石前面右下はセメント補修されていて、その上から元あった文字らしきものが3文字分彫ってあるが、読めなかった

【松江市06】松江市美保関町万原 地区学習会館前 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町万原 地区学習会館前 地蔵堂横

北緯35°32'19.52" / 東経133°09'50.16"



(調査日2021年5月27日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(右に) 享保十八年(左に) 五月二十八日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 手角町の象田寺のご住職から情報を得て訪問。象田寺から約600mの近さだった。国道431号の北側に集落があり、地区学習会館の前が広場のようになっており、桜の木や不燃物置き場、地藏堂、石碑などが立っている。井戸公碑は地藏堂の隣に立っていて、高さは低いが幅が広くてゆつたりした台石の上に大ぶりの自然石の碑石が乗っている。
 石質はそう堅くは見えないが、苔も傷みもないようだった。



(単位：cm)

碑石 高さ156/幅94/奥行28
 台石 高さ11/幅175/奥行100

【松江市07】松江市美保関町下宇部尾 元正法寺 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町下宇部尾 元正法寺

北緯35°32'24.09" / 東経133°10'55.66"



(単位：cm)
 碑石 高さ164/幅66/奥行24
 台石1段目
 高さ25/幅95/奥行56
 台石2段目
 高さ40/幅126/奥行115

(調査日2021年5月10日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(左に)享保十八年五月廿八日
 【碑石左面】石工二宮亀太郎
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。資料には「正法寺境内」となっているが、今は寺でなくお堂になっている。その前庭の道路側に六地藏と並んで碑が立っている。地域の方が、石工の二宮さんの家はこのお堂のすぐ近くだと教えてくれた。今住んでいる人が彫ったわけではないが、すごく親しみを感じた。
 碑石は茶色がかったごつごつした自然石で、傷みはないが、白っぽい苔が生えていた。



【松江市08】松江市美保関町森山 萬福寺 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町森山 萬福寺境内左手

北緯35°32'31.34" / 東経133°12'21.78"



碑石 高さ156/幅95/奥行26
 台石1段目
 高さ19/幅140/奥行67
 台石2段目
 高さ20/幅136/奥行120
 台石3段目
 高さ10/幅177/奥行165

(調査日2021年5月10日)

【建立年】天保5年(1834)
 【建立者】當村中
 【碑石前面】泰雲院殿(右に) 皆天保五甲年四月三日建之
 【碑石左面】十世萬峰代/年寄七部兵衛/施主/當村中
 【碑石後面】石工廣左エ門
 【その他】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。碑は境内に入つてすぐ左にある。台石は元々3段あったようだが、境内整備の際に、周りに土や砂利が入られたのだろう、3段目の厚さが10センチしか見えなくなっている。
 碑石は茶色がかった自然石で、白っぽい苔はあるが、傷みはない。前の花立てにシキミが供えられていた。



【松江市09】松江市美保関町福浦 源正寺 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町福浦 源正寺

北緯35°33'17.91" / 東経133°15'14.49"



(単位：cm)
 碑石 高さ155/幅70/奥行22
 台石 1段目
 高さ44/幅130/奥行106

(調査日2021年5月10日)

【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。境水道の海沿いからまっすぐに参道が伸びる源正寺。石段を上がって境内に入ると左手に六地藏や石碑が並んでおり、その中に井戸公碑もある。碑石は茶色がかったごつごつした自然石で、傷みはないが、苔が生えている。台石は中海産の森山石と思われ、碑の周囲はコンクリートを入れて整備されている。

【建立年】天保7年(1836)
 【建立者】村中
 【碑石正面】泰雲院殿(右に)天保七年(左に)申九月廿六日(下に)村中/世話人重蔵/年寄善七
 【そのほか】文字なし



【松江市10】松江市美保関町長浜 学習供用施設向い 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町長浜 K2 沿い 学習供用施設向い

北緯35°33'27.41" / 東経133°16'51.49"



(単位：cm)
 碑石 高さ148/幅45/奥行32
 台石 高さ55/幅114/奥行96

(調査日2020年10月13日)

【調査の経過】
 長浜港の北側の県道2号沿いに長浜地区学習等供用施設(元公民館か)があり、道路向いの墓地にこの碑が立っている。碑の前には石灯籠が1基と、部材と思われる石材があった。碑石は目の粗い硬そうな灰色の自然石で、特徴的なのは台石に横縞の入った森山石が使われていること。中海沿いの碑には何基かこの石が使われている。碑の前の花立てにはシキミが供えられていた。

【建立年】不明
 【建立者】男鹿・長浜
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)享保十八年(左に)丑五月廿六日(下に)男鹿/長浜
 【そのほか】文字なし



【松江市 1 1】松江市美保関町海崎 K2 沿い **泰雲院殿義岳良忠大居士**

所在地 松江市美保関町海崎 K2 沿い

北緯 35° 33' 28.86" / 東経 133° 17' 55.75"



(調査日 2020年10月13日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 海崎港のすぐ東の県道2号沿い山側に立っている。道路がカーブになっており、周囲の木が大きくなっているため、碑が隠れがち。
 碑は白っぽいすらりとした自然石で、白っぽい苔もあるので一層白く見える。
 碑文以外の文字がなく、情報が少ない。台石1段目には横縞模様が見え、2段目には森山石が使われている。



(単位: cm)

碑石 高さ185/幅84/奥行48
 台石1段目
 高さ62/幅124/奥行85
 台石2段目
 高さ15/幅128/奥行不明

【松江市 1 2】松江市美保関町才浦 集会所前 **泰雲院**

所在地 松江市美保関町才浦 集会所前 道路沿い

北緯 35° 34' 03.41" / 東経 133° 18' 14.76"



(調査日 2020年10月13日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石正面】泰雲院
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 境港市の方からいただいた情報の一つ。美保関町の美保関地区には、これまで井戸公碑はないとされてきたが、情報をいただいて行ってみると、才浦集会所の南約50mの道路横に、横になった状態で存在していた。台石はなく、碑石の文字も彫りが途中のようにも見えるので、どこかに立っていたものではないだろう。
 泰雲院の下にスペースはあるが文字がなく、その下で割れてしまっているため、製作途中のものかもしれない。



(単位: cm)

碑石 高さ137/幅45/奥行32

【松江市 13】松江市美保関町軽尾 港入口東側 **泰雲院殿**

所在地 松江市美保関町軽尾 港入口の手前を右に

北緯 35° 34' 13.36" / 東経 133° 17' 55.23"



(単位：cm)

碑石 高さ135/幅50/奥行30
台石 高さ23/幅128/奥行95

【建立年】不明
【建立者】村中
【碑石前面】泰雲院殿(下に)村中
【碑石左面】享保十八癸丑五月廿六日
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
軽尾港に突き当たるちよつと手前に、右に入る細い道があり、その道沿いに立っている。高さ約1.1mのブロック造の基礎の上に祠とこの碑が立っており、そのすぐ右側にも別の基礎があつて、祠と石灯籠が立っている。
碑石は灰色の自然石で、白っぽい苔がかなり生えている。台石1段目には横縞模様が見られる。森山石が使われている。
(調査日 2020年10月13日)



【松江市 14】松江市美保関町雲津 覚源寺 **泰雲院殿**

所在地 松江市美保関町雲津 覚源寺 境内

北緯 35° 34' 13.18" / 東経 133° 16' 51.56"



(単位：cm)

碑石 高さ171/幅98/奥行36
台石 高さ42/幅123/奥行76

【建立年】不明
【建立者】村中
【碑石正面】泰雲院殿(右に)享和十八年(左に)巳五月廿六日 施主村中
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
雲津集落に入るとすぐ右手にある覚源寺。碑は境内の道路側に立っている。茶色がかつた目の粗い大ぶりの自然石で、左上の部分が欠損している。白っぽい苔もある。
碑石前面の「享和十八年巳五月廿六日」は井戸公の命日と思われるが、正しくは「享保十八年丑五月廿六日」である。
(調査日 2020年10月13日)



【松江市15】松江市美保関町諸喰 明音寺 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町諸喰 明音寺

北緯35°34'15.70" / 東経133°15'54.47"



(調査日2020年10月13日)

【建立年】天保9年(1838)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 明音寺は諸喰集落の西側の高台にあり、井戸公碑は境内に上がってすぐ右手に、六地藏と共に立っている。
 碑石は黒みがかった灰色の自然石で、傷みはなく、白っぽい苔が少しある。
 碑の前の花立てにはたくさん緑鮮やかなシキミが供えてあった。
 美保関町には台石が1段で、碑石は自然石、碑銘は「泰雲院殿」という碑が多いが、ここでも同じ構造になっている。



(単位：cm)
 碑石 高さ163/幅87/奥行28
 台石 高さ22/幅115/奥行95

【松江市16】松江市美保関町法田 観音堂 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町法田 観音堂前

北緯35°34'10.38" / 東経133°14'46.58"



(調査日2020年10月13日)

【建立年】文久4年(1864)
 【建立者】不明
 【碑石正面】泰雲院殿(右に)文久四歳(左に)子六月廿六日
 【その他】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。法田地区は集落の山側に広い道路が整備されており、観音堂は広い道から集落に降りる山道の途中にある。近くには共同墓地があり、お堂の前と横には墓石と思われる石がかなり多く積まれたり、一部は立ててあるものもある。
 碑石は目の粗い自然石で、上部はセメントで補修してあるようにも見える。前面下部はかなり目が粗く、文字が彫れなかったようだ。



(単位：cm)
 碑石 高さ121/幅82/奥行34
 台石 高さ25/幅122/奥行75

【松江市17】松江市美保関町七類 大日堂 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町七類 R485 沿い 大日堂

北緯 35° 34' 13.28" / 東経 133° 13' 29.61"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿
 【そのほか】文字なし
 「調査の経過」
 七類港のメテオプラザの近く、国道485号沿いの大日堂の境内にある。
 碑石はざらざらした濃い灰色の自然石で、碑銘のほかに文字はない。
 1段目の台石も自然石だが、2段目だけ整形された来待石のような石。後日周囲に置かれたかもしれない。碑石と1段目台石、1段目と2段目の台石の接続部分はセメントでいねいに補修してある。碑石は2段を超す大きな石なので、安定させる目的もあるだろう。
 (調査日2021年5月10日)



(単位：cm)
 碑石 高さ222/幅88/奥行56
 台石1段目
 高さ38/幅156/奥行101
 台石2段目
 高さ19/幅208/奥行106

今福まちづくりセンター【松江市18】松江市美保関町惣津 阿弥陀堂 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町惣津 道路沿い 阿弥陀堂前

北緯 35° 34' 19.55" / 東経 133° 13' 00.02"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石正面】泰雲院殿
 【そのほか】文字なし
 「調査の経過」
 地元の方に案内していただいた。惣津の海岸道路沿いに共同墓地と阿弥陀堂があり、この碑は阿弥陀堂の前に、日本海を向いて立っている。
 碑石は黒っぽい堅そうな自然石。傷みはなく、白っぽい苔がある。碑の前を砂と石で固めて、小さな石庭のようにしつらえて、花立てが埋めてある。調査日もシキミと色とりどりの花(造花)が供えられ、彩りを添えていた。
 (調査日2021年5月10日)



(単位：cm)
 碑石 高さ120/幅47/奥行57
 台石 高さ34/幅125/奥行98

【松江市19】松江市美保関町笹子 山上 忠魂碑横 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町笹子 山上 忠魂碑横

北緯35°33'57.77" / 東経133°12'11.13"



(調査日2021年5月10日)

No. 21、菅浦と同じような石だ。然石で、表面が波打っており、碑石は濃い灰色の硬そうな自然石で、表面が波打っており、礎の上に他の石碑、地藏教体と並んで立っている。

地元の方に案内していただいた。笹子の集落の西側の斜面が共同墓地になっており、少し上がった場所がちよつとした広場になっていて、忠魂碑が立っている場所と、この碑が立っている場所が造られている。井戸公碑はコンクリートの広い基礎の上に他の石碑、地藏教体と並んで立っている。

【建立年】大正5年(1916) 再建

【建立者】不明

【碑石前面】泰雲院殿(右に)大正5年(左に)辰二月再建

【その他】文字なし

【調査の経過】

(単位：cm)
 碑石 高さ112/幅58/奥行45
 台石 高さ23/幅132/奥行64



【松江市20】松江市美保関町片江 長寿寺 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町片江 長寿寺 境内

北緯35°33'39.95" / 東経133°11'17.85"



(調査日2021年5月10日)

片江集落の山側にある長寿寺。山門をくぐって左手にあり、隣には六地藏も立っている。

碑石は濃い灰色の自然石で白っぽい苔が少しあるが、傷みはない。この碑の特徴は何といっても1段目の台石。お椀のような形で、上には小さな石がびっしり埋まっている。これだけでは安定が悪かったのか、2段目には森山石を据えて、全体を安定させている。

【建立年】文政12年(1829)

【建立者】不明

【碑石前面】泰雲院殿

【碑石後面】文政十二己丑年/八月廿日建之

【その他】文字なし

【調査の経過】

(単位：cm)
 碑石 高さ114/幅80/奥行42
 台石1段目
 高さ81/幅140/奥行102
 台石2段目
 高さ25/幅146/奥行130



【松江市21】松江市美保関町菅浦 現種院 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町菅浦 現種院

北緯35°33'45.83" / 東経133°10'23.31"



(調査日2021年5月10日)

【建立年】天保7年(1836)
 【建立者】當邑中
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)天保七丙申三月日(左に)當邑中
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 近くまで行ったが場所がわからず、通りがかりの高齢の女性に尋ねたら「泰雲院さんならこちです」と案内してくれた。碑が親しまれているようで安心した。
 現種院は元寺院だったが現在はお堂になっていて、看板だけは玄関にかけてある。
 碑石はNo.19、笹子の碑と同じように前面が波打った、目の細かい自然石。色合いはこちらの方が少し明るい。台石は森山石のようだ。



(単位：cm)

碑石 高さ151/幅75/奥行58
 台石 高さ42/幅140/奥行110

【松江市22】松江市美保関町稲積 稲積橋東 泰雲□□□岳良忠大居士

所在地 松江市美保関町稲積 稲積橋東 屋根付き

北緯35°33'44.97" / 東経133°09'37.96"



(調査日2021年5月10日)

【建立年】天保7年(1836)
 【建立者】(年寄役名等あり)
 【碑石前面】泰雲□□□岳良忠大居士(右に)享保十八年丑二月念六日(左に)前御代官井戸正明
 【碑石後面】天保七申二月建之 / 年寄役中 / 田中甚三郎 / 石工秀助
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 「調査の経過」
 川が海にそそぐ手前の稲積橋のたもと、民家の庭を一部削る形で屋根付きの地藏堂があり、井戸公碑も立っている。
 碑石は明るい茶色、見方によってはオレンジ色にも見える色で、軟らかそう。碑銘の一部が剥離している。苔は生えていない。花立てにはシキミが供えてあった。



(単位：cm)

碑石 高さ147/幅63/奥行26
 台石 高さ8/幅96/奥行85

【松江市23】松江市美保関町北浦 北禅寺 泰雲院殿

所在地 松江市美保関町北浦 北禅寺 境内

北緯35°33'32.46" / 東経133°09'20.42"



(単位：cm)

碑石 高さ87/幅43/奥行38
台石 高さ28/幅85/奥行65

(調査日2021年5月10日)

【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石前面】泰雲院殿
【碑石右面】天保代官平左エ門
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
集落の南側(山側)に県道37号が東西方向に走っており、その南側にある北禅寺。山門を上がってすぐ左手に井戸公碑がある。その隣に「三界萬霊塔」、六地藏が並んでいる。碑石は目の粗い灰色の自然石。きれいな卵形をしており、白っぽい苔は少しあるが傷みはない。



【松江市24】松江市美保関町笠浦 元地藏堂 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 松江市美保関町笠浦 元地藏堂

北緯35°34'34.41" / 東経133°07'47.17"



(単位：cm)

碑石 高さ117/幅62/奥行35

(調査日2021年5月10日)

【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士(右に) 天運享保十八丑五月念六其(左に) 石劔銀山御領前御代官井戸正明
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
JFしまね笠浦出張所近くの道路山側に斜面を上がる石段があり、上がると地藏堂があった広い場所がある。そこから登りの石段が続いて、その上に広い墓地があるが、石段を上がる左手の擁壁の端ぎりぎりに井戸公碑が立っている。



【松江市25】松江市島根町野井 お堂前 **泰雲院殿義岳良忠大居士**

所在地 松江市島根町野井 お堂前

北緯35°35'02.58" / 東経133°06'59.73"



(単位：cm)
 碑石 高さ116/幅60/奥行47
 台石1段目
 高さ29/幅72/奥行53
 台石2段目
 高さ20/幅77/奥行58

(調査日2021年5月27日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。野井漁港近くの県道37号を山側に歩いて少し進むとお堂があり、庭の左側の擁壁沿いに広い基礎をして、ほかの碑や六地蔵と共に並んでいる。石碑3基の中央に立つ井戸公碑は黒っぽい硬そうな自然石で、台石は違う種類の石が2段積んである。台石には橙色の苔が生えているが、碑石には苔は少なく、傷みもない。



【松江市26】松江市島根町瀬崎 集落上お堂下 **泰雲院殿**

所在地 松江市島根町瀬崎 集落上お堂下 (緑地広場下)

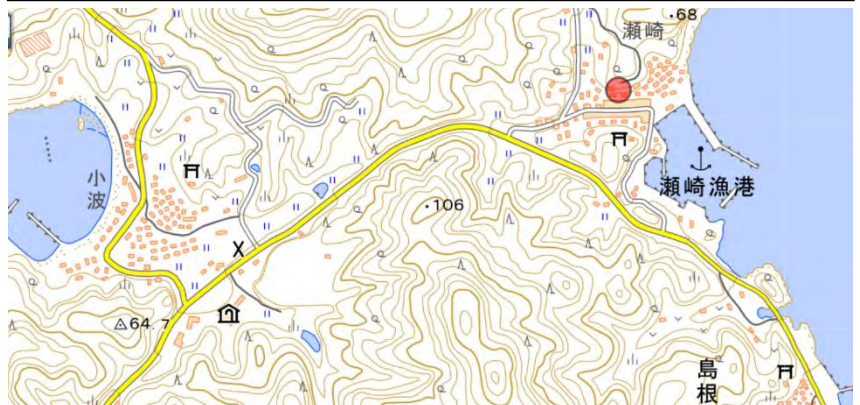
北緯35°35'27.26" / 東経133°06'41.46"



(単位：cm)
 碑石 高さ135/幅60/奥行33
 台石1段目
 高さ19/幅78/奥行55
 台石2段目
 高さ8/幅120/奥行89

(調査日2021年5月27日)

【建立年】嘉永5年(1852)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)嘉永五(左に)壬子五月吉旦
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。集落の背後の高手に緑地広場があり、集落を抜けて広場へ上がる途中のお堂の下の段に、ほかの碑や六地蔵と共に整然と並んでいる。碑はほかからここに移設されたが、六地蔵が昭和61年となっているので、井戸公碑もその時期かもしれない。碑石は目の細かい黒っぽい自然石で、苔もほとんどなく、傷みもない。花立てには新しいシキミが供えてあった。



【松江市27】松江市島根町野波 小波地区小広場 泰雲院殿

所在地 松江市島根町野波 小波地区小広場

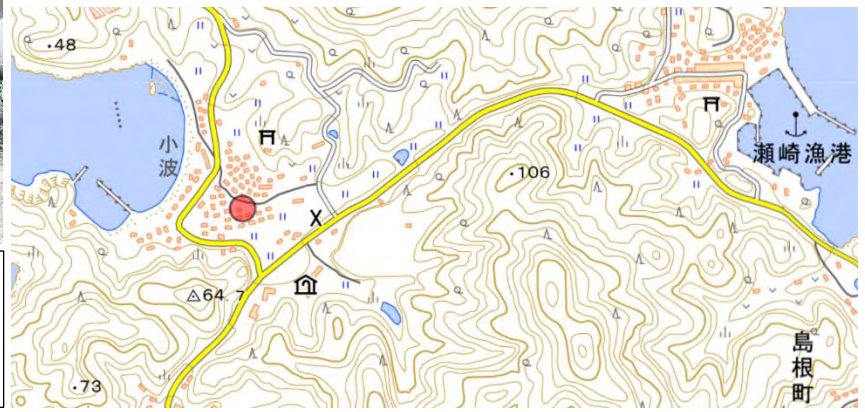
北緯35°35'15.84" / 東経133°05'59.12"



(調査日2021年5月27日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)享保十八年(左に)丑五月廿六日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。集落の中心付近に小広場があり、舗装した部分と東屋を供えた芝生の部分がある。場所がいいので、皆さんが何かと集まりやすいようないい雰囲気の小広場で、碑は舗装部分に立っている。
 広い楕円形の台石に、すらっとした黒っぽい碑石が乗っている。モニュメントのようにも見える。住民の皆さんが日常的に見る風景として、これからは大切にしたいものだ。

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)享保十八年(左に)丑五月廿六日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。集落の中心付近に小広場があり、舗装した部分と東屋を供えた芝生の部分がある。場所がいいので、皆さんが何かと集まりやすいようないい雰囲気の小広場で、碑は舗装部分に立っている。



(単位: cm)

碑石 高さ147/幅40/奥行35
 台石 高さ30/幅159/奥行135

【松江市28】松江市島根町多古 多古庵前 泰雲院殿

所在地 松江市島根町多古 多古庵前

北緯35°35'58.15" / 東経133°05'36.60"



(調査日2021年5月27日)

【建立年】天保9年(1838)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)享保十八年(左に)丑五月廿六日
 【碑石左面】天保九年戊戌七月吉日立之
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。集落の外れに多古庵があり、その前庭に六地藏と並んで立っている。ほかに2基の石碑、1基の石灯籠もある。
 碑石は明るい灰色の自然石で、模様のように亀裂がいくらか見え、亀裂に沿って石の色に濃淡が出ているようだ。
 今はしっかり立っていて何の心配もないと思われるし、小さい文字もはっきり読める。

【建立年】天保9年(1838)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)享保十八年(左に)丑五月廿六日
 【碑石左面】天保九年戊戌七月吉日立之
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。集落の外れに多古庵があり、その前庭に六地藏と並んで立っている。ほかに2基の石碑、1基の石灯籠もある。
 碑石は明るい灰色の自然石で、模様のように亀裂がいくらか見え、亀裂に沿って石の色に濃淡が出ているようだ。
 今はしっかり立っていて何の心配もないと思われ、小さい文字もはっきり読める。



(単位: cm)

碑石 高さ120/幅63/奥行41
 台石 高さ15/幅86/奥行64

【松江市29】松江市島根町沖泊 阿弥陀堂横 泰雲院殿

所在地 松江市島根町沖泊 阿弥陀堂横

北緯35°36'10.81" / 東経133°05'42.15"



(単位：cm)
碑石 高さ100/幅43/奥行35

(調査日2021年5月27日)

【建立年】天保9年(1838)
【建立者】不明
【碑石前面】泰雲院殿(右に)享保十八年丑五月廿六日(左に)天保九年戌七月吉日
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
地元の方に案内していただいた。家並みの間にある石畳の細い坂を上がると阿弥陀堂があり、その横の擁壁沿いに立っている。
碑石は黒っぽく見えるが、後面を見ると前碑(No.28)と同じ石のようだ。また建立年、月まで同じなので、多古地区と沖泊地区の皆さんが相談しながらそろって建てたのだろう。距離も近く、直線距離で約400メートル近さだ。



【松江市30】松江市島根町野波 JA裏 交差点 泰雲院殿

所在地 松江市島根町野波 JAしまね野波店裏 交差点

北緯35°34'43.13" / 東経133°05'55.95"



(単位：cm)
碑石 高さ170/幅48/奥行32
台石 高さ27/幅120/奥行94

(調査日2021年5月27日)

【建立年】嘉永4年(1851)
【建立者】若連中
【碑石前面】泰雲院殿(右に)嘉永四〇〇〇(左に)亥六月旦若連中
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
地元の方に案内していただいた。JAしまね野波店の後ろが広い三差路になっており、道路の側溝と民家のブロック塀の間に、六地藏と共に立っている。地元の方によると昔は墓地への入口だったという。
碑石はざらざらした表面の灰色の自然石で、少し傷みもあり、苔も生えている。隣の電柱と見比べると少し斜めに立っているように見えるが、これで安定しているのだろう。



【松江市31】松江市八東町馬渡 いこいセンター後 泰雲院殿

所在地 松江市八東町馬渡 いこいセンター後

北緯35°30'07.38" / 東経133°11'15.94"



(調査日2021年4月22日)

【建立年】天保6年(1835)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿
 【碑石右面】天保六乙未歳建之
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 馬渡の港近くに消防器具倉庫、阿弥陀堂があり、その隣の道路沿いに地蔵など9体の碑が並ぶうちの一つ。碑の後ろはいこいセンターである。玄武岩で、碑石には穴はないが、台石は2段とも穴が多くある大根島玄武岩。八東町の碑はこの石が多く、建立場所もお堂の近く、しかも近くに消防器具庫が多いのも特徴的。その地域の「いい場所」に建てられたのだろう。台石に盃状穴がある。

(単位: cm)
 碑石 高さ102/幅52/奥行27
 台石1段目
 高さ28/幅78/奥行59
 台石2段目
 高さ30/幅104/奥行110

隣の碑の前の赤い牡丹が満開で美しかった



【松江市32】松江市八東町江島 老人集会所横 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 松江市八東町江島 港近くにある阿弥陀堂の隣の江島老人集会所横の道路沿い

北緯35°30'31.30" / 東経133°11'15.94"



(調査日2021年4月22日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石正面】泰雲院殿義岳良忠大居士(右に)享保十八年癸丑五月廿六日(左に)井戸平左エ門尉正明
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 江島港近くの阿弥陀堂の隣に江島老人集会所があり、その壁と道路(この道路は広くない)との間に軍人碑や地蔵とともに並ぶ。これも大根島玄武岩。碑の前の花立てに新鮮な菊の花が生けてあった。台石の上に丸い石が2個置いてあるが、サツマイモのお供えか。

(単位: cm)
 碑石 高さ118/幅78/奥行30
 台石1段目
 高さ18/幅128/奥行94

黄色と白の菊の花は、道路沿いに並ぶすべての碑、地蔵に供えてあった。近所の高齢女性がときどき供えているという。



【松江市33】松江市八束町亀尻 お堂（法福寺）向い **泰雲院殿義岳良忠居士**

所在地 松江市八束町亀尻 地蔵堂（法福寺）前の広い道路沿い

北緯35°30'07.90" / 東経133°10'42.77"



碑石 高さ74/幅27/奥行24
 台石1段目
 高さ16/幅38/奥行40
 台石2段目
 高さ26/幅77/奥行49
 台石3段目
 最大50/幅108/高さ100

(調査日2021年4月22日)

【建立年】天保7年(1836)
 【建立者】(年寄名等あり)
 【碑石正面】泰雲院殿義岳良忠居士
 【碑石右面】天保七丙申歳
 【碑石左面】年寄又市 / 組親清助
 【台石】文字なし
 【調査の経過】
 広い道路の角に新しい地蔵堂があり、その向いの道路沿いにほかの碑や地蔵、計12基が並び、その左端。道路改良で地蔵堂や石碑類を移転したのかも。台石3段目はコンクリート製だ。
 松江市には自然石型が多く、墓石型はこの碑を含めて八束町に3基あるだけで、2基は来待石、1基は御影石。



【松江市34】松江市八束町遅江 お堂（海禅寺）前 **不明**

所在地 松江市八束町遅江 港から少し住宅地に入った場所にあるお堂（海禅寺）の前の広場

北緯35°29'37.59" / 東経133°11'09.78"



(単位：cm)
 碑石 高さ62/幅31/奥行29
 台石1段目
 高さ19/幅43/奥行43
 台石2段目
 高さ17/幅55/奥行54

(調査日2021年4月22日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石正面】不明(現在は碑がやせて読めないが「泰雲院殿義岳良忠居士」だったと同地の門脇和也氏の話) 碑石左面に約10文字あり(これも読めない)。
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 遅江のお堂は波入と同様に海岸から少し入った場所であり、前の広場に他の3基とともに並び、右隣には昭和43年建立の「海禅寺建立記念碑」があり、そのときにセメントで補修されたのかもしれない。八束町では珍しい、台石まですべて来待石の墓石型だ。この碑の調査の際に火山洞窟学会会員の門脇和也氏と出会い情報を得る。



【松江市35】松江市八束町寺津 お堂横 **泰雲院殿**

所在地 松江市八束町寺津 広い道路の十字路に立つ地蔵堂横

北緯35°30'06.40" / 東経133°10'29.39"



(調査日2021年4月22日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石正面】泰雲院殿
 【そのほか】文字なし（碑石後面に文字らしきものがあるが読めない）
 【調査の経過】
 広い道路の十字路の地蔵堂の前に地蔵2体とともに立っている。台石に1円玉が供えてあった。
 碑は玄武岩で、碑石には穴が少ない石を使い、台石には穴が多いものが使われている。この組み合わせが八束町には多く、穴の多いものは大根島玄武岩と呼ぶという。石が硬いせいか、気候が乾燥しているのか、八束町の井戸公碑は傷みが少なく、苔が生えたものも少ない。

(単位: cm)
 碑石 高さ100/幅71/最大30
 台石1段目
 高さ33/幅108/奥行71
 台石2段目
 高さ27/幅132/奥行88



【松江市36】松江市八束町二子 二松睦会館 **泰雲院殿碑**

所在地 松江市八束町二子 善慶寺近くの二松睦会館前

北緯35°30'16.92" / 東経133°10'09.86"



(調査日2021年4月22日)

【建立年】平成23年(2011)再建
 【建立者】不明
 【碑石正面】泰雲院殿碑(右に芋代官)
 【碑石裏面】大森代官井戸平左衛門は飢饉対策に／甘藷栽培を奨励し人々を飢饉から救った／その偉業に深謝し碑を奉るも摩耗欠損したので／後世に伝えるため新しく顕彰碑を建立する／平成二十三年二月吉日
 【調査の経過】
 八束町の観光パンフレットに紹介されている碑。門脇氏の調査では阿弥陀堂(興福寺)とあるので、再建の際に少し場所が変わったのかもしれない。八束町で唯一の再建碑で、3段目の台石以外は御影石。

碑石 高さ79/幅29/奥行25
 台石1段目
 高さ18/幅41/奥行38
 台石2段目
 高さ24/幅53/奥行51
 台石3段目
 高さ39/幅83/奥行84



【松江市37】松江市八東町入江 児童公園 泰雲院殿

所在地 松江市八東町入江 港近くのバス待合所前の児童公園

北緯35°29'37.19"/東経133°09'37.13"



【調査の経過】
児童公園内にお堂、後ろには学習等供用施設があり、公園の前には駐車場もあって、開けた場所。左右に1基ずつ、少し離れた場所に別の立派な碑がある。大根島玄武岩を使った、八東町らしい碑。碑石の高さは176センチもある、町で最大の碑。
玄武岩は硬く、穴も多くあって目も荒いので、傷んではいないが小さい文字が読みにくい。
(調査日2021年4月22日)

【建立年】天保6年(1835)
【建立者】組中
【碑石正面】泰雲院殿(右に)天保六年未四月吉日
【碑石右面】石工久助
【台石左面】代/組中/年寄佐一郎(ほかに三人の名があるが読めない)



(単位: cm)
碑石 高さ176/幅82/奥行58
台石1段目
高さ17/幅108/奥行106

【松江市38】松江市八東町波入 お堂(円通寺) 泰雲院殿

所在地 松江市八東町波入 港から少し入った場所にあるお堂(円通寺)

北緯35°29'15.78"/東経133°10'35.82"



【調査の経過】
令和2年度の照会調査で、波入の全隆寺のご住職から情報が寄せられた碑。お堂の前にこの碑だけが立っている。石は大根島玄武岩で、硬い石のため傷みはないが、碑石左右面の小さい文字は読みにくい。
宮本調査では八東町には7基となっていたが、8つのすべての集落に井戸公碑があることが判明した、記念すべき碑だ。
(調査日2020年6月16日)

【建立年】天保6年(1835)
【建立者】(年寄名等あり)
【碑石正面】泰雲院殿
【碑石右面】卯左工門/組親/三助柳吉/伊兵衛治助理助
【碑石左面】天保六年未五月立之/年寄為治兵衛代/石工安兵衛

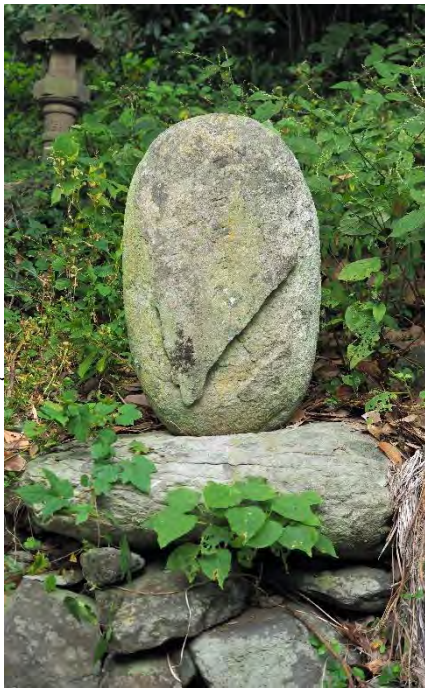


碑石 高さ155/幅54/奥行46
台石1段目
高さ24/幅79/奥行68
台石2段目
高さ25/幅110/奥行88

【知夫村01】知夫村多沢 お堂裏手 **井戸平左……**

所在地 隠岐郡知夫村多沢 お堂裏手

北緯36° 00' 34.80" / 東経133° 02' 57.51"



(単位：cm)
 碑石 高さ64/幅40/奥行23
 台石 高さ24/幅80/奥行80

(調査日2018年11月8日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸平左……
 【そのほか】なし
 「調査の経過」
 隠岐諸島の井戸公碑の説明は、「島前の文化財第6号」(昭和51年)の「芋代官碑/宇野力男」の記事も参考にして記述する。地元の方に案内していただいた。
 多沢のお堂裏にもう1棟お堂があり、その裏山の法面にある巨木の下に碑があり、ほかの石碑や灯籠もある。
 海辺の楕円形の自然石だがあまり堅くないようで、正面は下三分の一が剥離していて、彫られた文字も浅くて読みづらい。



【知夫村02】知夫村郡 一宮神社参道階段右手 **井戸平左衛門正明□□**

所在地 隠岐郡知夫村郡 一宮神社参道階段右手

北緯36° 00' 48.29" / 東経133° 02' 31.11"



(単位：cm)
 碑石 高さ65/幅40/奥行25

(調査日2018年11月8日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸平左衛門正明□□ (右に) 享保十八年 (左に) 五……
 【そのほか】文字なし
 「調査の経過」
 地元の方に案内していただいた。港の近くにある一宮神社の参道の階段右手に立っている。地元の方によると、参道階段の下に石碑がいくつも並んでいたが、道路拡幅の時にこの碑は階段右側に移されたという。碑の下部が土の中に埋まっているので下の文字が読めない。また、剥離はないものの石がやせてきたのか、文字が薄くなっている読みづらい。白っぽい苔が生えている。



【知夫村03】知夫村大江 お堂左手 **井戸平左衛門正明灵代**

所在地 隠岐郡知夫村大江 お堂左手

北緯36° 00' 36.59" / 東経133° 02' 23.99"



(単位：cm)
 碑石 高さ72/幅46/奥行29
 台石 高さ10/幅85/奥行61

〔建立年〕不明
 〔建立者〕大江村中
 〔碑石前面〕井戸平左衛門正明灵代(右に)享保十八年/大江(左に)五月廿六日/村中
 〔碑石左右裏面〕なし
 〔調査の経過〕
 地元の方に案内していただいた。集落の外れの三差路の辻にお堂があり、その左手の道路沿いに祠や地蔵、石碑などが整然と並べられている。井戸公碑は一番お堂寄りに立っている。碑石は前2基より目の細かい硬そうな自然石で、彫られた文字は浅いが比較的読みやすい。白っぽい苔と緑の苔が生えている。
 建立者がわかるのはこと仁夫(No.04)の2基だけだ。
 (調査日2018年11月8日)



【知夫村04】知夫村仁夫 お堂右手 **井戸平左衛門正明靈代**

所在地 隠岐郡知夫村仁夫 お堂右手

北緯36° 00' 31.31" / 東経133° 01' 53.14"



碑石 高さ99/幅24/奥行21
 台石1段目 高さ19/幅36/奥行35
 台石2段目 高さ16/幅49/奥行47

〔建立年〕不明
 〔建立者〕村中
 〔碑石前面〕井戸平左衛門正明靈代
 〔碑石右面〕施主村中〔碑石左面〕世話人/宇賀村/小倉清左エ門/上原弥五郎
 〔そのほか〕文字なし
 〔調査の経過〕
 地元の方に案内していただいた。仁夫のお堂は建物右手に地蔵や石碑が整然と並べられており、左から二番目に井戸公碑がある。知夫村唯一の墓石型の碑で、建立者が前碑(No.03)とこの碑だけ彫ってある。碑石は軟らかそうだが左右面の刻字も読める。傷みはないが白っぽい苔が生えている。
 (調査日2018年11月8日)



【知夫村05】知夫村古海 愛宕神社境内（拝殿左手） 泰……………

所在地 隠岐郡知夫村古海 愛宕神社境内（拝殿左手）

北緯36° 01' 48.21" / 東経133° 01' 26.06"



（調査日2018年11月8日）

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰……………
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。愛宕神社と姫宮神社が同じ場所であり、碑は愛宕神社の左手の石碑、祠群の中にある。「島前の文化財」には「(石は)海から運ばれたものである。文字はないが土地の古老が芋神様と伝え、知夫村誌にも、五月二十六日・九月二十六日を縁日とする」と書かれている。軟らかそうな、少し緑がかつた灰色の自然石。傷みはないようだが、痩せているのだろう。文字が読めなくなっている。白い苔が生えている。



(単位：cm)

碑石 高さ132/幅38/奥行40

【西ノ島町01】西ノ島町宇賀 県道沿い 倉ノ谷との境 泰雲院殿義岳良忠大居士碑

所在地 隠岐郡西ノ島町宇賀 県道沿い 倉ノ谷との境

北緯36° 07' 01.22" / 東経133° 04' 24.74"



（調査日2018年11月7日）

【建立年】昭和55年（1980）再建
 【建立者】宇賀・倉ノ谷
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士碑（左に）井戸平左衛門正明
 【碑石右面】昭和五十五年九月
 【碑石左面】宇賀 倉ノ谷他六十二名 世話人/板谷敬/下間幸市/濱本友三郎
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。旧碑が傷んだため御影石で再建された。近くに旧碑は見当たらなかった。旧碑は来待石製で旧道トリゴエ坂から海岸道路のこの場所に移設された。それが傷んだため再建されたもの。海に向かって建っている。



(単位：cm)

碑石 高さ126/幅32/奥行23

【西ノ島町02】西ノ島町物井 大日堂前 (梵)泰雲院殿儀岳良忠居士

所在地 隠岐郡西ノ島町物井 大日堂前

北緯36° 06' 48.02" / 東経133° 02' 58.41"



碑石 高さ50/幅21/奥行16
台石 1段目
高さ13/幅31/奥行24
台石 2段目
高さ20/幅41/奥行39

(調査日2018年11月7日)

【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石前面】(梵)泰雲院殿儀岳良忠居士
【碑石右面】丑二月二十六日伊藤平右エ門
【そのほか】文字なし
【調査の経過】
地元の方に案内していただいた。大日堂入口の五輪塔群の中にちよつと窮屈そうに立っている。石が軟らかく、文字が薄くなつていて読みにくい。碑石前面の下部が剥落しており「居士」の文字は剥落片を読んだ。右面の文字には誤字が多い。井戸公の姓や命日などが違っているが、情報が正しく伝わらなかったのかもしれない。



【西ノ島町03】西ノ島町別府 黒木天皇山下 (梵)泰雲院殿義岳良忠大居士□□位

所在地 隠岐郡西ノ島町別府 黒木天皇山下 県道沿い

北緯36° 06' 45.49" / 東経133° 02' 41.96"



(単位：cm)
碑石 高さ110/幅31/奥行26
台石 高さ37/幅46/奥行43

(調査日2018年11月7日)

【建立年】不明
【建立者】村中
【碑石前面】(梵)泰雲院殿義岳良忠大居士□□位(右に「享保十八年五月二十六日」と彫つてあると思われるが判然としない)
【台石前面】村中
【調査の経過】
地元の方に案内していただいた。黒木御所跡の近くに広い県道があり、道路沿いに高さ約70cmの広い基礎をして、石碑や地藏が並んでいる。井戸公碑は左から2番目に立っている。この県道ができたときにこのような整備がなされたのだろう。碑石は軟らかく、文字が読みにくくなっている。台石の「村中」は大きな文字で、誇らしくさえ見える。



【西ノ島町04】西ノ島町美田尻 美田尻堂横 **(梵)泰雲院殿儀**……

所在地 隠岐郡西ノ島町美田尻 美田尻堂横

北緯36° 06′ 35.68″ / 東経133° 02′ 19.83″



(単位：cm)
 碑石 高さ50/幅22/奥行15
 台石 高さ18/幅35/奥行26

【建立年】不明
 【建立者】(世話人名あり)
 【碑石前面】(梵)泰雲院殿儀……
 【碑石左面】世話人 文七
 【そのほか】不明
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。美田尻堂左手の石仏群の中にある。石が軟らかく、前面の「儀」の下が剥落しているほか、全体に文字が浅くなっている。苔が全体に生えている。「島前の文化財」で紹介された昭和51年には、前面の「梵字泰雲院殿儀岳良忠大居士霊位」と右面の「五月十六日 伊藤平右エ門」が読めたとある。風化の早さから、隠岐島の自然条件の厳しさが感じられる。花立てには新しいシキミが供えてあった。
 (調査日2018年11月7日)



【西ノ島町05】西ノ島町大津 長福寺墓地入口左手 **泰雲院殿義岳良忠大居士**

所在地 隠岐郡西ノ島町大津 長福寺墓地入口左手

北緯36° 05′ 56.35″ / 東経133° 00′ 54.99″



(単位：cm)
 碑石 高さ142/幅76/奥行40

【建立年】明治14年(1881)
 【建立者】村中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士(右に) 村中/明治十四年十二月三日 世話人 前田 松本(左に) 井戸平左エ門
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。寺の正面でなく道路沿いにある伝承館(大津堂)側から墓地に入ってすぐの場所にある。碑石は目の粗い、大ぶりで薄い自然石。文字の彫りは薄いがまだ読める。苔は比較的少ない。前の木が大きくなくて碑全体が見えにくくなっている。
 (調査日2018年11月7日)



【西ノ島町06】西ノ島町小向 木村家裏旧道沿い山側 なし

所在地 隠岐郡西ノ島町小向 木村家裏旧道沿い山側

北緯36° 06' 08.47" / 東経133° 00' 42.75"



【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石全面】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。木村家の裏の斜面にある細い道を少し上がった場所にある。自然石で、刻字は初めからなかったと思われる。碑銘はないが「芋神様」として口承で大切に守られてきて、供養をしていたという。この日も新しい榊が供えられていた。元は少し上の旧道に立っていたものを移動。その際埋められて地上部の高さが低くなったと思われる。碑石は苔が多くて白っぽく見えるが、堅そうな茶色がかった石で、傷みはないようだ。
 (調査日2018年11月7日)



(単位：cm)

碑石 高さ66/幅41/奥行24

【西ノ島町07】西ノ島町船越 運河沿い道路横 泰雲院義岳良忠居士

所在地 隠岐郡西ノ島町船越 運河沿い道路横

北緯36° 06' 25.67" / 東経133° 00' 15.32"



【建立年】昭和46年(1971)再建
 【建立者】船越区
 【碑石前面】泰雲院義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八年五月二十六日
 【碑石左面】御代官井戸平左衛門正朋
 【碑石裏面】船越区昭和四十六年四月一日建立
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。船引運河の上の橋を渡って海の方に進んだ左側に、高さ約45センチのコンクリート製の広い基礎を造り、その上に地蔵と並んで立っている。旧碑と思われる石も寝かせてある。小さいが御影石で凜としており、たっぷりのシキミも供えてある。再建した皆さんに敬意を表したい。
 (調査日2018年11月7日)



碑石 高さ49/幅18/奥行15
 台石1段目 高さ15/幅28/奥行25
 台石2段目 高さ15/幅39/奥行32

【西ノ島町08】西ノ島町本郷 専念寺参道右手 泰雲□□塚

所在地 隠岐郡西ノ島町本郷 専念寺参道右手

北緯36° 05' 39.25" / 東経132° 59' 46.47"



碑石 高さ67/幅37/奥行36
 台石1段目
 高さ20/幅54/奥行54
 台石2段目
 高さ27/幅73/奥行73

(調査日2018年11月7日)

【建立年】明治19年(1886)
 【建立者】不明
 【碑石前面】不明(「島前の文化財」に「泰雲□□塚」とあり)
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。専念寺の墓地の下の参道に、ほかの石像と並んで立っている。碑石の前面がくぼんだように剥離しており、文字が読めない。他の面も台石も文字は全く読めなかったが、地元の方が元ご住職に井戸公碑であることを確認してくれた。
 「島前の文化財」には碑銘のほか「来待石造り、台石四段」明治十九年」などあるので、碑銘と建立年はこれに拠った。



【西ノ島町09】西ノ島町赤之江 共同墓地海側の端 甘諸代官之碑

所在地 隠岐郡西ノ島町赤之江 共同墓地海側の端

北緯36° 04' 56.53" / 東経132° 58' 36.56"



碑石 高さ146/幅76/奥行37
 台石1段目
 高さ21/幅90/奥行91
 台石2段目
 高さ28/幅125/奥行124
 台石3段目(石組み)
 高さ57/幅190/奥行194

(調査日2018年11月7日)

【建立年】大正8年(1919)
 【建立者】不明
 【碑石前面】甘諸代官之碑(左に) 隠岐島司正六位勲五等千代延 聡健書
 【碑石後面】為謝恩大正八年四月 院建立
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。赤之江の共同墓地は海沿いの道路から少し山道を登った場所であり多くの墓が立っている。井戸公碑は一番海側に、海を向いて立っている。
 石組みの3段目の台石も大きく、隠岐諸島で最大、威風堂々たる碑。墓参する人は多く、来た人が花や榊を供えたり、碑の周りの草を抜いたりしている。今日も海からの風を受けながら確然として立っているだろう。



【海士町01】海士町豊田入口 県道沿い地藏堂横 **井戸平左エ門正明神霊**

所在地 隠岐郡海士町豊田入口 県道沿い地藏堂横

北緯36°06'21.80" / 東経133°07'24.79"



(調査日2018年11月6日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】井戸平左エ門正明神
 霊(右に)享保十八年癸(左に)
 丑五月廿六日
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。豊田に入る県道沿いに大きな地藏堂があり、その右手に立っている。
 穴が多数あいた海の石を使っているようで、台石も同様の石材だ。前面の碑銘を彫る場所だけ平らに磨いて文字を彫っている。
 隣の地藏堂ともどもきれいに管理されており、花立てに榊が供えてあった。



(単位: cm)

碑石 高さ156/幅55/奥行26
 台石 高さ32/幅120/奥行70

【海士町02】海士町保々見 清水寺下の池畔 **伊藤平左エ門神霊**

所在地 隠岐郡海士町保々見 清水寺下の池畔

北緯36°05'02.38" / 東経133°06'45.81" 灵



(調査日2018年11月6日)

【建立年】明治19年(1886)
 【建立者】當村中
 【碑石前面】伊藤平左エ門神霊
 【碑石右面】享保十八癸丑五月廿六日
 【台石】當村中(右に)明治十九年(左に)世話人/井上要四郎
 【調査の経過】
 地元の方に案内していただいた。保々見の清水寺の下、道路沿いに「天川(てんがわ)の水」がわき出る池があり、その畔に他の石仏と並んでいる。「井戸」が「伊藤」となっている。「霊」は「霊」の俗字。
 細くてすらりと長い碑石が幅の広くない台石の上に乗る形は、知夫村No.04、西ノ島町No.03と似ており、墓石型8基のうち3基がこの型。隠岐型と呼ばれるでもいいスタイルだ。



(単位: cm)

碑石 高さ107/幅24/奥行22
 台石 高さ28/幅37/奥行35

【境港市01】境港市渡町下 とんど場 真砂神

所在地 鳥取県境港市渡町下 とんど場

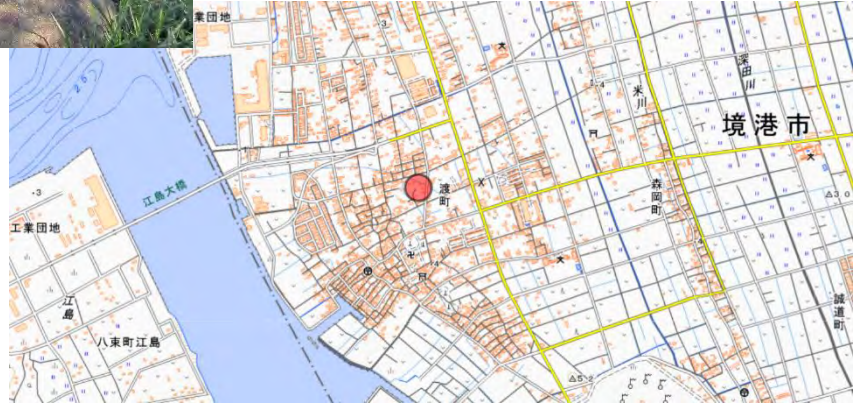
北緯35°31'10.73" / 東経133°12'42.46"



【建立年】天保4年(1833)
 【建立者】不明
 【碑石前面】真砂神
 【そのほか】文字不明
 【調査の経過】
 砂に埋もれていたのを明治19年にここに移設したという。碑石は軟らかくてかなり傷みが進んでいる。
 碑銘は出雲大社からもらっており、同時にもらった碑文には「(前略)常盤に栄て田豊海幸なき年も賑ひぬるは、井戸氏の功業になむ有りける(後略)」とある。碑石のどこかに彫られていたが、現在読めない。建立年は碑文が書かれた年である。

(調査日2022年11月7日)

碑石 高さ70/幅30/奥行32
 台石1段目 高さ14/幅46/奥行45
 台石2段目 高さ15/幅61/奥行60
 台石3段目 高さ10/幅75/奥行75
 台石4段目 高さ55/幅202/奥行207



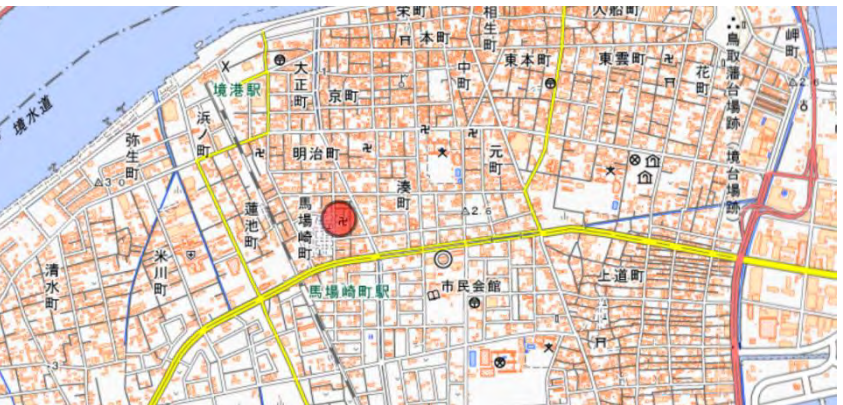
【境港市02】境港市馬場崎町 光祐寺 秦雲院殿

所在地 鳥取県境港市馬場崎町 光祐寺 参道入口

北緯35°32'27.20" / 東経133°13'39.74"



【建立年】天保9年(1838)
 【建立者】不明
 【碑石前面】秦雲院殿
 【碑石右面】十三世 孝誉代
 【碑石左面】井戸平左衛門正明
 【碑石後面】天保九戌戌六月立
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 光祐寺の境内に入ってすぐ右手にある。鳥取県内にある井戸公碑は全部、それぞれの市の文化財に指定されており、この碑の後ろには境港市の文化財の解説板が立っている。
 碑石は茶色がかった自然石で表面は磨いてあるようにきれい。亀裂が少しある。碑の前には御影石の花立て、水鉢、そして立派な香炉があり、花立てには生花とシキミがいっぱい供えてあるなど手厚い扱いだ。



(単位: cm)

碑石 高さ103/幅69/奥行35
 台石 高さ24/幅65/奥行61

【境港市03】境港市外江町 補岩寺 泰雲院殿

所在地 鳥取県境港市外江町 補岩寺山門手前右手

北緯35°32'01.01" / 東経133°12'18.89"



【建立年】天保10年(1839)
 【建立者】村中
 【碑石前面】泰雲院殿(右に)干
 時天保十己亥九月立焉(左に)
 施主 村中
 【碑石左面】世話人/小西屋幾蔵
 /出雲屋亦五郎/但馬屋権三
 郎/米屋源右エ門
 【台石前面】(読めず)
 【調査の経過】
 補岩寺の門と山門の間が駐車
 場になっており、門を抜けたす
 ぐ右手に、別の碑と並んで立っ
 ている。
 碑石はかなり目の粗い自然石
 で、碑銘以外の小さい文字は読
 みにくい。台石は小さな穴がた
 くさんあいた海石のような石
 質で、前面に人名が彫ってある
 ようだが、読めなかった。
 (調査日2022年11月7日)



(単位: cm)

碑石 高さ98/幅56/奥行25
 台石 高さ30/幅83/奥行64

【境港市04】境港市財ノ木町 文化会館 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 鳥取県境港市財ノ木町 財ノ木町文化会館 前庭の左側

北緯35°30'18.18" / 東経133°14'52.29"



【建立年】慶応元年(1865)
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大
 居士
 【碑石右面】慶応元丑八月廿六日
 【碑石左面】石州銀山先御代官/
 井戸平左エ門
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 近くまで行ったが車で入れず、
 中浜公民館で場所を聞いて、歩
 いて行った。お堂のような建物
 が「財ノ木町文化会館」で、建
 物に向かって左側に六地藏な
 どと並んで立っている。
 碑石は軟らかい石の墓石型で、
 白っぽい苔は生えているが、碑
 石はやせておらず、角もしっかり
 していて傷みもなく、小さい
 文字も読めた。
 (調査日2022年11月7日)



碑石 高さ75/幅29/奥行26
 台石1段目
 高さ24/幅46/奥行42
 台石2段目
 高さ24/幅68/奥行62
 台石3段目
 高さ15/幅89/奥行86

【境港市05】境港市麦垣町 永井家墓地 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 鳥取県境港市麦垣町 永井家墓地

北緯35°30'33.38" / 東経133°15'10.33"



(調査日2022年11月7日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠居士(右に) 享保十八五月廿六日
 (左に) 石州井戸平左エ門
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 麦垣町の国道431号沿いの共同墓地の永井家の墓地に3基の石碑があり、その一番右の碑が井戸公碑だ。ほかの2碑に比べて少し小ぶりだ。軟らかい石質の墓石型の碑だ。
 白っぽい苔は生えているものの、碑石に傷みはなく、角もすっかりしていて、文字は問題なく読めた。

(単位: cm)

碑石 高さ55/幅24/奥行18
 台石1段目 高さ18/幅34/奥行31
 台石2段目 高さ5/幅47/奥行43



【境港市06】境港市麦垣町 麦垣神社 泰雲院殿義岳良忠大居士

所在地 鳥取県境港市麦垣町 麦垣神社境内(麦垣町会館裏)

北緯35°30'36.30" / 東経133°15'02.23"



(調査日2022年11月7日)

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士(右に) 享保十八五月廿六日(左に) 石州銀山御領井戸平左エ門政明
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 資料には「麦垣町会館別館裏」とあったがそこにはなく、地元の方に教えてもらって麦垣神社に向かった。神社は麦垣町会館の裏にあたり、力石と思われる丸い石と井戸公碑が御影石の枠の中に収まっていた。
 後刻中浜公民館で、令和4年にここに移設したと聞いた。
 碑石は少し茶色がかった硬そうな自然石で、傷みも苔もなかった。

(単位: cm)

碑石 高さ61/幅42/奥行28
 台石 高さ7/幅65/奥行49



【境港市07】境港市中野町 村田家墓地 **不明**

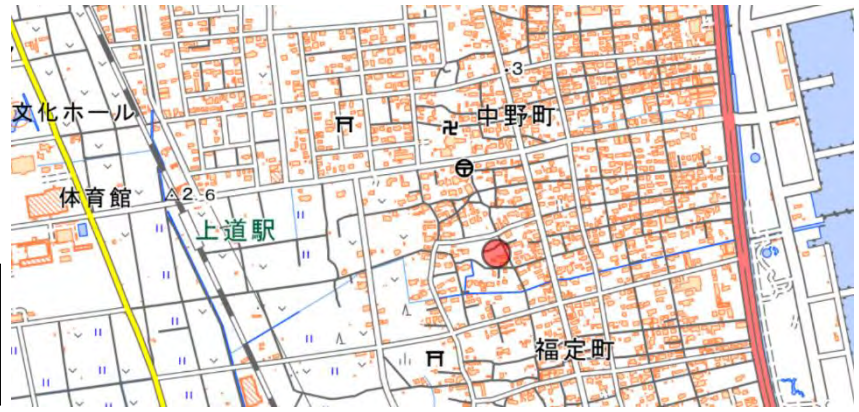
所在地 鳥取県境港市中野町 村田家墓地 民家裏 井戸の前

北緯35°31'50.57" / 東経133°14'16.07"



(調査日2022年11月7日)

【建立年】不明
【建立者】不明
【碑石前面】不明
【碑石右面】…保十八年/五月二十…
【碑石左面】石州銀山…
…/前御代官…
【そのほか】文字不明
【調査の経過】
中野町の広い墓地の最も南側、村田家墓地の隣、民家のブロック塀沿いに立っている。
境港市の学頭和夫氏の著書「井戸平左衛門」には、村田家と一緒に当成↓麦垣↓中野と移動してきたのではないかとある。
碑石は墓石型で軟らかいため傷みが激しく、剥離もあって文字がまとまっては読めなくなっている。花立てには新しいシキミが供えてあった。



(単位：cm)

碑石 高さ68/幅30/奥行28
台石 高さ13/幅45/奥行45

【米子市01】米子市菟津町 元任宗寺前 **泰雲院展義岳良忠大居士**

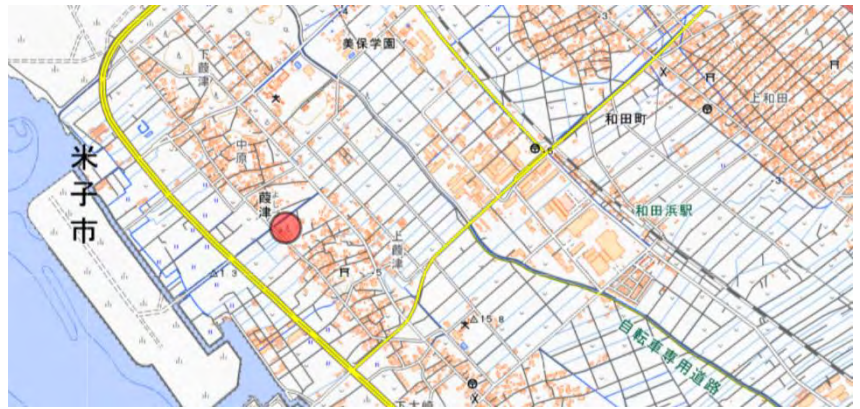
所在地 鳥取県米子市菟津町 元任宗寺前

北緯35° 28' 48.65" / 東経133° 15' 02.61"



碑石 高さ254/幅82/奥行43
 台石1段目
 高さ40/幅123/奥行78
 台石2段目
 高さ33/幅203/奥行160

【建立年】明治24年（1891）
 【建立者】菟津村中
 【碑石前面】泰雲院展義岳良忠大居士
 【碑石後面】享保十八年五月二十六日／井戸平左エ門政明塚／菟津村中／明治二十四年五月一日堂主金山龍山代ニ於テ建之／世話係／長谷川準／石橋吉太郎／安田松四郎／安田勝造
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 今は寺はなく、敷地が二段になつていて、上の段には墓がたくさんあり、下の段には墓のほか石碑がかなり立っている。井戸公碑もその一つで、目の粗い海石のような大きな自然石で、高さ327センチと県内随一だ。
 （調査日2022年10月27日）



【米子市02】米子市和田町 雲泉寺 **泰雲院殿義岳良忠大居士**

所在地 鳥取県米子市和田町 雲泉寺 境内

北緯35° 29' 11.22" / 東経133° 15' 53.73"



碑石 高さ87/幅34/奥行34
 台石1段目
 高さ27/幅54/奥行53
 台石2段目
 高さ27/幅79/奥行79

【建立年】天保3年（1832）
 【建立者】村中
 【碑石前面】泰雲院殿義岳良忠大居士
 【碑石右面】享保十八年癸丑五月二十六日「碑石左面」石見國銀山御領御代官／井戸平左衛門尉正明「台石前面」願主／村中
 【台石右面】天保三年／辰五月日／建之「台石左面」世話人／友左エ門／傳介／弥三八／藤右エ門／清五郎
 【調査の経過】
 雲泉寺は龍泉寺の分寺で地元ではどえ（堂）と呼ばれている。弓ヶ浜半島最古の碑で、井戸公没後ちようど百年目の建立。碑石は墓石型で、情報が豊富に彫られているが、やせているのか、小さい文字は読みにくい。
 （調査日2022年10月27日）



【米子市03】米子市富益町 富益神社 **井戸正嗣大人碑**

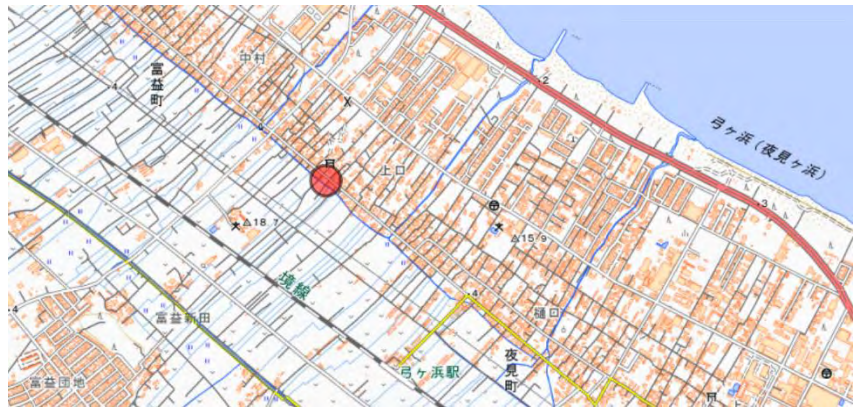
所在地 鳥取県米子市富益町 富益神社

北緯35°28'23.67" / 東経133°17'08.30"



碑石 高さ153/幅64/奥行19
 台石1段目
 高さ32/幅93/奥行48
 台石2段目
 高さ23/幅133/奥行89
 台石3段目
 高さ21/幅181/奥行132

〔建立年〕明治41年（1908）
 〔建立者〕村中
 〔碑石前面〕井戸正嗣大人碑（右に）明治四十一年十二月建之（左に）弓灣書「台石前面」寄附者／村中／村長／手島善四郎／発起人／湯浅久市郎／世話係／井田国四郎／足立辰十郎／佐々木清重／湯浅久市郎／足立磯吉／吉岡喜代松／松本大五郎／足立市太郎／佐々木岩松／石工西村益次郎
 〔そのほか〕文字なし
 〔調査の経過〕
 富益神社の駐車場に立つ。目の粗い自然石で前面だけ磨いて碑銘が彫つてある。「大人」は漢文で「偉大ですぐれた人の尊称」。すべての井戸公碑の中で唯一のもの。
 （調査日2022年10月27日）



【米子市04】米子市夜見町 迎接院 **泰雲院殿義岳良忠大居士**

所在地 鳥取県米子市夜見町 迎接院 境内左手道路側

北緯35°27'55.29" / 東経133°17'59.75"



碑石 高さ78/幅31/奥行27
 台石1段目
 高さ28/幅43/奥行41
 台石2段目
 高さ17/幅66/奥行64

〔建立年〕不明
 〔建立者〕（世話人名あり）
 〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠大居士
 〔碑石右面〕……門……政明
 〔碑石左面〕世話人／足立喜三郎／国立仲右エ門／西村定七／渡邊和五郎／門脇元七
 〔そのほか〕文字なし
 〔調査の経過〕
 道路から寺に入つてすぐ左に立っている。墓石型で和田の碑（No.02）に似ている。迎接院では毎年6月に地域ぐるみでも代官まつりを営んでいる。碑石が傷んできたのをご住職が気にしておられるように、剥落や亀裂があり、文字が読みにくくなっている。黄色の供花が鮮やかに彩りを添えていた
 （調査日2022年10月27日）



【鳥取市01】鳥取市青谷町灘町 共同墓地入口 泰雲院殿義岳良忠居士

所在地 鳥取県鳥取市青谷町灘町 青谷高校裏 共同墓地入口

北緯35°31'17.19" / 東経133°59'55.53"



〔建立年〕安政3年(1856)
〔建立者〕(世話人名あり)
〔碑石前面〕泰雲院殿義岳良忠居士(右に) 享保十八年丑五月廿六日卒(左に) 石州銀山附御代官俗稱/贈従四位 井戸平左衛門/安政三年建之/世話人/弥七/權十
〔二段目台石〕工川六/岩吉/直次郎
〔調査の経過〕
青谷高校裏の共同墓地の入口に立つ。前には青谷町の文化財の標柱と説明板、「芋塚ふれあい広場」の柱が立っている。碑は地元の名工「川六」こと尾崎六郎兵衛の作。芋に見える石とそれにふさわしい台石を海から運んだと言われており、川六の作品の一つに数えられる。
(調査日2022年10月27日)



碑石 高さ164/幅107/奥行80
台石1段目
高さ62/幅170/奥行116
台石2段目
高さ7/幅154/奥行137

【尾道市01】尾道市因島洲江町 正善寺境内 **泰雲院殿儀岳良忠大居士**

所在地 広島県尾道市因島洲江町 正善寺境内

北緯34° 17' 11.72" / 東経133° 08' 31.40"



碑石 高さ146/幅46/奥行39
台石1段目
高さ29/幅75/奥行76
台石2段目
高さ36/幅108/奥行106

〔建立年〕文久3年(1863)
〔建立者〕當村世話人中
〔碑石前面〕泰雲院殿儀岳良忠大居士
〔碑石右面〕當村世話人中造立／文久三癸亥歲九月上浣吉日
〔碑石左面〕古岩獨釣信士／蘭庭芳秀信女
〔そのほか〕文字なし
〔調査の経過〕
瀬戸内海にサツマイモをもたらしたのは大三島の下見吉十郎である。正善寺の井戸公碑の碑石左面には下見吉十郎とその妻の法名、古岩獨釣信士／蘭庭芳秀信女が彫られており、3人に対する頌徳碑になっている。ここでは毎年8月30日に芋地藏供養祭が営まれ、井戸公と下見吉十郎を偲んでいる。
(調査日2022年10月21日)



【笠岡市01】笠岡市笠岡町 威徳寺 **泰雲院義岳良忠居士**

所在地 岡山県笠岡市笠岡町 威徳寺 境内右手

北緯34°30'29.13" / 東経133°30'07.01"



碑石 高さ141/幅65/奥行64
 台石1段目 高さ24/幅58/奥行58
 台石2段目 高さ32/幅82/奥行82
 台石3段目 高さ28/幅112/奥行113
 台石4段目(石組) 高さ46/幅187/奥行189

【建立年】不明
 【建立者】不明
 【碑石前面】泰雲院義岳良忠居士
 【碑石右面】享保十八癸丑天五月廿六日「碑石左面」石見/備後/備中/國御代官/武州江府住/井戸平左衛門正明
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】井戸公の墓である。明治の初め廃仏毀釈で裏山に放置されていたものを、この場所に移転、整備した。碑石は山陰の軟らかい石でなく、硬い感じの石が使われている。写真に写っていないが墓の前に一對の石灯籠があり、向かって左側に「石刃御代官所村人」の文字が読める。威徳寺では毎年5月26日に法要を営んでいる。
 (調査日2022年10月21日)



【笠岡市02】笠岡市笠岡町 井戸公園 **井戸明府碑**

所在地 笠岡市笠岡町 井戸公園 中央奥

北緯34°30'30.59" / 東経133°30'04.04"



碑石 高さ351/幅188/奥行64
 台石1段目 高さ72/幅307/奥行135
 台石2段目 高さ85/幅433/奥行371

【建立年】昭和19年(1944)
 【建立者】岩瀬 亮
 【碑石前面】井戸明府碑(左に) 忠正(下に) 碑文(次葉に記載)
 【碑石右面】建設基金醸出者/千葉県 岩瀬亮/建設幹旋者 渡辺弁三
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】威徳寺のすぐ裏の井戸公園は大正時代に地元の皆さんが桜を植えて作った公園。現在は市の都市公園になっている。この碑は非常に大きく、碑石だけで高さ351センチ、全体では5メートルを超え、台石も巨石を使っている幅が433センチもある。長文の碑文は戦時下の甘藷増殖を訴えている。
 (調査日2022年10月21日)



【笠岡市02】笠岡市笠岡町 井戸公園 井戸明府碑 続き (碑文)



芋代官井戸正朋公頌徳ノ碑
 題額 中央農業会長従三位勲二等伯爵酒井忠正
 笠岡ハ芋代官贈従四位井戸正朋公終焉ノ地ナリ 公幼名正明後正朋ト改ム通称平左衛門 又安右衛門ト称ス 寛文二年江戸ニ生ル 父ハ野中八右衛門重吉 母ハ町田氏 旗本井戸平左衛門正和ニ養ハレ 井戸氏ヲ冒ス 元禄十五年勘定役ニ進ミ 享保十六年六十歳ヲ以テ石見銀山大森領代官ニ補セラル 盖シ大森銀山ノ監督及ビ石見 備中 備後ノ三国内幕領ノ支配ヲ兼ヌルノ重任タリ 九月二日命ヲ拝シ 十三日早クモ大森ニ着任ス 其恪勤知ルベキナリ 銀山領ノ地 砂磧多ク耕種ニ適セザルヲ慨キ 一雲水僧ノ説ヲ容レ 嘱シテ琉球芋ヲ薩摩ニ求メ 栽培増殖セシメテ救荒ノ対策トナシ 頗ル偉功ヲ挙グ 爾来関西ノ地 凶歳尚ホ克ク飢餓ヲ免ルルモノ 公ノ遺徳ニ負フ所極メテ大ナリ 翌十七年所謂享保ノ大飢饉ハ是ヲ免ルルコト能ハズ 同年十一月 公ハ幕命ヲ待ツノ暇ナク君ノタメ民ノタメ一命ヲ捨テシコトハ我平生ノ志ナリト 決然租ヲ免シ倉廩ヲ開キテ貢米ヲ飢民ニ賑恤スル等 一意救済ノ道ヲ講ズ 為メニ領内一人ノ餓死スル者無キヲ得タリ 然レドモ独断ノ責ヲ負ヒ 嗣正武ニ一書ヲ留メ 五月二十七日夜 笠岡陣屋ニ於テ心静カニ自裁シ畢ンヌ行年六十二 泰雲院義岳良忠居士ト諡シ 威徳寺境内ニ葬ル 高邁義烈奮ニ甘藷増産指導ノ先覚タルノミナラズ 亦以テ醇乎鋼常ヲ扶植スルノ先賢トシテ 永ヘニ懐仰スベキナリ 宜ナル哉 治下ノ民 其恩澤ヲ仰ギ今尚ホ毎歳追祭ヲ行ヒテ感恩ノ誠ヲ致セルコト 今ヤ大東亜戦下 甘藷増殖ノ急叫バルルノ時 公ノ炯眼遺徳ヲ推頌スルハ 豈独リ吾人ノ感慨ノミナラシヤ
 昭和十九年五月

岡山県農業会長
 原澄治 撰
 広島高等師範学校講師
 井上政雄書

【笠岡市03】笠岡市笠岡町 笠岡小学校 貫閣講堂前 井戸代官終焉之地

所在地 岡山県笠岡市笠岡町 笠岡小学校 校庭奥の貫閣講堂前
 北緯34° 30' 30.05" / 東経133° 30' 29.83"



【建立年】昭和27年(1952)
 【建立者】事蹟保存会
 【碑石前面】井戸代官終焉之地 (左に) 岡山縣知事 三木行治書
 【碑石後面】旧御陣屋の地図に因リ/自裁した位置を茲に定め/昭和二十七年十月建之/井戸代官事蹟保存会
 【そのほか】文字なし
 【調査の経過】
 笠岡小学校は明治初期は小田県庁、江戸時代は笠岡代官所であり、井戸公はこの場所であつた。門扉は今でも小学校の門として使われており、子どもたちはその門をくぐつて登下校し、校庭の奥にあるこの碑も毎日目にしている。碑銘は当時の岡山県知事の揮毫。
 (調査日2022年10月21日)



碑石 高さ76/幅52/奥行27
 台石1段目 高さ22/幅72/奥行65
 台石2段目(コンクリート) 高さ10/幅108/奥行86
 台石3段目 高さ69/幅150/奥行112

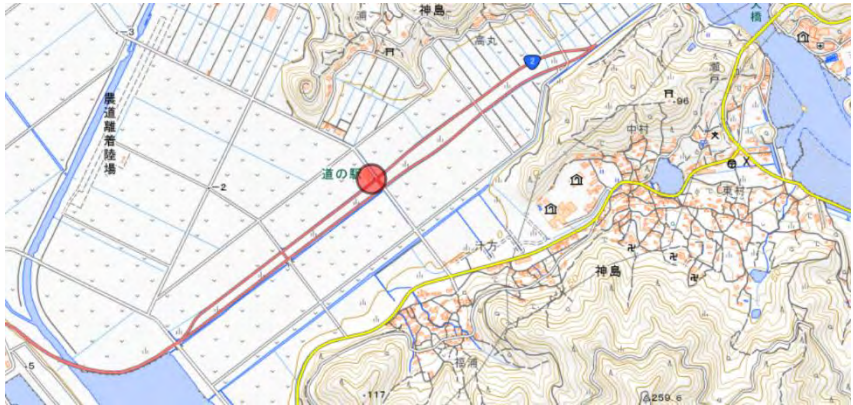
【笠岡市04】笠岡市カブト南町 道の駅ベイファーム **井戸明府碑**

所在地 岡山県笠岡市カブト南町 道の駅ベイファーム 直売所右

北緯 34° 28' 23.49" / 東経 133° 30' 01.15"



【建立年】平成23年（2011）
 【建立者】鳴本石材
 【碑石前面】井戸明府碑（上に）井戸公上半身レリーフ（下に）
 碑文（下欄に記載）「碑石裏面プレート」寄贈／鳴本石材株式会社／原石提供／鶴田石材株式会社／管理者 笠岡市
 【調査の経過】
 笠岡湾干拓地に道の駅が完成したときに建立された、笠岡市で最も新しい碑。大きな自然石で、台石がなく、碑石正面上部に井戸公の上半身のレリーフをあしらうなど、新しい時代の頌徳碑としてデザインも斬新。調査日には周辺で国道2号の付け替え工事が盛んに進んでいたため、完成すればさらに訪れる人が増えるだろう。
 （調査日2022年10月21日）



(単位: cm)
 碑石
 高さ 231 / 幅 123 / 奥行 69

【笠岡市04】笠岡市カブト南町 道の駅ベイファーム 井戸明府碑 続き (碑文)



井戸明府碑
 井戸平左衛門正明は、世に「いも代官」・「いも神様」とも呼ばれた名代官である。享保十八年（一七三三）五月、ここ笠岡の地で没し、墓は笠岡の威徳寺にある。享保十六年（一七三一）九月、六十歳にして石見銀山を受け持つ石見国大森（現島根県大田市）の代官に任命された。翌十七年から、備中国笠岡代官を兼務した。
 時に西日本地方一帯は未曾有の大飢饉となっていた。平左衛門は事態が一刻を争うと判断し、幕命を待たずに独断で代官所の米蔵を開放して、飢えた領民に米を与えたという。また、凶作に見舞われた農民のため年貢を大胆に免除し、領民に助け合いの心を説いた。
 さらに、やせ地でも取れる食物としてサツマイモを薩摩の国より取り寄せ栽培に成功し、飢饉をしのいだ。これらの優れた施策によって、井戸代官の支配地からは一人の餓死者も出さなかったと伝えられる。
 ここに、笠岡湾干拓地の道の駅「笠岡ベイファーム」の完成にあたり、井戸平左衛門正明の記念碑により、食の大切さを訴えるものです。現代の食に不自由しない時代のなかで、人々が食べる物も無く餓死していった過酷な当時に思いをはせて、恵まれた環境に常に感謝の気持ちを持たないことを誓い、海の幸と山の幸に恵まれた瀬戸内の自然豊かな笠岡の地に感謝するものです。
 平成二十三年八月吉日

第19代石見銀山領代官 井戸平左衛門正明
いも代官頌徳碑533基全覧

2023年4月30日 第2版発行

企画・編集・発行 大田市文化協会

〒694-0064 大田市大田町大田イ128

電話 0854-82-6630

FAX 0854-82-9952

Eメール ohda-bunka@ginzan-tv.ne.jp

定価 3,000円(税込)